九

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

東京日日新聞社
大阪毎日新聞社 主催政治展覽會外務省出品目錄

一、寫眞

一、明治廿七年日英通商航海條約寫眞（調印ノ頁及批准書表紙）　三
一、明治廿七年日伊通商航海條約寫眞（〃）　七
一、明治廿七年日米通商航海條約寫眞（〃）　三
一、明治廿八年日露通商航海條約寫眞（〃）　三
一、明治廿九年日獨通商航海條約寫眞（〃）　三
一、明治廿九年日佛通商航海條約寫眞（〃）　三
一、明治廿九年日清航海條約寫眞（〃）　七
一、明治廿八年日清講和條約寫眞（第一頁及調印ノ頁）　二
一、明治卅五年日英協約寫眞（調印ノ頁）　二
一、明治卅九年日露講和條約寫眞（第一頁及調印ノ頁）　二
一、昭和七年日滿議定書寫眞（調印ノ頁）　二
一、明治四十一年樺太島國境劃定書寫眞　六

外務省

一、樺太境線標識ニ關スル說明書寫眞　三
一、樺太境界標木寫眞　一
一、樺太境界標石寫眞　一
一、明治初年霞ケ關竝ニ外務省寫眞　三

二、地圖、統計圖表類

一、歐洲主要政治條約關係圖表　一
一、日本對外通商地圖　一
一、本邦貿易動態圖　一
一、本邦品別貿易圖　一
一、最近三ケ年本邦貿易情勢圖　一
一、本邦通商交涉一覽表　一
一、本邦對外貿易各月情勢圖　一
一、海外各地在留邦人人口表　一
一、海外在留本邦人送金額調査　一

外務省

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

三、參考資料類

一、大清國國書帙
一、條約調印本書形式見本
一、條約御批准書表紙及革嚢見本
一、大日本帝國旅券

四、紀念物類

一、條約改正ノ圖（油繪額面）
一、蒔繪椅子　（井上外相ガ條約改正ノ際使用セシモノ）
一、インクスタンド（〃　　）
一、硯箱、硯石ト水差付（〃　　）

五、圖書

一、大日本外交文書

外務省

は(イ)

12.2

次官

人事課長
會計課長
秘書官

東亞局長
歐亞局長
亞米利加局長
亞米利加第二課長
通商局長
通商局總務課長

條約局長
條約局第二課長

情報部長
情報部第二課長
文化事業部長
調査部長
調査部第二課長

昭和十三年三月十八日決裁濟

外務省

は(ト)

11.11

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

文書課長

文書課發送

主管 文書課長 主任

機密 普通 第 號

昭和 年 月 日附 附屬

受信人名

高裁案

発信人名

記錄件名

淨書 校正 (原稿) (淨書)

昭和十二年三月十八日起草
昭和十二年三月十八日決裁

		發信用	執務用	
主信				
附屬	甲			
	乙			
	丙			
	丁			
備考				

件名 東京日々新聞社主催政治博覽會出品物ニ關スル件
大阪毎日新聞社

四月一日ヨリ五月二十日迄五十日間東京日々新聞社並ニ大阪毎日新聞社主催ノ下ニ舊議事堂ニ於テ政治博覽會ヲ開催スル趣ニテ同社ヨリ右博覽會ノ一部タル外交館ニ陳列スベキ資料貸與方願出有之タルニ付別紙目錄記載ノモノ本省出品物トシテ陳列差許スコトト致度

右仰御高裁

公信案

外務省

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

東京日日新聞社
大阪毎日新聞社 主催 政治博覽會外務省出品目錄

一、寫眞

一、明治廿七年日英通商航海條約寫眞	（調印ノ頁及批准書表紙）	二
一、明治廿七年日伊通商航海條約寫眞	〃	二
一、明治廿七年日米通商航海條約寫眞	〃	二
一、明治廿八年日露通商航海條約寫眞	〃	二
一、明治廿九年日獨通商航海條約寫眞	〃	二
一、明治廿九年日佛通商航海條約寫眞	〃	二
一、明治廿九年日清航海條約寫眞	〃	二
一、明治廿八年日清媾和條約寫眞	（第一頁及調印ノ頁）	二
一、明治卅五年日英協約寫眞	（調印ノ頁）	一
一、明治卅九年日露媾和條約寫眞	（第一頁及調印ノ頁）	二
一、昭和七年日滿議定書寫眞	（調印ノ頁）	一
一、明治四十一年樺太島國境劃定書寫眞		六

外務省

12.2

は(イ)

一、樺太境界標識ニ關スル說明書寫眞
一、樺太境界標木寫眞
一、樺太境界標石寫眞
一、明治初年霞ヶ關竝ニ外務省寫眞

二、地圖、統計圖表類

一、歐洲主要政治條約關係圖表
一、日本對外通商地圖
一、本邦貿易動態圖
一、本邦品別貿易圖
一、最近三ヶ年本邦貿易情勢圖
一、本邦對外通商交涉一覽圖
一、本邦對外貿易各月情勢圖
一、海外各地在留邦人人口表
一、海外在留本邦人送金額調査

一、樺太境界標識ニ關スル說明書寫眞	一
一、樺太境界標木寫眞	一
一、樺太境界標石寫眞	一
一、明治初年霞ヶ關竝ニ外務省寫眞	一
二、地圖、統計圖表類	
一、歐洲主要政治條約關係圖表	三
一、日本對外通商地圖	一
一、本邦貿易動態圖	一
一、本邦品別貿易圖	一
一、最近三ヶ年本邦貿易情勢圖	三
一、本邦對外通商交涉一覽圖	
一、本邦對外貿易各月情勢圖	
一、海外各地在留邦人人口表	
一、海外在留本邦人送金額調査	

外務省

12.2

は(イ)

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

三、參考資料類

一、大清國國書帙（内容ヲ陶ヤ帙ノ出品）

一、條約調印本書形式見本（用紙、リボン、封蠟ヲふく）

一、條約御批准書表紙及革嚢見本

一、大日本帝國旅券

四、紀念物類

一、條約改正ノ圖（油繪額面）

一、蒔繪椅子（井上外相ガ條約改正ノ際使用セシモノ）

一、インクスタンド（〃）

一、硯箱、硯石ト水差付（〃）

五、圖書

一、大日本外交文書

昭和八年二月讀賣新聞社主催寶塚市四十五年紀念展覽会ニ出品

外務省

12.2

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

明治維新七十年記念
新議事堂竣成記念

政治博覽會（趣旨書）

本年は明治維新以來恰も七十周年に相當するのみならず、明十三年は憲法發布以來五十週年にあたるが、この間、わが國勢の伸張發展は、世界各國の等しく瞠目しつつあるところであります。

おもふに現代躍進日本の礎石をなしたるところのものは、明治、大正、昭和の三代にわたる舉國一致の成果であります。弊社、ここに顧みるところあり、憲法發布の盛典を中心として遠く明治、大正、昭和の三代にわたる政治上の大事件、並びに政治日本の發達を窺ふに足るべき各般の資料を蒐集し、昭和十二年四月一日より五月廿日まで陽春の候五十日間を期して、わが憲政發達に最も意義深き日比谷舊議事堂約七千餘坪を相し、新議事堂落成記念をも兼ねて『政治博覽會』を開催、隆々たる國家發展の面目をここに躍如たらしめたき所存であります。即ち、この計畫は現代躍進日本を記念するに最も相應しき事業なりと聊か自負する次第であります。會場に出陳、展觀に供するところのものは政治に關する貴重資料の一大殿堂で、これを軍事、外交、内政の三大部門に分ち、内容の充實は勿論、興味津々たる趣向配列をもつてその完璧を期せんとする次第であります。

けだし、この博覽會こそ躍進日本を表象し更に飛躍せんとする『今日の日本』の推進力たることを信じ、江湖の期待に副はんと念願するものであります。

昭和十二年一月

主催　東京日日新聞社
　　大阪毎日新聞社

内容一班

憲法館

光輝ある三千年の歴史の上に一新紀元を劃して躍躍の第一歩を踏み出した明治維新―五ケ條御誓文の草案から始つて、憲法發布當時の貴重なる各種文献、明治廿三年議會開設當時を語る各種の資料等々、この博覽會ならでは見られない豪華な逸品を網羅してゐる、議會開設以降の世界に跨るわが憲政の發達經過を説明して、餘すところがない、政治博の根幹をなす憲法館――この一館を見るだけで國民政治常識に神益するところ絶大である、政治博でなければ集まらぬ貴重資料の苦心蒐集になる豪華殿堂！足はまづ『憲法館へ……』である

人物館

明治維新以來『憲政日本建設』のために貢献した朝野の人物、或ひは女性を網羅した凡そ百傑を選定し、その個々の人物について特色、人間味、交遊、家庭各方面から國事に奔走せる資料、遺品、記念物等を蒐集し、これを大体の年次的に配列し最も意義ある活躍場面をつくつて、見るものをして偉傑當年の俤を髣髴たらしめる、これに配するにパノラマ式場面や吹込レコード等を巧みに取り入れる仕組みであるから、少年少女は勿論一般入場者にとつて興味を惹くであらう、明治維新以降の新興日本の建設の礎石となつた各方面の人物を一堂に集めるのであるから、この館に立てば、英傑、女傑、一世の武人等と一堂に會して生ける人物の謦咳に接する感あるべく、また、明治、大正、昭和三代にわたつた憲政貢献の人物史を知り得るであらう。

の七十年間における編成制度、兵器變遷、被服、糧秣、衛生等の沿革を語り、全陸軍を擧げて戰つた日露戰爭に重點を置いての大出品、更に日露戰役以後今日までの國防の狀勢を示し、東亞剣下の諸情勢を説明し、最後にわが陸軍の七十年の歴史は躍進日本の推進力をなしてゐることを認識せしめ、回顧的のうちに現代を知る豊富な資料で一つぱいである。

滿洲館

東亞の新興國、滿洲國と滿鐵の出品を中心として全館を五族協和の五色旗のもとに王道樂土を示す滿洲國と滿鐵は昭和十二年に日本からの移民を大いに奬勵することになつてゐるので、王道樂土の姿をあらゆる角度と視野をもつて全館に展開してゐる、新興國の産業に、滿鐵事業の大観を現し滿洲國に對する正しき認識を把握する資料をもつて全館を埋めてゐる。

外地館

仲びゆく日本――『明治七十年』に新日本の版圖は南に台灣、南洋、北に樺太、さらに朝鮮と鵬翼を伸び廣げたのである、今や日本外地における、躍進は政治に、産業に花々しい發展を示してゐる、この外地發展狀況を朝鮮、台灣、總督府、樺太、南洋廳より出品するほか外地における重要物産を取り入れてある、この館で特筆に價するは土人のエキゾチックな生活を現はし、これら土人が聖恩に感激し、皇威を謳歌して日常を喜々と生活してゐる點である、台灣の製糖事業や樺太パルプ事業の現狀なども見のかせぬ呼物の一つであらう。

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

内容一班

憲法館

光輝ある三千年の歴史の上に一新紀元を劃して跳躍の第一歩を踏み出した明治維新—五ケ條御誓文の草案から始つて、憲法發布當時の貴重なる各種文献、明治廿三年議會開設當時を語る各種の資料等々、この博覽會ならでは見られない豪華な逸品を網羅してゐる、議會開設以降の世界に誇るわが憲政の發達經過を説明して、餘すところがない、政治博の根幹をなす憲法館——この一館を見るだけで國民政治常識に稗益するところ絶大である、政治博でなければ集まらぬ貴重資料の苦心蒐集になる豪華殿堂！足はまづ『憲法館へ……』である

人物館

明治維新以來『憲政日本建設』のために貢献した朝野の人物、或ひは女性を網羅した凡そ百傑を選定し、その個々の人物について特色、人間味、交遊、家庭各方面から國事に奔走せる資料、遺品、記念物等を蒐集し、これを大体の年次的に配列し最も意義ある活躍場面をつくつて、見るものをして偉傑當年の俤を髣髴たらしめる、これに配するにパノラマ式場面や吹込レコード等を巧みに取り入れる仕組みであるから、少年少女は勿論一般入場者にとつて興味を惹くであらう、明治維新以降の新興日本の建設の礎石となつた各方面の人物を一堂に集めるのであるから、この館に立てば、英傑、女傑、一世の武人等と一堂に會して生ける人物の謦咳に接する感あるべく、また、明治、大正、昭和三代にわたつた憲政貢献の人物史を知り得るであらう。

外交館

黒船來で徳川三百年の夢を破つて、明治、大正、昭和——と對外的に躍進した日本を知らしめる外交館。開國交易以來、日本が諸外國と折衝をもつてきた躍進ぶりを如實に表現する目的のもとに館内の隅々まで心を配つてゐる、日清、日露兩戦役における外交秘史、さては條約上の歴史的機密文書の公開、國際聯盟の脱退から滿洲事變に至るまでの外交上におけるその時々のエッセンスをとり入れて、一目直ちに躍進日本の外交の全貌を展開せしめ、外交智識の源泉をなす貴重な殿堂である。

國際館

世界は今や赤と黒の對立を示してゐる、ドイツ、イタリー、フランス、ソ聯、スペインをめぐる赤と黒の旋風——英、米の國際的地位等、世界各國の國情と政治動向を適切に示し、復雑なる世界情勢を一目瞭然たらしめる、更にまたムッソリニー伊首相に關するものやファッショ政權の段階、ナチスドイツではヒットラー氏に關するもの、動亂支那では近代支那の指導精神をなした孫文氏に關する資料を筆頭に蔣介石氏を中心とする現狀を説明してゐる。また、地球をかける國際スパイの活躍の姿も面白く表現するほか、英國戴冠式に關する資料等、この館を一口に云へば各國政治の動きを主体として走馬燈の如く眼まぐるしく變轉する世界の姿を極めて通俗的にわかり易く示さんとするものである。

軍事館

無條約時代に備へるわが無敵海軍の全貌——無條約時代に對する關心、なぜ今日に至つたかの經過をヂオラマ等で表現した上、わが海軍所藏の艦艦二百卅餘隻の各艦種模型を陳列して大平洋を睥睨した一大場面！心强き『海の護り』に見るもの心臓の高鳴りを覺えるであらう、かくして、國民に今日の狀態を認識せしめるところにポイントを置いてある、また、陸軍については昭和十二年は陸軍始つて七十年の意義深き年に當る、そこで、この七十年間における編成制度、兵器變遷、被服、糧秣、衛生等の沿革を語り、全陸軍を擧げて戦つた日露戦爭に重點を置いての大出品、更に日露戦役以後今日までの國防の狀勢を示し、東亜刻下の諸情勢を説明し、最後にわが陸軍の七十年の歴史は躍進日本の推進力をなしてゐることを認識せしめ、回顧的のうちに現代を知る豊富な資料で一つぱいである。

滿洲館

東亜の新興國、滿洲國と滿鐵の出品を中心として全館を五族協和の五色旗のもとに王道樂土を示す滿洲國と滿鐵は昭和十二年に日本からの移民を大いに奬勵することになつてゐるので、王道樂土の姿をあらゆる角度と視野をもつて全館に展開してゐる、新興國の産業に、滿鐵事業の大觀を現し滿洲國に對する正しき認識を把握する資料をもつて全館を埋めてゐる。

外地館

伸びゆく日本——『明治七十年—』に新日本の版圖は南に台灣、南洋、北に樺太、さらに朝鮮と鵬翼を伸び廣げたのである、今や日本外地における、躍進は政治に、産業に花々しい發展を示してゐるこの外地發展狀況を朝鮮、台灣、總督府、樺太、南洋廳より出品するほか外地における重要物産を取り入れてある、この館で特筆に價するは土人のエキゾチックな生活を現はし、これら土人が聖恩に感激し、皇威を謳歌して日常を喜々と生活してゐる點である、台灣の製糖事業や樺太パルプ事業の現狀なども見のがせぬ呼物の一つであらう。

地方館

大政奉還から廢藩置縣へ——今や一道三府四十三縣の地方は隆々發展を示してゐる、ここにおいて地方發展の狀況を、各府縣が秘藏する縣治資料、地方で起つた一揆、暴動などの歴史を語る門外不出の逸品等を一堂に集めるほか、産業發展、優良町村、自力更生村の活躍等をも取り入れて仲張する府縣勢一班を一望のもとに配列して、見るものをして首肯せしめ、更に六大都市に關しては一區劃に大都市の發展姿態を見せんとするものである

交通館

『駕籠と馬』の乘物時代から人力車、鐵道馬車の時代、汽車、電車から流線型超特急列車時代へ—飛行機、飛行船、グライダー等の航空機の發達、川蒸汽から豪華を誇る歐米航路の優秀船時代へ—陸と海と空の交通機關の七十年の變遷の跡を『時代を語る遺物』に或はまたパノラマ、ヂオラマ等によつて『われらの足』の發達を示すほか、飛脚から郵便に、さらに電信、電話、ラヂオ、テレビションなどの科學時代へと交通文化の史的陳列は誰が見てもきつと面白いものである。

議席等の施設

會場内貴族院においては、玉座拜觀をはじめ、議席の狀況をそのまゝ展觀に供する、また衆議院會場では開期中絶へず各種の催し物をなし、維新史學者、權威者の史話をはじめ、政治講談、映畫、明治七十年の流行歌、その他奇拔な趣向をこらした企てがあるので必ずや入場者をあつといはせるであらう。

協賛館

滿洲、外地、地方自治、交通、六大都市等の各館における陳列によつて、躍進日本の姿を見て協賛館に入れば、現代日本が持つあらゆる部門の生産品の實物が吾人の眼をうつ、各種商品、重要物産等が一流商店、會社、工場等によつて協賛出品され産業日本をここに見ることが出來る。

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

文書課長
12. 1. 16

拝啓、時下益々御隆昌の段大慶に存じ上げます。

扨て昭和十二年はわが憲法發布第五十週年に相當いたしますことは御承知のとほりでありますが、明治維新以來、躍進又た躍進を遂げ、その國勢の伸張と發達興隆は世界各國の等しく瞠目しつゝあるところであります。

弊社、即ちこゝに顧みるところあり、憲法發布の盛典を中心として遠く明治維新前後における政治日本の種々相はもとより、明治、大正、昭和の三代にわたる政治上の大事件、並びに政治日本の發達を窺ふに足るべき各般の資料を蒐集し、昭和十二年陽春の候、日比谷舊議事堂の廣大な地域を相し、憲法發布五十年祝賀記念として、所謂「政治に關する」一大博覽會を開催いたし、次で、隆々たる國家發展の面目をこゝに躍如たらしめたき所存であります。

おもふに明治維新以來七十年、憲法發布以來五十年をかぞへる現代躍進日本を祝賀するには、最も相應しき好個の記念事業なりと聊か自負する次第であります。

就きましては、社員參上の上、右各般の資料蒐集上、何分の御指導と御援助を仰ぐべく、折角準備中ではありますが、乍失禮書面を以て取敢ず各位の御賛同と絶大なる御援助とを御依頼申し上ぐる次第であります。各位希くば弊社の微意のあるところを諒とせられ、以つて本博覽會が、愈く昭和十二年の記念事業として名實共に成功いたしますやう、何分の御力添へのほど切望に堪へません。

茲に寸楮を以て貴意を得たく御依頼申上げます。

敬白

昭和十二年一月

東京日日新聞社
大阪毎日新聞社
取締役會長　岡　實
取締役社長　奥村信太郎

松岡洋右閣下

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

政治博覽會各館出品目錄

主催　東京日日新聞社
　　大阪毎日新聞社

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

目次

[illegible]

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一、若槻内閣當時三篤首申合巻物　一
片岡健三郎氏所藏
一、片岡健吉氏禁獄關係ノモノ　五
（明治十年）
一、國會ヲ開設スル允許ヲ上願スル書
一、同　委任狀
一、建白書（寫）
一、保安條例入獄當時ノ書翰（箱入）
田中清麿氏所藏
一、日清戰役後馬關條約、清國償金
英、露折衝等ニ關スル外交書
一、伊藤公自筆、立憲政友會立黨ノ綱領
高田早苗氏所藏
一、名流書簡、桐箱入、
一、知人盛談（伊藤公外數氏ノモノ）
一、知人盛談（鳩山氏外數氏ノモノ）
玉水常治氏所藏
一、自由黨大阪事件（全）
一、加波山事件記念帖
一、先生自筆遺稿（大井憲太郎筆）
一、國民黨相序（大井憲太郎筆）
一、大阪事件（自由黨員）下獄者獄中ヨリ出シタル手紙一枚（鉛筆簡札）
（加波山事件ノ大立物玉水嘉一氏ノ令弟ニシテ大阪事件ニ關係シ獄ニ下ル）
栗崎鉉之助氏所藏
一、林有章翁、明治廿二年憲法發布當時ノ印刷物（布告文）　數枚
中村豊長氏所藏
一、大正十四年授爵軸　一

一、岡崎邦輔ヨリ中村書記輪長ニ宛テタル手紙　一
一、三篤首ノ授爵　樂天筆、自筆、先德克堂自筆
後樂　素水
桃紅李白竹二郎自筆　一
中村為七氏所藏
一、自由黨ノ臨時大會ノ通知狀　一
明治十五年五月
中川良長男所藏
一、貴族院改革案閣議（大正十三年四月）　一
内ケ崎作三郎氏所藏
一、錦　緒　六
一、官員錄　五
一、地　圖　六
一、勝安房自筆
郭内路城ノ圖　百卅六枚
箱根關所ノ手形（慶長三年ノモノ）　一〇
一、河野廣中ノ書
一、蝦地視廻ノ書
一、高橋是清特許局長時代ノ手紙
一、初代廣重筆、英國ロンドンノ書
一、浦賀軍艦渡來ノ圖（附錄横濱上陸ノ圖）　二
一、嘉永六年大合衆國ヨリノ書翰（和譯）　一
藤田三郎氏所藏
一、五箇條御誓文發布當時ノ御旅輪ノ寫（木版刷）　一
公爵山縣有朋閣下所藏
一、桂太郎氏ヨリ山縣公ニ宛タル書輪　一
一、西南陣中ニ於テ山縣公ヨリ南洲ニ宛テタル自筆勅旨文　一
一、大久保利通公書輪　一

一、木戸孝允公書輪　一
一、有栖川宮、三條、伊藤公、井上侯書輪　二
一、山縣公ヨリ伊藤公ニ宛テタル書輪　一
一、高杉晋作、西郷南洲ニ宛テタル書輪　一
一、三條、伊藤公、井上侯書輪　一
藤田孝次郎氏所藏
一、「政治三十年」政變ノ號外及記事ノ内　一
子爵藤岡孝韶氏所藏
一、孝悌子爵ノ寫眞　一
一、政體書草案　一
藤田知治氏所藏
一、民事訴訟假規則草案ニ付意見書　一
一、朝鮮事件意見書　一
一、同第二次　同（明治十三年）　一
一、元老院第一次憲法草案（明治十一年）　一
一、大日本國政起草案　一
小池、藤氏所藏
一、自由黨志士追悼式當日祭文入寫眞　一
一、板垣退助伯最期ノ寫眞　一
一、憲政黨唱者懇親會寫眞（明治四十年）　一
一、再興自由黨結黨式寫眞（明治廿三年）　三
古島一雄氏所藏
一、犬養毅氏等ノ國民黨宣言書　一
松濤泰藏氏所藏
一、二枚折屏風（色紙交張）犬養氏外名士ノ　一
一、若槻首相組閣挨拶狀原稿　一
一、大隈首相組閣挨拶狀原稿　一
一、三條首合寫眞（若槻、床次、田中、三互頭署名入）　二

一、康吉三郎ノ加筆、犬養、高橋三巨頭署名入寫眞　一
慶應義塾大學圖書館所藏
一、憲法草案大學圖書館所藏　二
一、小田切萬壽之助ノ丘父書記官長ノ時ノモノ（先老院）　一
一、博文公眞蹟（不論世路有風濤）　一
朝井と譚氏所藏
一、後藤伯、齋藤子爵、粕谷議三、犬養毅ノ軸、色紙　四
佐藤雄一郎氏所藏
一、憲法發布當時號外　一
一、錦絵　一
第一期貴族院議員肖像巻物　九
第一回衆議院議員肖像　巻物　二
佐々木信綱氏所藏
一、民選議院草案（明治五年八月）　一
大隈重信ノ建白書　一
還暦伯太郎氏所藏
一、勝安房口演覺書（寫）　一
一、板垣退助ノ意見書（寫）　一
一、谷干城ノ意見書（寫）　一
一、大日本憲法草案（原規）（寫）　一
還田孝太郎氏所藏
一、日露戰役御前會議後ノ記念撮影　二
一、衆議院議員二十五年勅諭紀念撮影　二
一、衆議院議員第正選擧紀念出集畫紙　三
一、新舊議事堂落成紀念出集畫紙　七
一、最近歴代内閣各閣員寫眞（二枚綴）　一
一、歴代内閣各閣名簿　一
一、戒嚴布告ノビラ　一

侯爵佐佐木行忠氏所藏
一、憲さめのとも、三條實美公ヨリノ書簡一括　一
三條實美公ヨリノ書簡一括　一
岩倉具視公ヨリノ書簡一括　一
侯爵木戸孝一氏所藏
一、憲法ニ關スル建言書（木戸侯筆）　一
一、五箇條御誓文草案（右同）　一
京都帝國大學文學部國史研究室所藏
一、鬼頭勘三郎書狀　一
一、船越藤五郎書狀　一
一、井上馨書狀　一
一、中村行藏書狀　一
一、花房直三郎書狀　一
一、五條爲榮書狀　一
一、寺島宗則書狀　一
一、金井之恭書狀　一
一、島津忠義書狀　一
一、明治天皇ト前米大統領グランド氏ト ノ御對話筆記　一
植原關義氏所藏
一、月照上人和歌　一
一、篠原、桐野、逸見諸氏ノ遺墨　一
一、南洲翁ノ江藤島事件ニ付篠原國幹ニ宛テタル書簡　一
島田孝一氏所藏
一、開國始末（島田三郎著）　一
一、演說ノ草稿（巻紙）　一
A、孔子祭典會ノ開催ノモノ　一
B、軍備縮少敬育奬勵ニ關ス　二
一、シーメンス事件當時ノ門札　一

一、新選百人一首　一
一、東照公ノ遺訓　一
一、島田三郎全集　五
一、横掛ノ額　一
一、島田三郎氏育像洪樟額入　一
一、國民の友　一
一、大政官日誌　一
日本全國戶籍表　九
一、京都府市制々法　一
一、國會議員百首　一
一、國々珍聞　一
一、國會ノ組立（一名日本國會ノ近道）　一
一、議事章程（明治六年）和本　一
一、國會議事堂圖式　一
一、廢藩置縣ニ際シ明治新政府ニテ各藩公ニ宛テタル官文書外ニ行政官署名ノモノ　七
一、憲政會結黨式議事進行條　一
一、英國志　一
一、佛國政典　一
一、立憲政體略　一
一、英國々會治草史　一
一、明治文抄　三
一、續明治文抄　三
一、民政要覽　四
一、和蘭議員選擧法　三
一、辛未政表　一
平井湖南氏所藏
一、明治時代名士ヨリ故芳川顯正伯ニ宛テタル書簡其他　一

I-0380
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一、伊藤公書翰掛軸
一、黒田清隆公同
一、板本武揚　同
一、陸奥宗光　同
維新史料編纂會所藏
一、年々改正憲法上明覽大全　一
一、五ツ條御誓文之草案(1)　二
一、右　同　(2)　二
一、薩長密約　一
一、戊辰東北同盟諸藩盟分草案　一
池田文庫藏
一、大日本帝國憲法（明治二十二年二月十一日官報號外）　一
一、大日本帝國憲法（明治二十二年二月十二日）　一
一、鄂族聚要書類　一
一、陸海軍々制上奏案批評　一
一、日本帝國領事規則　一
伊東仁太郎氏所藏
一、加波山事件ノ寫松五木兩氏ノ寫眞　一
一、中村樓ノ記念撮影　一
一、大政出獄者慰勞會記念撮影　一
一、西國寺公・鍋公東洋自由新聞社々長退社ニ關スル松澤求策ノ內信書　一
一、保安條令ニヨル退去命令(二枚額入)　一
一、議會並ニ議員保護法造反事件判決　一
一、上奏文ノ寫(明治二十年)其他　一
井上馨侯爵氏所藏
一、憲法作伊藤伯來翰　一
一、憲法草案（諸議（祥祇）各國法ノ調査附帶和本　八二

港野忠吉氏所藏
一、岩倉具視公建言案(慶應三年)　一
一、三條岩倉兩公答翰　三
一、奉祝先皇遺詔　一
一、陸海軍日清戰役三國干涉ニ對スル陸海軍ニ輕舉暴動ヲ警メタルモノ　一
一、日清戰役風雲帖　十
各將軍ヨリ川上參謀次長ニ宛テタルモノ
生沼豐藏氏所藏
一、愛國公黨本豊原本　一
石塚作氏所藏
一、初代逸記名の書及寫眞　二
西園寺氏所藏
一、伊藤博文公ノ寫眞　一
德富蘇峰氏所藏
一、政體(慶應四年四月印行)　一
一、大日本帝國憲法(明治廿二年二月印行)　一
一、穂積八束憲法制定ノ由來　一
一、皇室典範義解(原板初刊行)　一
一、德富氏著國民小訓　一
一、府縣ト政黨　一
一、解散ト總選擧　一
一、責任內閣　一
一、國家ト政府　一
一、選擧必携　一
一、明治廿三年後ノ政治家ノ資格ヲ論ス　一
一、普通選擧早わかり　一
一、普選ガスター新戰術　一
一、地方普選早わかり　一

一、選擧實錄(明治廿五年四月發行)　一
一、岩倉公ニ賜ハリシ勅語ノ草案及岩倉具視六名答啟　一
陸奥宗光氏ヨリ齋藤氏ニ宛テタル書簡
一、奉祝公遺稿　一
一、井上哲次郎先生答啟　一
一、井上世外公答啟　一
一、內外新報　一
一、市民　一
一、時務一家言(德富蘇峰著)　一
一、明治月刊　一
一、國體新論　一
一、立憲政體略　一
一、市町制法　一
一、社家制法　一
一、寺院制法　一
一、町役心得條目　一
一、村庄役心得條目　一
一、郷中制法　一
一、浮世風聞　一
一、明治五年新聞雜誌　一
一、戊辰大政官日誌　一
一、行在所日誌　一
一、大政官日誌　一
一、東巡日誌　一
一、已巳議院日誌上下　二
一、已巳開議使日誌上下　二
一、明治二議案錄　二
一、明治十年布告　一
一、最初ノ衆議院規則　一
一、官途必携　一〇

四

一、制度沿革史
一、天津談判錄
一、伊藤公ノ復命書(天津談判)
一、韓國合併顚末書
太田嘉太郎氏所藏
一、選擧ノ種類(八表)　一
一、韓人參政權ヲ認ムル主要國(表)　一
一、主要國政體圖(表)　一
馬佐竹基氏所藏
一、政體書　一
一、御誓文ノ和解　一
一、御誓文大意　一
一、御版筆大意　一
一、元老院議官寫眞　三
後藤大隈信常氏所藏
一、御版筆草案(木戸孝允條明治元年)　一
公爵大山柏氏所藏
一、山縣公ヨリノ書簡　一
錦繪之部
一、國會議事堂ノ圖　一
一、征韓論ノ圖　一
一、西鄕陸盛前功記(征韓論議)　一
一、勤王ノ圖　一
一、官員容語錄　一
一、官位相當表　二
一、徵兵令ノ原本(コレハ陸軍省ニモナイ)　一
一、郵便物ニ關スル建ノ書(神奈川縣廳)　一
一、大山巖公第一回國會開設ノ際ノ演說ノ原稿　一
一、最初ノ貴族院ノ互選投票ノ書類　一

子爵金子堅太郎氏所藏
一、帝國憲法ノ根本義ニ關スル伊藤公覺書　一
一、政治論略（明治十四年十一月印行　元老院權少書記官金子堅太郎著）　一
一、伊藤公憲法發布ノ詩(七律)　一
一、伊藤公日露戰爭所感詩和韻　一
一、伊藤公修甲民二月所感(七絕)　一
一、夏島伊藤公別邸寫眞　一
金澤文庫藏名寺所藏
一、英國律法要課　一
一、獨逸法律書　一
一、法國律列　一
一、佛國五法講錄　一
一、各國民法異同條辨　一
一、治罪法草案註釋　一
一、英國議院典例　一
一、Draft of Proposed Penal Code　一
一、Hanabata Ctot Der Stabt Berlk 95)　一
一、陸奥宗光氏ヨリ齋藤氏ニ宛テタル書簡　一
一、伊藤公ノ「弔陸奥氏」額　一
一、憲、々錄　一
一、陸奥氏ノ用ヒタル硯及硯箱等　一
一、ペルリ來航紀念物　一
一、武昌金澤(南谷)及夏島(廣重)ノ錦繪　二
並井重治氏所藏
一、(伊藤公憲法起草ノ重要ナル參考書)　一
高松宮家藏所藏
一、(伊藤公憲法起草ノ重要ナル參考書)　一
一、ドッド英國々會記　一
一、明治十七年九月小久保氏書簡(二十歳)下獄ノ際物ノ遊ヲ取ツテ　八

一、有栖川宮熾仁親王御日記
內閣統計局所藏
一、衆議院議員選擧有權者割合表　一
各府縣別
一、右同　年齡及職業表　一
宮內廳藏
一、廟天覽伊藤公筆(北海再建七律)　一
一、題貫金子堅太郎子　一
一、德富蘇峰先生　一
一、伊藤公北海再建七律并上角五郎選　一
一、御歌所寄人遠山英一書　一
伯爵牧野伸顯氏所藏
一、西南戰爭直前、大久保利通ヨリ西鄕隆盛ニ宛テタルモノ　一
刑部　壽氏所藏
一、伊藤公憲法起草記念碑立ニ就而即念ノ碑銘　一
夏島遺跡記念碑名
夏島遺跡碑文拓本
夏島憲法起草ノ家ノ間取圖
一、夏島憲法遺跡記念寫眞帖　一
(特ニ高松宮ガ間取圖ヲ見テ居ラル、處)
一、御前講筆記(伊東巳代治伯ノ手記)　一
高松宮ニ御講義申上タルモノ)
一、天津條約顚末書(明治十八年)　一
一、伊東巳代治伯ノ書キタルモノ　一
一、伊東巳代治伯ノ肉筆夏島遺跡碑文　一
小久保喜七氏所藏
一、國法汎論　一
一、明治十七年九月小久保氏書簡時(二十歳)下獄ノ際物ノ遊ヲ取ツテ　八

六

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

註ヲ入レタモノ）
一、東京民權史
（福島事件加波山事件關係者ノ寫眞挿入）
一、大阪事件（小梁善太郎氏宛手紙）
一、明治二十二年全國同志聯合會印刷物（條約反對）
一、來島恒喜ノ寫眞
（明治二十二年十月十八日外相官邸門前ニ大臣外相ヲ爆彈ヲ以テ襲フ）
五絃田芳彌氏所藏
一、憲法發布ノ圖（眞物）
一、憲法制定會議ノ圖（寫眞）
一、五ヶ條御誓文ノ圖（淵鄰）
帝國圖書館所藏
一、國會議事堂ノ圖（寫眞）
一、十八貴顯之有像（寫眞）
一、新皇居憲法發布式御出門ノ圖
一、憲法發布式ノ圖（寫眞）
一、第一回衆議家議有像圖
一、憲法式大祭鳳凰御輦ノ圖（周延筆）
一、板垣伯上書（明治廿年）
一、公議所日誌
一、代議政體
一、民選議員論綱
一、英國博士、物波士、主權論
一、新內閣大臣列傳
一、信任投票ノ原理（尾崎）
一、衆議院規則
一、國會始末（第一期）
一、國會議員正傳
一、議長候補者列傳
一、政治論略
一、改進黨員實傳
一、昭勅集寶
一、國會奢論
一、大日本憲法義解（伊藤博文著）
一、憲法第六十七條ニ關スル意見
一、板垣君演說集
一、衆議院論
一、國會ノ準備
一、議院悉案意見
一、第一回衆議院議事速記錄
一、第一回貴族院議事速記錄
一、官報號外（明治二十二年）
男爵寺島宗則氏所藏
一、憲法返上論ニ對スル反對運動（明治十三年頃）ノ文獻
貴族院議事務局所藏
一、第一回帝國議會貴衆兩院全景寫眞
一、同　貴族院議院
一、同　〃　〃
一、同　貴衆兩院全景開會中燒失シタル寫眞
一、大正十四年九月十八日燒失前ノ兩院全景　寫眞
一、同　貴族院議場　寫眞
一、第一回帝國議會開院式圖
（衆地秀太氏筆、淵鄰）
一、貴族院議事速記錄（自第一回至第五十六回明治二十六年十二月）
一、貴族院要覽（自昭和四年十二月至昭和五年）
一、傍聽券（公衆傍聽、官吏、外國交際官）
一、貴族院議員徽章
一、政友會歷代總裁寫眞
一、新議事堂ノ寫眞
子爵由利正通氏所藏
一、五ヶ條御誓文草案及修正案
三重野幸夫氏所藏
一、當各地用務所ニ掲ケタル五ヶ條御誓文（公式令一六條版）大幅
一、議會行幸版畫（玉利版畫）
一、末廣重恭著明治廿三年未來記
一、國會未來記（鼠郎誠一著）
一、銀紙式並議事堂圖（國輝版畫）
一、衆議院議員實傳（國谷男世著）
一、犬分町衆議院議員選擧人名簿
民黨大勝利號外（犬分新聞）
一、日露戰爭號外（犬分新聞）
一、日露戰爭戰死者名簿大分縣ノ部
一、黑戰記
一、清戰爭戰記
一、內地雜居準備（明治十九年青田節著）
一、遊行くるまつくし（明治初年）
一、縣會議員當選狀（明治十三年坂井氏ノモノ）
一、大分郡鍋町村聯合會議員當選狀（明治廿年宮崎氏ノモノ）
一、大分縣全史
一、大分縣會日誌決議錄（明治十六、廿一、廿二年分）
衆議院事務局所藏
一、徽章　議員徽章
一、記者傍聽章
一、貴族院議員徽章
一、新議事堂ノ寫眞
一、五ヶ條御誓文草案修正案見
一、國會草案引渡（元老院制定）
一、日本國憲案（元老院制定）
一、寬木利康提出法案
一、加藤弘之著　立憲政體略
一、議案錄（明治二年公議所議案錄）
一、清見須計夫著　生命見覺シ
一、宮島誠一郎著　國憲編纂記草
一、山田俊藏著　民選議院論綱
一、政理要談
一、明治三十五年選擧法中改正法律案
一、大正十四年普選通過ノ時ノ加藤高明外閣僚連署ノ寫眞
政友會本部所藏
一、伊藤公爵演說掛圖（政黨宮見書）
一、政友會歷代總裁寫眞
一、フランス議會ノ圖（板垣伯ガ佛國ヨリ持歸リ政友會ニ寄贈）
一、伊藤公筆　立憲政友會創立趣旨演說草稿（鉛筆）
工藤武雄氏所藏
一、第一次山本內閣環勅上奏文原稿
一、當時尾崎行雄氏ヨリ工藤武雄氏ニ宛メタ書簡
伯爵伊東治正閣下所藏
一、第一回議會當時ノ名簿並ニ席圖
一、憲法乙試草（一—三九）
一、同上　（四〇—七九）
一、ロエスレル起案憲法草案
一、法律命令論（命令篇）
一、憲法草案修正意見
一、政府發員同　副章
一、聽書官同　同　佩用章
一、各省高等官同　給仕徽章
一、同帶用心得書　官吏入場同
一、同帶用心得　新聞給仕腕章
一、甲種通章　衆議院高等官徽章
一、同帶用心得書　右同例任官同
一、乙種通章　同屋員徽章
一、同帶用心得書　速記練習生同
一、傍聽券／外國交際官傍聽券
一、官吏　同
一、公衆　同
一、外國議員徽章
一、氏名標
一、投票抽籤用具　部屬抽籤棒
同抽籤器
投票函
木札
無名投票計量器
無名投票器及玉
無名投票用球
一、衆議院議員宮廷帖
一、第五十六議會ニ處理シタル議案ノ件名一覽表（淵鄰）
一、憲法發布之圖（淵鄰）假面
一、議院全景
一、議員徽章小切手（寫眞）
一、政府提出議案本書（第十六回）
一、議員提出法律案本書（第五十回）
一、議長選擧得點記入票
一、歷代議長肖像（淵鄰）
一、夏島憲法起草記念碑々文
一、英國殺近ノ選擧ポスター
一、用紙
委員會々議經過告知掲示板
部長、理事選擧用カード
各委員室國旗
委員長理事選擧用紙
議案可否決記名投票用紙
議案可否決記名投票用紙
投票函
抽籤函
選擧得點記入表
演說速記ヨリ印刷マデ
守衛服裝
一、振鈴
一、國書
第五十六議會ニ於テ處理シタル議案ノ全部
衆議院選擧法ニ關スル圖書　內國　外國
帝國議會假議事堂迷路記念帖
廣島議會議場寫眞
帝國議會史綱外二十七册
下關條平氏所藏
浪華行幸原議
平塚　雪氏所藏
一、第二議會當時ニ於ケル政黨必要論
日比谷圖書館所藏
一、憲法發布當時ノ錦繪

I-0380

アジア歷史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

三重縣拿矢氏所藏
一、種大内山獄谷誓書御誓文軸
大分新聞號外（選擧ビラ）
一、明治時代錦繪
一、當選狀（大分縣發行ノモノ）
一、日露戰爭號外（大每發行）
一、明治二十三年未來記
一、内地雜居ノ準備
一、明治二十三年國會未來記（再版）
一、衆議院議員實傳
一、明治二十一年—三十七年大分縣衆議院選擧人名簿
一、大分縣令史
一、日露戰爭戰死者略傳
一、大分縣會日誌並ニ決議錄
一、遲戰記（步兵四十七聯隊）
工藤武雄氏所藏
一、第一次山本内閣彈劾上奏文原稿
一、當時尼崎行雄氏ヨリ工藤武雄氏宛ノ書翰
牧
在七所氏藏
一、近衛寬麿公書翰
一、原敬氏議員時代ノ報告書
五明忠一郎氏所藏
一、大正三年國民黨議會社室ニ於ケル寄書
一、中正會大會後懇親寄書
林
茂澤氏所藏
一、初代貴族院速記者寫眞
一、同上 書
東京鹽業學校所藏
一、阿佐太子像 聖德太子御影
一、聖德太子十七條憲法（寫）
中大濱雄氏所藏
一、明治二十二年立太子詔勅印刷物
一、明治十四年國會開設勅諭
一、明治二十二年二月十二日憲法發布ノ型日內閣總理大臣ノ告諭
宮川屋二氏所藏
一、明治三十一年二月一日擬大寺侍從長ヨリ岩倉幹事長宛尺牘
一、同上ニ關スル宮川氏宛明治天皇御錦旗委員會議狀
一、同上ニ關スル宮川氏宛本居委員私簡
三宅雪嶺氏所藏
一、治罪法草案
遠藤佳六氏所藏
一、明治初年ノ地券（神奈川縣足柄村ノモノ）
一、明治初年租稅納付ニ關スル書類
若林玲藏氏所藏
一、初代衆議院速記者寫眞
一、同書
田鎖一氏所藏
一、我國ニ於ケル速記創始者寫眞

人物館

伊東治正伯藏
一、伊東巳代治肖像
一、掛物
一、刀劍
大浦兼一氏藏
一、大浦兼武寫眞肖像
一、書翰
一、駒の鼓架
近衛文麿公藏
一、肖像
一、架鼓
一、手帖
一、日記
東鄕能俊藏
一、東鄕元帥肖像
一、辭令
一、勳章
一、双眼鏡
一、紙架
一、時計
一、丸他
高島友堂子藏
一、高島鞆之助肖像
野田俊作氏藏
一、野田卯太郎肖像
一、俳句自作自筆
一、扇
慶應義塾圖書館藏
一、福澤諭吉書
一、福澤諭吉寫眞
一、福澤諭吉肖像
一、伊東巳代治肖像
一、井上三郎侯藏
一、井上馨肖像
一、軸物
一、愛用の鞄
一、煙草入煙草盆
一、伊藤博文詩文
寺島宗則氏藏
一、寺島宗則胸像
一、茶盤茶石
一、自筆軸物其他
犬塚豐氏藏
一、犬塚毅寫眞
一、茶盤
一、皮袋封筒
一、仕込杖
一、紙の一字軸
一、銅、鉄、瓦
羅馬法三郎氏藏
一、濱口雄幸代寫眞
西園寺氏藏
一、伊藤公使用洗面器
一、同扶入
酒井恒雄氏藏
一、原敬愛用帽
寺內壽一伯藏
一、寺內正毅肖像
山本清伯藏
一、山本權兵衛肖像
一、〃 書
一、寫眞
一、ステッキ
一、航海日誌
松方巖氏藏
一、松方正義寫眞額
一、書
一、硯箱
大久保利武公藏
一、大久保利通肖像
一、茶盤茶石
一、硯〃
一、箱洗
一、文〃 箱
一、海舟筆歌
副島道正伯藏
一、西鄕隆盛書簡額
一、掛軸
一、副島種臣の顏樣表
一、〃 肖像
佐々弘雄氏藏
一、三條公自筆額
一、鎌倉掛物
小久保喜七氏藏
一、大井篁太郎像
鶴川嘉光公藏
一、樺川嘉言油繪像

一、自筆ノ油繪
一、廣喜筆軍照宮遺詠額
一、廣喜筆軸
一、陣笠及陣羽織
小村捷治侯爵
一、大鎧服
一、その他
建部豐氏藏
一、奥田義人書軸物
一、〃　書簡卷物
宮地茂秋氏藏
一、板垣退助宮眞額
一、〃　書簡額
同　侯爵泉大郎書簡額
一、同自筆宮眞額
山縣有朋氏藏
一、品川彌二郎松下村塾にて口書の書
丁丑擒盡會藏
一、佐々友房擧兵ノ衣服
一、入獄中の囚着
岩倉具榮公藏
一、三條實美宮眞額
一、岩倉具視〃
一、〃　書
一、懷中時計
一、書　軸
一、岩倉具視筆軸
佐賀江藤家藏
一、江藤新平決戰の戰
佐賀藩一氏藏
一、西鄕隆盛常用の上布衣服

一、大鳳呂敏共
藝者子藏
一、藤本筆軍人會館
山田英夫伯藏
一、山田顯義宮眞
一、宗鶴日本刀
一、縮緬袋物
一、空齊自筆書幅
島田孝一氏藏
一、島田三郎油畫自像
一、新選百人一首（遺愛）
三浦矢一子藏
一、三浦梧樓自像
一、掛　物
田中館愛橘氏藏
一、觀測書軸物
一、乃木大將書簡額
一、福澤諭吉詩軸
一、田中義一宮眞
一、フイルム
一、平福百穗筆繪見圖軸
一、田中男油繪自像
一、サモール
一、七絃琴額（田中男）
一、絃琴額（田中男）
一、軸物（田中大將書）
一、刀劍（來國俊）
一、大砲筆盤
一、書　物
一、勳　章
博文公書軸物

一、山縣有朋書額
軍人會館藏
一、田中義一男胸像
木村喜三郎氏藏
一、加藤友三郎子筆相本
一、〃　宮眞
明石之長氏藏
一、明石之二郎油繪自像
一、油　繪
一、ロシアマント
一、時　帳
一、明石之二郎軸物
一、外國勳章　十個
一、寺內正毅掛軸
劉麟信助氏藏
一、パイプ
立憲民政黨本部藏
一、古今治革圖
西鄕從道侯爵藏
一、從道侯油繪額
一、南浦公書幅
一、南浦公筆額
一、外國勳章　七箱
一、臺灣征伐記念宮眞額
一、臺灣征伐繪
馬場弧蟬氏藏
一、大石正己書簡（四枚）
一、馬場辰猪郎自像油繪
一、日記帳
一、自傳原稿
著書「日本文典」

一、馬場辰猪郎肖（福澤氏自筆）
一、書　物
內ケ崎作三郎氏藏
一、加藤高明軸
一、河野廣中書軸
一、福地櫻痴軸物
一、高橋是清書幅
一、齊藤實書幅
大村男爵子藏
一、大村益次郎宮眞
一、掛　物
一、木戸孝允書幅
兒玉秀雄伯藏
一、兒玉源太郎自像油繪
一、火　鉢
加藤厚太郎伯藏
一、山高帽子
一、紋付羽織
一、仙臺平の袴
會福島孝氏藏
一、油繪その他
櫻山愛藏伯藏
一、教　點
三條公爵伯藏
一、三條公書軸
一、和歌卷繪入火鉢
西園寺之助侯藏
一、自作下駄
一、自　像
一、その他

一、ハテツキ（ハハ）
一、馬場辰猪郎肖（福澤氏自筆）
一、福澤諭吉書簡（卷物）
矢野文雄氏藏
一、矢野文雄油繪自像額
松村謙治氏藏
一、島尾小彌太筆額
一、寫　眞
一、澄雲軸物（書公書）
中島久萬吉男藏
一、中島信行自像宮眞
一、軸物　十八歲ノ時土佐脫藩ニ際シテノ作詩
大山巖侯藏
一、水　飲
一、〃　盃
一、那須ノ繪卷
一、〃　繪
一、木戸公自像
一、西鄕自像
一、勳章繪
加藤陸奥氏藏
一、無京盆
一、ノート
一、書
池田正氏藏
一、西鄕南州ノ書面額
鹿島源三郎氏藏
一、河野廣中宮眞
一、手井清子藏
一、陸奥宗光宮眞

佐竹義重子藏
一、川上操六宮眞
一、書
內ケ崎作三郎氏藏
一、加藤高明軸
一、河野廣中書軸
一、福地櫻痴軸物
一、高橋是清書幅
一、齊藤實書幅
大村男爵子藏
一、大村益次郎宮眞
一、掛　物
一、木戸孝允書幅
兒玉秀雄伯藏
一、兒玉源太郎自像油繪
一、火　鉢
加藤厚太郎伯藏
一、山高帽子
一、紋付羽織
一、仙臺平の袴
會福島孝氏藏
一、油繪その他
櫻山愛藏伯藏
一、教　點
三條公爵伯藏
一、三條公書軸
一、和歌卷繪入火鉢
西園寺之助侯藏
一、自作下駄
一、自　像
一、その他

松田正久男藏
一、教　點
伊藤博精公藏
一、教　點
德川慶喜公藏
一、教　點
福澤八十吉氏藏
一、教　點
東洋文化協會
一、宮眞七葉
1、坂本龍馬　2、中岡慎太郎
3、高杉晉作　4、橋本左內
5、佐久間象山　6、横田雲濱
7、奉天驛ニ於ケル伊藤公
一、その他
清遠壽吾伯所藏
一、官中杖
一、鳩杖考
谷儀一子藏
一、谷干城宮眞額
一、軍服上下
町田金六氏藏
一、上村將軍軸物
一、東鄕元帥戰時日記
（附黑井勝次郎大將筆）
一、東鄕元帥の毛髮
一、乃木將軍盛切飯茶碗
一、乃木將軍夫人帶上げ
一、乃木將軍遺愛の茶子器
一、乃木將軍ボン下
一、乃木將軍軸物

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一、[illegible]　一
一、[illegible]方[illegible]　若干
一、[illegible]方[illegible]　二

[illegible]

一、[illegible]大[illegible]　一

[illegible]

一、[illegible]　一
一、[illegible]　一

大[illegible]

一、大[illegible]　一
一、大[illegible]　一
一、大[illegible]　一

[illegible]

一、[illegible]　一
一、[illegible]　一
一、[illegible]　二
一、[illegible]　一
一、[illegible]　一
一、[illegible]　二
一、[illegible]　一

[illegible]

一、[illegible]　一
一、[illegible]　一
一、[illegible]　一
一、[illegible]　一

[illegible]

一、[illegible]　一
一、[illegible]　一
一、[illegible]　一
一、[illegible]　一

[illegible]

一、[illegible]　一
一、[illegible]　一
一、[illegible]　一

[illegible]

一、[illegible]　一
一、[illegible]　一
一、[illegible]　一

一、英吉利西國條約並稅則
一、亞墨利加國條約並稅則
一、日本國渤逸國條約書
一、明治元年文書科事務簿
一、明治元年御達留
一、明治廿四年露國皇太子殿下御來港の一件
一、西園寺殿下百田下總守より歌俳寺大納言へ口上覺書
一、肥州長崎圖
文部省編輯局史料編纂局所藏
一、就海日記
一、浪士捕縛日記
一、安政三年幕吏原太郎等巡見記
一、大阪淀口江黑船來之圖
一、慶應二年幕府ヨリ招聘セル佛國洋式軍隊教育一行之圖
一、明治二年來朝セル、エザンバラ領主アルフレッド公の寫眞
一、明治四年岩倉大使一行の寫眞帖
一、エトロフ島圖
一、慶應二年遣露特太定遣談判使節
一、池田筑後守ハ佛朗西外相ニ委任狀ノ寫ヲ送附スル旨ノ書狀
下關市所藏
一、李鴻章寫眞銀面
一、卷帆樓全景及玄關寫眞
一、風月樓全景及卷帆樓庭園寫眞
一、引接寺全景及玄關寫眞
一、李鴻章居間及引接寺應接間寫眞
一、伊藤全權大使寫眞
一、談判場寫眞
國際聯盟事務局東京支部所藏
一、聯盟に關する寫眞
一、地圖
一、ポスター
一、畫報
一、サンデーニュース
一、リクトン報告書
一、脫退通告、松岡演說集
一、聯盟畫帖
一、報告書檢閱用カバン
大久保利武侯所藏
一、明治四年岩倉全權大使米國に於ける衣冠束帶寫眞
一、朝鮮遣使可否論野紙綴
一、明治七年利遣弗理大臣として支那談判に使ひし勝和蘭朝の陸偶成之詩
一、右支那談判關係利遣自筆文書數點
一、明治四年歐米派遣岩倉公木戸伊藤を始めとし米國にて撮影せし大型寫眞銀面
青木梅三郎子所藏
一、大日本欧現原稿
黑田長成侯所藏
一、露國使節プチャーチン長崎渡來の圖
一、米艦使節浦賀入港應接並諸藩警備の圖
一、蒸船構造の圖
鍋川國麿公所藏
一、元帥歐洲留學時代スイス地圖
一、歐洲巡遊一行の寫眞
一、招待狀メニュー
加藤厚太郎伯所藏
一、加藤英國公使及び當時ロンドン滯在の人々寫眞
一、駐英日本大使館員寫眞
一、大冠式の大禮裳寫眞
一、加藤大使大冠式に着用のガウン
一、同記念章
一、紋付羽織、袴
一、中折帽子
一、愛用のステッキ
大隈信幸侯所藏
一、伊藤博文書翰（明治六年正月巴里）
一、同（同四月）
一、伊達宗城書翰
一、淺野長勳書翰（明治十四年八月）
一、福地源一郎書翰（十月廿日）
一、箕作麟祥書翰（八年四月）
一、英公使パークス書翰
一、同釋文
一、香港知事ヘフネッシー書翰譯入
一、開港橫濱の全圖
一、各國公使抗議に苦しみ長崎事件の報告を求むる書
鍋島直映公所藏
一、忠立公使節船御乘物卷物
一、底鳴館時代の寫眞
一、底鳴館時代の衣裝
後藤新平伯記念會所藏
一、兒玉參謀長宛書翰（自筆）
一、桂太郎公よりの書翰
一、西園寺公よりの書翰
一、井上馨公よりの書翰
一、大正元年山縣公よりの書翰
一、同氏の日本の滿洲政策の批評（書翰）
一、明治廿八年一月九日兒玉大將より旅順開城の書翰
一、山縣公の書翰
一、ロッフニ招待に就て加藤友三郎首相に送つた書狀（大正二年）
一、明治四十四年九月一日山座圓次郎氏よりの書翰
一、大正九年新戸部博士より國際聯盟事務局に關する件の書翰
一、大正十二年四月望月小太郎氏よりの書翰
一、大正九年六月セミョノフ將軍の請願書翰（譯文）
一、第二回日露連絡運輸（寫眞）
一、後藤新平氏相馬事件逆座の寫眞
一、後藤伯最後の寫眞
一、露國皇帝御名代ゲオルギー・ミハイロヴィチ太公殿下寫眞
一、後藤伯書翰（明治四十一年）
一、同（同四十五年）
一、同（大正二年一月）
一、同（大正三年末）
一、淺水又次郎の書翰
佐藤蓮一郎氏所藏
一、亞米利加船漂來內地の加比丹讀書
一、阿部伊勢守以下署名でロシアに與へた返翰
一、英人登城の圖
一、同墓石の文字
一、丙午六月七日御寄場佛人の願書
一、丙午七月廿日琉球一事大隅の屆書
一、アメリカ人受書文和解
一、アメリカ書翰文字三枚綴
一、アメリカ書翰文字二枚綴
一、御用別段御誂物之儀の阿部伊勢守
牧野伸顯伯所藏
一、明治七年大久保辨理大使より黑田伯への書翰
一、明治十年西南戰爭發端に際し大西郷の立場に關し大久保侯より伊藤公宛書簡
一、歐洲大戰講和會議における各國全權のサイン帖（メスボート付）
一、ボークマス談判の際ッキッチの使用せし眞年筆
小村侯治後所藏
一、ボークマス會議に關する寫眞
一、同會議に小村全權の使用したペン軸
林權之助伯所藏
一、伊藤公書簡卷物
一、臨奥伯書簡卷物
大山柏公所藏
一、大津事件關係書類
一、條約改正外編綴
一、滯在歐亞外交地圖
西竹一男所藏
一、露都御訪問の有栖川宮熾仁王殿下御寫眞
一、北清事變寫眞
一、北京籠城に於ける館員の寫眞
一、北京籠城前における記念寫眞
一、北京籠城の圖（大觀）
一、三國干涉當時の露都思出の記念油繪大觀
一、露國皇帝戴冠式における山縣一行の寫眞
一、臨奥伯書翰（明治廿六年）
一、同（廿八年）
一、加藤高明書翰（廿一年）
一、青木周藏子書翰（廿七年）
一、井上馨公書翰（三月二日）
加藤陸奥子爵所藏
一、ワシントン會議の記念寫眞（各國全權自署アルモノ）
一、ワシントン條約に於て署名に使用せし金ペン
鍋越光之男所藏
一、獨逸引揚の船越代理大使等の記念寫眞
一、引揚に際しての船越大使パスポート
一、同寫眞
東郷髮侯所藏
一、ロ提督と佐世保病院に見舞ふ
一、英帝戴冠式招待狀

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一、大隈侯の寫眞
一、明治廿五年軍騎旅行（二十八年亞歐旅行）
一、塞米巴拉丁斯科之圖
一、明石元二郎より福島大佐宛書翰
一、軍事通信は阿部臨時代理公使より林外務大臣宛報告
一、西部西比利亞詩集
一、外務大臣小村壽太郎より特命全權公使伊集院宛清國駐軍留學生退除之件通達
一、軍騎旅行出發記念寫眞大型
一、亞細亞地圖及會議出入寫眞
一、軍騎旅行中或地の要人と一しよの寫眞

三宅雪嶺氏所藏
一、岩倉大使一行への勅旨及別勅旨
一、條約改正問題に關する栗野氏の書簡
一、岩倉公一行の寫眞帖

西原龜三氏所藏
一、西原借款に關する西原龜三覺書、寺內伯簡札
一、日支親善と其事業
一、日支親善並に協定案
一、大正十四年支那外交委員王世廷、黃郛等を代表に貴良より日支親善を創する親書

東洋文化協會所藏
一、寫眞

山座縣書氏所藏
一、德大寺公よりの書簡
一、西園寺公よりの書簡
一、關印を認めた夫人宛の給はがき

中田敬義氏所藏
一、伊藤公、山縣、井上書簡合本　卷物
一、陸奥伯　同　同
一、西園寺公書簡　同
一、琉球事件原案（付談判筆記）
一、日清講和始末
一、同會見要錄
一、使清辨理始末（大久保公使）
一、蕃々錄
一、日英條約改正記事
一、同　（附錄）
一、日米條約改正記事
一、條約改正記事（青木子在職中）
一、ポルトガル條約中裁判權破棄の件
一、日清韓交涉事件記事（加藤高明自筆）
一、日韓交涉略史
一、陸奥伯會議
一、三國干涉要錄
一、清韓諸稿
一、朝鮮事件に關する錄書綴込
一、日韓交涉交涉の眞相
一、防穀事件覺書

內ケ崎作三郎氏所藏
一、嘉永六年大合衆國よりの書簡（和譯）
一、浦賀黑船渡來の圖橫濱上陸
一、初代廣瀨華英國ロンドン

竹越與三郎氏所藏
一、平和會議に於て西園寺公の署名に使用せし萬年筆
一、陸奥伯の油繪

西伊三次氏所藏
一、黑田清隆當見書卷物
一、青木周蔵子書簡
一、陸奥宗光書簡
一、西徳二郎寫眞

川島信太郎氏所藏
一、昭和六年アルバニヤ公使館開設にあたり川島公使が信任狀捧呈のため王宮に向ふ寫眞
一、セツア會議日本全權團寫眞
一、第二回勞働總會日本代表團寫眞
一、井上外務卿條約改正列國使臣會議模擬寫眞
一、ダルサイユ平和會議國員全員記念寫眞
一、明治四十年小村侯條約改正關係者記念寫眞

下田町丁仙寺清水鶴一氏所藏及下田町役場所藏
一、ハリス旅行記念金集
一、ハリス・ヒュースケン寫眞
一、黑船の寫圖
一、ハリスの信任狀
一、日本上陸のペルリ提書寫眞
一、古文書（イ、お吉仕度金請求書　ロ、お福病氣快癒扇）
一、唐人お吉の三味線
一、唐人お吉の愛用の煙草盆
一、御用狀箱
一、安政開港當時の下田地圖
一、ギヤマンの起

下田町玉泉寺所藏
一、ハリス・ヒュースケン使用の提燈
一、下田奉行宛ミシシピー船持ヲリより書簡（邦七、英二、蘭二）
一、リー持參のウインボトル

明石元長氏所藏
一、ロシアより明石元二郎の報告書

田中龍夫氏所藏
一、田中義一上海遊歩に際し兇彈に打貫かれたる帽子
一、田中の對支政策原案
一、日露宋戰戰列の寫眞
長濱豐壽氏所藏
一、明治五年岩倉公一行の桑港にての寫眞
一、福島少佐西比利亞遠征の圖
一、臺灣澎湖島占領之圖

渡邊傳次郎氏所藏
一、外船渡來文晃・樂翁歌　軸
一、アメリカ人渡來之圖
一、各國人物圖二枚屏風
一、ロシア人渡來の圖　軸
一、阿部正弘寫眞
一、橫濱開港圖畫
一、柴地ホテル繪畫
一、スイス公使館及下田アメリカ領事館寫眞
一、鐵使ブーチャチン長崎渡來の圖軸

村松春水氏所藏
一、安政四年下田奉行所の製圖
一、嘉永七年幕吏が下田名主等を使役し作製した下田名主等を使役し作製した下田港の圖

一、安政津浪前の下田地圖

花園養定氏所藏
一、福澤諭吉「西洋事情」（明治三年）
一、中村敬宇譯「自由之理」（明治五年）
一、尾崎行雄「退去目錄」
一、隼寫本「安政雜記」
一、ハーサンゲ大統領署名入寫眞（文句は平和希望のメッセージ）
一、英國戴冠式の本

大山卯次郎氏所藏
一、岩倉公一行の寫眞
一、同役寫
一、スローフン氏岩倉公より拜領の品寫眞
一、米國公使ディーロングと岩倉公の寫眞

尾佐竹猛氏所藏
一、萬延元年新見豐前守一行寫眞
一、竹內下野守一行同
一、池田筑後守一行同
一、小出大和守一行同
一、樣川民部大輔一行同
一、岩倉大使一行同

I-0380

外國館

ドイツ政府所藏
一、全權公使オイレンブルク信任狀（一八六二年）
一、青木公使全權委任狀
一、日獨通商條約（一八九六年）
一、同（一九二一年）
一、東亞新聞一號
ドイツ大使館所藏
一、動くナチズム寫眞
一、黨首關係の寫眞
一、ヒットラー二題の寫眞
一、K・D・F運動の寫眞
一、突擊隊と親衛隊人形
一、地形圖
英國大使館所藏
一、震災前の英國大使館寫眞
一、親日公使サー・アーネスト・サトー氏寫眞
一、最初の駐日大使サー・クロード・マクドナルド寫眞
一、インヒハリアル、エイアウエイ地圖
一、飛行艇の解說圖
米國大使館所藏
一、ヴェルサイユ條約記念署名集
一、ヘルリ提督及乘組員の寫畫

一、米國地圖
一、ルーズヴェルト大統領自署寫眞
一、ジョージワシントン寫眞
一、米國議會議事堂寫眞
一、大統領ウイルソン、ハーディンゲ、クーリッジ、フーヴァ　四人の寫眞
墨國領事館所藏
一、クインハエリザベス號模型
一、ポスター
一、觀光パンフレット
一、墨國八州パンフレット
一、ジュニツケ寫眞
一、ミクラス寫眞
一、スタールンベルケ寫眞
一、ドルフス寫眞
丁抹公使館所藏
一、丁抹統計
一、丁抹寫眞帖
一、寫眞
一、憲法、法律及勅令
一、アイスランド年鑑
一、アイスランド特別號
一、グリーンランド寫眞帖
一、日本條約寫し
一、王三王起寫眞（枠入り）
一、鳳俗寫眞
一、大臣寫眞
一、國旗
一、新聞
一、國旗
ノルウエー公使館所藏
一、寫錄
一、寫眞帖
一、寫眞
一、地圖
一、ポスター
一、新聞
ブラジル大使館所藏
一、大統領官邸寫眞
一、日伯國旗交叉の從物
一、經濟使節到著の額入り寫眞
一、ブラジル外交團創設記念メダル
一、代表新聞・雜誌
アルゼンチン公使館所藏
一、畫帖
一、在亞同盟畫帖
一、選擧國表
一、地圖
一、ガルシヤ將軍の寫眞
友枝高彥氏所藏
一、ヘルリ入港記念國劇の畫
一、ドイツの寫眞（中大）
一、ナチス突擊隊行進の人形
一、ドイツ國鳥獸地圖
一、廻廊カード
一、函館における板本武揚とドイツ人との九十九年條約
一、ナチス記念小旗
一、ポスター
日獨文化協會所藏

一、北海道七重村開墾條約の件寫眞
一、神纏縣宮古島の碑の石版刷軸
一、ドイツ人形（箱入）
一、ポスター（畫）
馬場秀夫氏所藏
一、ロシア風俗人形
一、イギリス軍人人形
一、ウズベクの著物
一、同バンド
一、同帽子
一、同樂器
巷川義信氏所藏
一、文久二年七月伯林宮城白の廣間に於ける遣歐使節竹內一行の賜謁式次第書
一、同著席位置を示したる圖面
一、明治四年特命全權大使米歐回覽實記
一、シーボルト寫眞
一、玉井喜作寫眞
一、同氏著西比利亞征途紀行
一、同氏發行「東亞」合本
一、日露戰爭直後モスクワで發行されたる漫畫
一、同フランスで發行されたる漫畫
一、日露開戰當時山縣元帥と密偵間の報酬契約書寫眞
一、日本婆さんに關する寫眞（額入り）
一、獨逸陸軍と日本陸軍との關係寫眞（額入り）
一、シーボルト書簡
一、獨逸選擧ポスター（一九二四年）

一、センデンベルケ元帥立像
一、同署名入り寫眞
一、ローセンベルケ著書
一、マックケンセン將軍寫眞
一、ルーデンドルフ將軍寫眞
一、ラインハルト・シエール寫眞
田村幸雄氏所藏
一、民族別歐洲地圖
一、米大統領選擧ポスター
水田文雄氏所藏
一、獨逸選擧小旗（紙製）
一、ポーランド廻廊カード
一、ナチス宣傳用パンフレット
一、反ナチス同
一、歐洲大戰中の布告
一、獨帝（カイゼル前帝）彩色寫眞
一、大戰爭中の募債ポスター
一、反ヒットラー、ピラ
一、選擧チラシ
一、支那解放小漫子
大塚虎雄氏所藏
一、獨逸突擊隊制服上下、製帽、バンド
一、同徽章
一、一九三四年ニューレンベルケ大會記念章
一、同小旗
一、冬季救濟事業、國民勞働祭等の記念章
山田純三郎氏所藏
一、世界良愛用のステッキ
一、中華民國要人の書幅

一、寫眞帖
一、獨泥鴻爪
一、手紙
一、壁
一、孫文領收證
小谷節矢氏所藏
一、吳佩孚の書
出淵勝次氏所藏
一、內閣官報一號
本庄繁氏所藏
一、肅親王及竹丸の書（裝表）
一、書幅の書（同）
一、畫幅の書（裝表）
一、百々巳之助氏所藏
一、オルデンスアルケの寫眞
一、勳章及勳記
一、ゲッベルスの手紙
一、米國
須藤彌吉郎氏所藏
一、帖
坂部重郎氏所藏
一、インフレーション當時（ドイツ）の紙幣
一、ハーケンクロイツ章
一、銅牌
山崎次郎氏所藏
一、サン・マルチン寺軍銅版
一、土人（ガウチヤ）の繪
松本直明氏所藏
一、ナチス黨大會記念章

I-0380
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一、寫眞　一
東京市役所所藏
一、オリムピック旗　一
一、チチハル旗　一
遠藤知雄氏所藏
一、印度風俗人形　一
一、琉球國立戰爭記念の劍　一四
一、琉球國大統領夫人よりられたる貴箱　一
高堀信雄氏所藏
一、ケアガン國宗教用笛の孫先　一
一、同　戰斧　四九
一、印度土人の人形　二
一、ケアガン戰士の大小刀　一
一、ネパールのアガン風俗寫眞　數多
一、英領裏藏　二
一、オモルタールのペルシス佛寺油繪　二
一、ラセンタールのゴール油繪　二
一、ネパール國王ハリエンドラの寫眞　一
一、ネパール國王クリシナアデアールの寫眞　一
一、アフガン新銃　一
一、同　玉入　二
一、ペンゴール州のペンゴール大虎の毛皮　一
一、アフガン國救高勳章同勳記　一
一、ネパール土の大小刀　一
一、アフガン獨軍大臣寫眞　一
一、ウフガン風俗寫眞　一
一、その他　一八

陸軍館

梨本宮家
一、梨本宮守正王殿下陣中御使用の御軍刀　一
一、同　御拳銃　一
一、同　右陣中御撮影の御寫眞　一
閑院宮家
一、載仁親王殿下陣中御着用の御軍服　一
一、同　右　御軍帽　一
一、載仁親王殿下陣中御撮影の御寫眞　一
一、同　右陣中御着用の御軍服　一
一、同　右陣中御撮影の御寫眞　一
一、載仁親王殿下御着戰の圖　一
一、載仁親王殿下ム戰へ奉る軍歌　一
一、載仁親王殿下御假宿の支那家屋寫眞　一
一、載仁親王殿下とカールアントン殿下との記念御寫眞　一
久邇宮家
一、久邇宮邦彦王殿下陣中御撮影の御寫眞　一
竹田宮家
一、竹田宮恒久王殿下陣中御使用の御軍帽・水筒・茶碗　一
一、同　上　副官御肩章　一
一、同　上　御出征の砲廣島にて御撮影の御寫眞　一
帝室博物館藏
一、有栖川宮熾仁親王殿下西南役の砲御使用の御軍服　一
一、有栖川宮熾仁親王殿下江戸御滯陣中御使用の御筒袖　一
歩兵第十五聯隊藏
一、傷兵獻金受付納付簿（明治卅七年二月起）　一
大村藩藏氏藏
一、明治天皇より大村益次郎に御下賜の衣冠裝束　一
一、有栖川宮熾仁親王殿下より御下賜の鎧扇　一
一、大村兵部大輔寫眞　一
一、大村益次郎兵家須知戰圖術門草稿　一
廣島縣藏藏
一、大本營跡全景　一
一、大本營玉座　一
一、臨時帝國議會全景　一
一、當時の大本營　一
松本市役所藏
一、諏訪大將西伯利亞單騎旅行の際使用の双眼鏡、雪除目眼鏡、携帶硯箱　一
一、朝鮮出兵に當り大島混成第九旅團長に與へたる伊藤內閣總理大臣の訓令原稿　一
一、白樺隊長中村將軍の軍袴斷片　一
第七師團藏
一、清國軍旗　一
一、屯田兵作業服袴　一
一、櫻井忠温氏藏　一
一、〃　麻脚絆　一
一、〃　軍衣袴　一
一、〃　軍帽　一
一、〃　手袋　一
一、〃　防塞用帽子　一
一、〃　家族戒令　一
陸軍運輸部藏
一、明治卅八年十二月凱旋宇品軍用桟橋上の滿洲軍總司令部　一
一、滿洲軍總司令部乘船の際宇品軍用桟橋通過の光景　一
一、明治卅九年一月第三軍司令部宇品上陸の光景　一
一、明治卅九年凱旋宇品軍用桟橋上に於ける第三軍司令部　一
大山巌公藏
一、大山元帥の陣中日記　一
一、〃　勳章　一
一、忠魂錄（大山元帥が全軍の冥福を弔ふため作りたるもの）　一
一、大山元帥寫眞大額　一
一、元帥陣中使用の地圖　一
一、大山大將第二軍司令官補職辭令　一
一、大山第二軍司令官の旅順口攻撃命令　一
一、同上、陣中使用の被服、靴、双眼鏡、雪除目眼鏡、携帶硯箱　一
一、朝鮮出兵に當り大島混成第九旅團長に與へたる伊藤內閣總理大臣の訓令原稿　一
一、清國軍旗　一
櫻井忠温氏藏
一、越中島訓練圖　一
一、駒場大實習圖　一
一、日比谷觀兵式圖　一

吉岡文六氏所藏
一、敵天仇の書　一
白岩龍平氏所藏
一、孫文黃興の招待狀　一
一、唐有壬父君の張之洞を刺しに出かける時の詩　一
林久治郎
一、プラジル勳章（勳一等）　一
一、シヤムの人形　一
岡野增次郎氏所藏
一、吳佩孚の書　一
水野梅曉氏所藏
一、蔡鍔の書電　一
一、北京國會傷禍券　一
一、蔣介石、宋美齡合影自署　一
一、廣東軍政府解散記念メダル　一
一、蔣介石書簡　一
高木陸郎氏所藏
一、張作霖・吳佩孚妥協の手紙　一
一、胡漢民、孫文、曹潤、張元洪、吳佩孚、李烈鈞の書　一
濱野宋太郎氏所藏
一、日本國民に致すメッセージ　一
一、孫文遺名宋慶齡書　一
信矢準平氏所藏
一、支那海軍、艦艦長の寫眞　一
一、支那勳章の勳記　一
一、支那艦除の寫眞　一
一、陳紹寬の書　一
矢田長之助氏所藏
一、黃金佛その他　一
山口武氏所藏
一、シヤムの佛畫　一
その他
チエツコ・スロヴアキア公使館所藏
一、國旗　一
一、大統領（前・現）寫眞　一
一、同　官邸　三
一、ソコール運動寫眞　一
一、風俗寫眞　四〇
フインランド公使館所藏
一、新大統領寫眞　一六
一、新聞　一
イラン公使館所藏
一、國旗　二
一、葉書　二
一、エハガキ（寫眞）　四
オランダ公使館所藏
一、大臣の寫眞　四
一、議會の寫眞　一
一、橋工事の寫眞　一〇
一、海井　二
一、橋　一四
ソヴイエト聯邦大使館所藏
一、寫眞　九
日佛會館所藏
一、政治樣態外數點　數多
中華民國大使館所藏
一、寫眞　三
一、他多數　一六〇
伊太利大使館所藏
一、出品物　多數

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一、名古屋地方陸海軍大演習圖
西郷從道侯藏
一、征蕃役當時西郷將軍着用の軍服鈕　一
一、生蕃蕃輪（生蕃酋長降伏の印として將軍に贈呈せしもの）
會我子藏
一、西南役薩軍使用の小銃彈
一、セバストポール要塞地圖
野津侯藏
一、第一軍々歌
一、野津元帥の軸
一、〃　日清役陣中着用のマント及頭巾
一、〃　軍帽
一、騎兵上等兵南恒三郎戰場スケッチ　套帳
一、日清戰爭錦繪
一、野津元帥日露戰役着用の軍帽
一、〃　防寒頭巾
一、〃　軍服上下
一戸閣下藏
一、清兵の逆發銃（日清戰役）
一、乃木大將陣中使用の毒劑及毒石（煙草罐入り）
一、清國人より贈れる天長祝旗
谷子藏
一、乃木大將（當時中佐）書狀及電報（谷干城將軍に送りしもの）
一、懷中時計（谷將軍愛用の品）
歩兵第十八聯隊藏
一、大隊旗（日露役）

三

大島子藏
一、大島混成旅團に對する伊藤公爵の訓令
一、血染の軍服白シャツ
一、軍刀
一、船橋里激戰圖
長谷川子藏
一、乃木、長谷川兩將軍の肖像
山縣公藏
一、山縣有朋公より西郷南洲翁に送れる自刎勸告文の草稿
一、西南戰役に於ける山縣臨軍團の軍衣袴　夏外套
一、同　右
一、山縣元帥西南役に着用の夏軍服
一、同　夏外套
一、山縣元帥日清役第一軍司令官として陣中着用の軍服
一、同　（陣中にて常に居室に掲げられたるもの）ハンカチニテ自製の國旗
達畑清氏藏
一、日露戰役出征者の餞別帳
一、日露戰役記念繪葉書悪交ぜ屏風
一、明治十年軍除手帳
一、旅順陷落祝賀會の際掲げたる旗
一、日清役漫畫「百撰百笑」
一、日露凱旋當時情況繪葉書アルバム
一、日清役英文寫眞帳
一、日清役記念畫帳
一、日清日露記念切手類
西園乙氏藏
一、西周倉像
久保田金僊氏藏
一、久保田米僊筆戰場スケッチ
一、成歡襲撃私畫大捷圖
一、清國兵の軍刀
尾佐竹猛氏藏
一、兵學綱内則
一、兵學校挽書
一、海軍刑律
一、とことんやれぶし
一、明治元年官軍の肩章（所謂「錦切れ」）
一、重訂英國歩兵練法　一
一、大隊實地演習　故八
一、新兵體術
一、佛蘭西令官圖解
一、英國歩兵練新式
一、兵家須知戰鬪術門
一、英國歩兵練法
一、明治四年軍隊手帳
一、軍艦裝式
一、散兵略解
一、英國軍陣力衆
一、英式歩兵號令圖
一、練隊長歌並出陣提撕
一、生兵教練號令圖
一、砲術百葉圖說
一、鼠風新語
一、三兵答右知義
一、海上砲術全書

二二
二二
二六

一、自耳曼軍律
一、英國鼓笛譜
一、喇叭符號
一、改正生兵小隊教練號令順序
一、小隊教練號令順序
一、西洋式具短歌
一、獨兵論
一、海軍治革論
一、兵學程式
一、元込筋入銃
一、野戰西路
一、英式新氏築城典型
一、築城典型
一、野戰論
一、軍事小典
一、壯猶館歩兵稽古法
一、小隊教練書
一、生兵教練書
一、陣中要路
一、拔隊龍圖解
一、西洋砲術便覽
一、佛蘭西輕歩兵程式
一、歩操新式
一、歩兵制律
一、歩兵心得
一、游泳小學
一、鈴林必携
一、横隊教練號令圖
一、砲術略選
一、射擲試效表

四　三　一　五　五　二　二　三　一　一　五　四　二　一　一　一　一　一　一

一、雷銃操法
一、兵士懷中便覽
一、手銃論
一、拔隊龍練法
一、山砲略記
一、歩隊教練圖
一、軍衆日典
一、軍隊法則
一、海軍下士官
一、海兵隊服制
一、海軍文官服制
一、和蘭王兵學校捉書
一、白鳥也學校圖式
一、兵部省達
一、海兵操範
一、改訂銃臺條例
一、改守略記
一、陸軍士官必携
一、英式運用全書
一、海軍武官服制
一、横濱太田陣屋英式教練寫眞
一、蕃陸軍省寫眞
一、臺灣征伐に於ける西郷從道中將寫眞
宮川順次氏藏
一、吉岡大佐陣中にて乃木大將に沈且侵の戰況を報ずる書簡
一、山岡中佐の盲ひたる後乃木大將宛の訣別の書
一、同右　記事掲載の東京日日新聞

五　五　一　三　四　一　一　一　一　一　一　二　一　一　一　一　一　一

一、戊辰役の図
堺内文治郎氏蔵
一、反射鏡（青島浮山ヶ頂にて砲軍使用）
一、アルテンセール砲塞の薬莢
一、佐藤少佐の肖像畫
一、〃　〃　軍服
一、〃　〃　愛刀
一、青島攻撃正面寫眞図
一、青島石鼓ヶ嶺砲の景
一、佐藤少佐出發の記念寫眞
一、堺内中將日記
一、青島攻撃の図
藤井茂太氏蔵
一、從軍畫家曲翠雄畫
一、岡崎山に露軍の遺棄せる太鼓
真伯藏
一、奥元帥日露役陣中使用の双眼鏡
一、〃　〃　軍帽
一、〃　〃　軍衣
一、〃　〃　防寒具
一、慶雲堂第三軍兵站監部に於ける奥元帥寫眞
川村子爵
一、川村元帥の胸像
一、川村元帥陣中使用の足袋
一、川村元帥陣中使用の草鞋　由來記
一、同　右
五姓田芳柳氏蔵
一、軍旗授受式の図（五姓田芳柳畫）
軍人會館蔵

八

一、清國軍旗
長谷川正道氏蔵
一、乃木將軍陣中使用の図藏
歩兵第三十六聯隊蔵
一、白漆除の寫眞鏡
佐藤清勝氏蔵
一、平壤包圍攻撃元山支隊の図
一、鴨綠江渡河の図
土井福造氏蔵
一、傷兵部發行日露役記念扇子
一、日露役記念繪葉書
一、〃　〃　御下賜の盃
一、〃　〃　記念繪葉書
陸軍軍醫學校蔵
一、明治初年の藥舊
一、明治五年制定の陸軍看護卒用醫療背嚢
一、明治六年當時の三角巾及三角使用法
一、明治十年大阪鎮臺病院使用の三角巾
一、明治十年鎮臺裝藏除器
一、陸軍軍醫部廣入外科器械（明治十二年）
一、撰兵論　明治四年堺内利國著
一、詐病辨　明治八年軍醫副伊藤本支課
一、明治初年の捕聽器
一、明治五年色盲檢査器
一、同　陸軍視力檢査器
一、明治初年の耳鏡

二

一、明治初年の壓舌子
一、握力計（明治十八年）
一、身長計（明治十八年）
一、小銃彈摘出標本（乃木勝典少尉以下廿四名分）
一、急造手術臺（旅順開城談判の際草子代用としたもの）
一、旅順開城談判の際掛立したる國旗
一、同　赤十字旗
一、右に関する附屬寫眞
陸軍衛生材料廠蔵
一、醫嚢（西南役の使用品）
一、滿洲事變に使用の除毒嚢
一、滿洲事變の際鴨河にて府院列車に掲げたる國旗
一、同　赤十字旗
一、支那軍の錦帶嚢
一、同　錦帶色
一、滿洲事變の際支那軍の使用したる醫嚢（3）
大日本武德會本部蔵
一、村田銃發達史寫眞
歩兵第三十三聯隊蔵
一、三軒屋古戰場の寫眞
一、血染の第三大隊旗
一、吉岡大佐三軒屋會戰の図
陸軍機材本廠蔵
一、我國携帶口糧の歴史図表
一、同　携帶口糧　標本
一、携帶口糧現品
一、小型乾パン現品

二四

海軍館

一、壓搾口糧　現品
一、粉末粉味噌　内容標本
一、固形甘酒
一、〃　〃
一、〃　〃
一、粉飲料
一、軍預精
一、熱量食
一、携帶濃藥汁
一、航空不時着非常食　標本
一、壓搾馬糧
一、航空機上口糧
一、携帶燃料
一、乾燥野菜
一、同　壓搾品
一、粉末野菜
陸軍被服本廠蔵
一、明治四年制定　御親兵歩兵少佐服
一、明治七年制定　砲兵會長略服
一、明治八年制定　歩兵會長正服
一、明治十九年制定　近衛歩兵中佐軍服
一、〃　〃　歩兵上等兵軍服
一、〃　〃　騎兵二等卒軍服
一、明治三十七年制定　兵歩大尉戰時服
一、〃　〃　防寒被服
一、〃　〃　防暑被服
一、〃　〃　第一種航空被服
一、〃　〃　防彈被服
一、日露戰爭當時の防寒被服
一、〃　〃　露軍被服
一、日清戰爭當時支那軍被服

一

尾佐竹猛氏蔵
一、幕府時代の海軍幹部員寫眞
一、ペルスライケン寫眞
一、永井玄蕃頭寫眞
一、明治十年測量築地海軍省廨内の図
一、築地海軍兵學寮寫眞
一、海軍兵學寮當時使用教科書
イ、蒸氣器械學（大本）明治二年夏刊
海軍兵學校
ロ、土工程式
ハ、金屬中學
ニ、礮術教授書
ホ、英語讀
ヘ、多元一次方程式
ト、砲術書
チ、船具図解
リ、船内必携
一、波米當時の勝海舟寫眞
一、成臨丸造船図
イ、船體側面図
ロ、船體透視図
一、造米使節渡米當時の彼地新聞
一、〃　〃　新聞挿繪寫眞鏡
一、同關係図寫眞
江田島海軍兵學校蔵

三

一、回天艦長甲賀源吾
日比谷圖書館蔵
一、英國帝業館
一、江戸湾海賊図
子爵松平保男蔵蔵
一、房総警備繪卷物
海軍省蔵
一、觀光丸模型
一、函館海戰（洋畫）
一、高陞號撃沈（洋畫）
一、黄海海戰（洋畫）
一、軍艦新造模型二〇〇隻外ニ軍艦寫眞關表等、
松平保男蔵
一、房総警備繪卷物巻、夏、秋、冬

十二　五〇　四

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

交通館

通信

（逓信省電信局、日本郵船、東洋汽船、日本光機株式会社出品）

一、自動通話幻燈器
一、自動切手販賣機
一、D型自動押印機
水銀避雷機、無線電扇風器、浮水装置、周波数逓減装置、寫真術撮電歴發生装置、放送聯取用受信機、小型真空管電氣浮油機、パサルト製品、酸酸鐵素電線、車心燈（反射鏡付）、二重心石油燈、乙式六百燭光石油白熱燈、アセチリン瓦斯明燈（日光弁付）、アセチリン瓦斯急閃光燈、第四等不動電燈（點滅券付）、燈臺關係寫眞、關表、第四等二連閃光燈臺、靖國丸、佐渡丸、天洋丸、桶丸、菊丸、葵丸模型。
市内、市外電話ケーブル標本、電信ケーブル標本、自動交換機模型、和文印刷電信機孔機、同送信機、無線電信機孔機、同送信機、同レコーダー・同タイプライター

日本放送協會出品

一、（國　表）

全國放送局所在地圖（點滅装置）、全國中繼連絡線圖、海外放送系統圖、世界主要國別ラヂオ施設數並普及率、我邦府縣別聽取者數並累年增加數曲線、放送番組構成ノ年度別變遷圖及一日平均放送時間、放送ヨリ受信マデノ經路圖解。

（寫　眞）

愛宕山演奏所全景、新潟放送所全景、新潟放送所電力室、新潟放送所送信機室、新潟放送所配電盤室、東京大電力第一放送局全景、東京大電力第二放送所送信機室、東京大電力第二放送所電力室、名崎送信所全景、小室受信所全景、伯林市外ツェーセン送信所、英國テレビヨン放送局全景、大阪新放送局全景、BBC放送局全景、NBC放送局全景、伯林放送局全景、N放復口總理大臣放送寫眞、故犬養總理大臣同、故齋藤總理大臣同、岡田元總理大臣同、林總理大臣同、故元帥東郷平八郎氏放送寫眞、伯爵金子堅太郎氏同、故伯爵後藤新平氏同「我邦放送事業の開拓者」、公爵近衛文麿氏同「日本放送協會總裁」

（送話器の種類）

アール、シー、エー、コンデンサーマイクロホン、テレフンケン同、マルコーニ同、エクソン、ベル同、ウエスターン、ラベル、マイクロホン、シーメンス、パンド同、一テレフンケン、ライツ同、エム、エッチ、カーボン、マイクロホン、マルコーニ、ライツ同、ウエスターン、ダアルボイン同、マルコーニ、ムービンケコイル同

（高聲器の種類）

獨逸カールゲルレル會社製オスチロプラン、英國ブリュウ、スポット會社製ブリュウ、スポット、スーパー、デユアル、米國アラツシュ會社製ツウイーター

（再生障害の實驗）

受信機二基を設き一基にて再生振動を起さしめ之れを他の受信機にて受信し障害程度の實驗をなす

（同時に再生無防害受信機にて實驗をなす）

（放送より受信までの經路）

愛宕山演奏所、新潟放送所の關係を示すものにして畫面、寫眞關解及マイクロホン、受信機指輪器、商業線オツシログラフ等に依り放送の經路を平易に現はしたるもの

航　空

（陸軍航空本部、陸軍航空廠、陸軍飛行學校、陸軍航空研究所、陸軍飛行學校、陸軍航空本廠、協會日本、航空輸送會社、女子航空隊、鹿倉工業、住友、立川飛行機、東京瓦斯電、日本飛行機製作所）

交通の今昔（航空機によるもの）、飛行機發動機各種、飛行機プロペラ各種、各種模型飛行機、最新世界新鋭機切抜模型、グライダー實物、空の氣象、航空糧食、氣球、落下傘、防毒具、航空被服、飛行機材金屬類、旅客機大地圖、軍用機、民間機用途（曲折線圖用）高等飛行ジオラマ航空寫眞類、民間最初の犠牲者貳石浩孜氏遺品

鐵　道

（鐵道省關係各局課、鐵道小型模型クラブ出品）

一、實物及模型類
アプト式電氣機關車模型（大宮工場、未完）、清水隧道附近電氣機關車運轉模型、金剛丸模型、關門海底隧道工法模型（工務局）、省營自動車模型C型、A型、流線型省線電車模型、C55型流線形機關車模型、家倉模型（未定）、活魚車模型（未定）、F3電氣機關車（未定）、F5電氣機關車（未定）、米國流線形列車ザオラマ、鐵道知識の寶庫
（寫眞及關表類）
箱根越え（山岳鐵）寫眞、大井川發電流し（寫眞）、同上線物、ロコモーション同、ベルヶ持參蒸氣車模型寫眞、本邦鐵道創始功勞者寫眞（大隈、伊藤、井上）、秋人モレル（寫眞）、鐵道開通式關（同）、開通式外人スケッチ（同）、時刻貨金表（同）
一般機關車（同）、開通式勅語（寫し）、排廢發（寫眞）、新橋駅前鐵道馬車（同）、國產最初の機關車（同）、三等展臺車（同）、食堂車同、冷藏車同、青函連絡貨車就送寫眞、除雪車模型（ラッセル、ロータリー）同、アプト式圖表、ハンプヤード關表、丹那隧道同、海底隧道同省營バス同
電氣機關車寫眞（F2、F5）、特急富士機寫眞、鐵道博物館同（書館、新館）、清水トンネル關表、外國流線形列車寫眞
未來の交通、旅客、觀光ザオラマ、關表數畫

外地館

（臺灣館）

臺灣總督府殖産局所藏

一、トランスライト寫眞、臺灣神社、臺北新公園、臺北帝國大學、樂堂教育所、臺北舊市街、同新市街、舊廳舍、總督府廳舍、臺灣書房、新製糖工場、舊式糖業植物園　二二

一、彩色寫眞（製茶工場、茶園）　二二

一、圖表（臺灣貿易額某年對照表、臺灣の產業、再生茶產額）

一、米各種　三

一、茶各種　四

砂糖各種

同　專賣局所藏

一、煙草

（葉煙、刻、刻、葉煙草各種）

一、酒類　四一

（老酒、五加皮酒、糯米酒、ボンカノー各種）

一、樟腦、樟油その他　三四

同　文教局所藏

一、ヂオラマ（文教の今昔）

一、寫眞（教育關係）

一、圖表（教育過展の現狀その他）

同　書籍局所藏

一、統計表（理蕃の今昔を示す）　二七

一、山岳寫眞

一、教育所用國語讀本

一、國語教本

一、教育所畫帳（教師用、兒童用）

一、教育所略畫帳

遊戯教材集

教育所用唱歌教材集

一、書方及圖畫

一、靴、手提、背負袋　二二

一、マラリア蚊（寫眞）

一、規矩、ギニール關係圖表

規矩樹關係寫眞、探本、製品等

一、衛生關係統計及圖表　二八

一、枹　一

一、帶刀　一

一、綱袋　六

一、帽子　二

一、テーラ　二

一、パイプ　五

一、耳飾　六

スプーン　九

一、帶衣　六

一、服飾、褶、帶刀吊、呼鈴、シクシ火藥、火藥入、首飾、食器、頭飾　各一

同　交通局所藏

一、臺灣を中心とした交通關係圖面、圖表　二四

各會社所藏

一、臺灣青果株式會社　各種青果物

一、臺灣合同鳳梨株式會社　各種鳳梨罐詰　二九

一、臺灣興業株式會社　各種建材用テックス、紙

一、高砂香料株式會社　各種香料

一、大日本糖業聯合會　各種砂糖

一、日本石油株式會社　各種石油

（樺太館）

樺太廳所藏

一、樺太模型　一七

一、樺太の古地圖　三

日露戰況寫眞　二

鳳凰剝製　六

鳳凰獸剝製　二

ロツペン鳥剝製　二

パルプ及製紙標本　〇

石炭　六

石炭低溫乾留標本　一

ツンドラ　一

ツンドラ加工品　九

アンモナイト加工品　〇

狐皮　四

重要物產　〇

映畫（樺太）トーキー館　〇

この外、產業製光關係寫眞　五

閑宮正倫氏所藏

一、閑宮林藏先生肖像　二

北海道長官よりの表彰狀　〇

林藏先生使用の毛布　一

先生雜誌探檢中使用の頭巾　一

測量用の鎖　一

一、先生自筆海圖船行圖　一

一、北蝦夷圖記　一

一、先生使用の雜製石の硯　一

一、先生使用の天グラス　一

小樽近海野船株式會社所藏

一、樺太日露國境畫定寫眞　一

（南洋館）

南洋廳所藏

一、南洋群島の地圖　一

一、南洋三時代ヂオラマ（軍政時代—民政時代—現在）　一

一、鐵物その他參考品　一

一、椰子の木　一

一、飛行場から見た群島大觀（パノラマ）　五

一、群島風物演繹　一

一、同上寫眞　六

南洋興發株式會社所藏

砂糖、酒精、繊術

南洋貿易株式會社所藏

コプラ、鑑節

南洋拓植株式會社所藏

燐礦、南洋鳳梨の罐詰

南洋コーア株式會社所藏

パパイン　三

（朝鮮館）

朝鮮總督府所藏

一、農產　人參栽培狀況、棉花栽培狀況　一

一、畜產　緬羊飼育狀況（南棉北羊）　一

一、林產　鳴綠江筏流狀況　一

一、工產　朝鮮窒素興南工場の全貌　一

一、水產　朝鮮東海岸鯖水揚げ狀況　一

一、鐵產　釜二浦製鐵所全貌　一

ドレッヂャ（砂金採取船）　一

一、咸北三長警察署農事洞警察官駐在所模型　一

一、咸南新昌坡警察署兎坪警察官駐在所模型　一

一、殉職警官の遺品並に匪賊討伐の際の鹵獲品　一

イ、總督府鐵道局施設　一

イ、朝鮮樂物の運搬模型　一

ロ、鳳光ヂオラマ　一

イ、總督府遞信局施設　二

イ、現在の遞信事業の全貌　二

ロ、韓國時代の遞信事業　二

（切手、葉書、馬牌、チゲ、郵便旋、通符、帽子、笠、印箱、秤、算盤、執務狀況、通信院、電報總司、雨中集配圖、電話交換作業圖等）

一、學務局鮮內教育施設に關する圖表並に朝鮮語文教科書　一

一、內務局土木課の朝鮮土木事業の圖表　一

一、農林局林政課より、北鮮開拓の圖表並に寫眞（火田民指導部落）　一

一、朝鮮の風俗習慣の今昔比較寫眞　一

朝鮮各道所藏

京畿道。忠清北、南道。全羅北、南道。慶尙南、北道。平安北、南道。黃海道。江原道。咸鏡南、北道。の各道よりそれ〳〵その產物を出品、第一室に陳列す。

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

滿洲館

滿洲國政府、關東局、南滿洲鐵道會社所藏

(一)「日本と滿洲」
一、漫畫風圖表 一二
一、日滿提携圖表 一
一、日滿人口、面積比較表 一
一、昭勅額 一
(二)「滿洲大觀」
滿洲現勢模型 一
(三)「政　治」
一、滿洲國政治機構、圖表 一
一、日本の對滿機構、圖表 一
一、滿洲國統治組織圖 一
一、滿洲國對外關係圖表 一
(四)「軍　政」 六
一、滿洲國陸海軍被服類及皮革類 一式
一、同陸海軍紹介寫眞、 一四四
一、同首腦者肖像寫眞及略歷（司令官、學校長以上） 二一
一、同軍系統表（軍事諸機關幾關係）
一、同軍給與一覽表
一、同陸軍教育機關系統表
一、同海軍各種教育食糧表
一、江防艦除警備圖表
一、匪賊の全滿分布圖表（電氣投影式）
一、共產匪の分布圖表
一、匪賊の山塞生活（パノラマ式）
一、紅軍の常委する奇襲に於ける地形及其戰法圖
一、北部東邊道に於ける討伐成果一覽表
一、滿洲建國役戰傷者年次別統計表
一、歯獲品展覽
一、ポスター、標語、傳單、パンフレット、畫報陳列
一、最近一ヶ年國軍略史（パノラマ式）
(備考、蒙古軍除包、蒙古包は屋外航空壁面前に陳列す)
(五)「交　通」
一、特急「あじあ」油繪
一、事變前の滿洲鐵道圖
一、現在の滿洲鐵道圖
一、事變後建設圖表
一、自動車路線圖
一、航空路圖
一、水運圖
一、通信圖
(六)「產業と資源」
一、農村と放牧のパノラマ
一、日滿產業比較圖
一、主要穀物收穫高累年比較表
一、畜產圖表
一、林產分布圖
一、重要鑛產分布圖
一、鑛產埋藏量、圖表 三〇
一、重要鑛產埋藏量比較表
(七)「貿　易」
一、大連港パノラマ
一、滿洲主要輸出品圖表
一、滿洲主要輸入品〃
一、主要國別貿易額表（輸出）（輸入）
一、同
(八)「投　資」
一、日本の滿洲投資額圖
一、滿洲に對する列國の投資圖表
一、事變後に於ける日本の對滿投資額
(九)「移　民」 一四
一、日本移民入植圖
一、優良風圖解
一、國策大移民計畫圖
一、滿鐵自營村圖表
(一〇)「滿　鐵」
一、滿鐵の組織並に社業圖解式パノラマ

地方館

一、觀光と交通の香川
一、觀光事業の盛賀
一、產業愛知
一、大兵庫パノラマ
一、水產宮崎
一、觀光の大分
一、產業と觀光の山口
一、自治歷史展觀の群馬
一、觀光の宮城
一、パノラマ大阪府大觀
一、產業埼玉
一、產業千葉
一、東京府自治產業大觀
一、港灣施設及び觀光の靜岡
一、自治と日本一名物コンクールの新潟
一、觀光と產業の富山
一、拓殖事業と觀光の北海道
一、自治、產業の福井
一、自治、產業の高知

東京市

一、東京市大觀パノラマ

横濱市

一、今昔の横濱ヂラマ

神奈川縣

一、自治旗
一、神奈川縣戸數人口の趨勢
一、神奈川縣市町村財政の趨勢
一、ペルリ上陸記念碑寫眞
一、關所通行手形百姓
一、關所通行手形町人
一、關所通行手形婦
一、關所通行手形武士
一、大名見合せ印鑑
一、陣笠
一、道中笠
一、十手
一、鈴
一、關札
一、紙芝居
一、芦の湯村寫眞
一、飛行機上より俯瞰せる横濱貯木場
一、埋立地より見たる後潮の一部 三〇
一、保管場の一部と第一第二開門
一、横濱市設貯木場設備平面圖
一、横濱港最近十ヶ年輸入木材消長
一、神奈川縣京濱工業地帶造成計畫圖
一、湘南道路俯瞰圖
一、箱根眞鶴線道路寫眞
一、湘南道路寫眞
一、鎌倉比較表
一、貴賓室寫眞
一、縣廳令寫眞
一、納稅奬勵旗
一、縣令解散寫眞
一、縣廳令模型
一、幹產物——寄木七寸三ツ抽キ外百數十點

山梨縣

一、甲府市長寄木造造寫眞
一、甲府市創四十年記念誌
一、午砲所寫眞
一、水晶細工品
一、國　表
一、現代知事寫眞
一、縣廳令圖
一、書縣廳令寫眞
一、富士五湖パノラマ
一、御沙汰寫寫
一、恩賜林寫眞
一、葡萄酒及液
一、雨端硯
一、武川村幹部寫眞
一、武田信玄像圖
一、子供服地
一、洋服裏地
一、山縣大貳像、木彫
一、柳子新論
一、縣政功勞者寫眞
一、甲州屋忠右衛門寫眞及古文書

栃木縣

一、御朱印帖
一、第壹回縣會日誌
一、栃木縣廳寫眞及皆濟上納日條
一、今市報德役所模型
一、田中正造遺墨 三一

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

、田中正造山兵衛
、田中正造直訴狀寫眞
田中正造遺物矢立
、田中正造遺物持
、大平天狗浪士屯集日誌（水戸浪士一件綴）
、太平天狗浪士屯集所使用杓子
、出流天狗浪士大谷刑部遺物偶刀
出流天狗浪士大谷刑部遺物帳子
、明治二十三年村會日誌
、明治二十三年村地誌
、第壹回縣會議員遺墨
、栃木縣名勝史蹟鳥瞰圖
、栃木縣下生産物の種々相
、栃木縣勢五十年間の伸展
麻及加工品
、粘銅線本
、織物生産統計圖表
、十年前の織物（茂臺紬、紺絞、ホグシ）
、現代の織物
、流行圖案
絞結織
、ホツト織
、スパンクレープ、
、シルバーサテン

茨城縣

、寫眞山岡高歩
、同・林信夫
、同・土浦櫻川の櫻
、同・西山莊
同・結城絹製織
、茨城縣敎育圖
、茨城の觀光と産業
、茨城縣現勢一班
、木綿
、反射鏡
、斗析
、農迫養木
土管
、鳥帽子
、加波山事件取締關係書類
、備藥燒花盛器
、備藥燒灰皿
、模細工硯箱
梅細工農人形等産物

長野縣

、觀光ガイダマ
、縣圖
、統計圖表
寫眞
、書籍
、染物
、胡製テント
、胡織物
生絲
、蘭
、胡製書棚
、漆器盆
白樺製登山人形
、牽果
山形縣
、上杉屋山公寫眞
、山形縣史
、いづめな人形
笹野彫
、蔣祇駒
、寫眞（縣行造林）
、洋梨罐詰
、櫻桃罐詰
、同罐詰
、唐辛持
、繪羽織
、羽前朱子
、アツカエンド
花瓶
、鐵瓶
、煙草セット
、山形縣會史
、パンフレット

福島縣

、奥羽地方御巡幸日割證書
、廣縣關係引繼書
明治十一年縣會開會式行事
同・答辯者心得
、縣會議案
、縣會議員當選誓約書
、福島縣民會規則略解
、參事院裁定書（巻物）
、明治十五年縣會決議書
、福島縣管轄沿革表
仮坂温泉寫眞
相馬燒讃呑、
花瓶
、三組木杯
ホームスパン
、結綿織
、搽駒
、白粉入
、福島縣鳥瞰圖
紅茶セット
、酒樽
、貸狀
石炭

宮城縣

、觀光の宮城

岩手縣

、統計圖表
、岩手縣振興鳥瞰圖
岩手縣特産品
、岩手縣觀光寫眞

秋田縣

、寫眞枠入
、各種立體統計（八種）
、佐竹義堯公小銅像
、特産物
、玄米外八點
、秋田縣全圖及縣誌
、秋田の觀光と源泉
、秋田縣の地位
、秋田縣勢要覽及提要
、秋田縣林業概要
、秋田縣第五十一、二、三回統計書
、偉人石川翁の事業と貢行
佐竹義和公頌德集金
、加藤景林父子傳
、石川翁の業績山田村經濟新法記事
十和田開拓の偉人和井内貞行翁
、栗田定之丞
、齊藤宇一郎君像
、平田篤胤、佐藤信淵兩大人像
大正二、三年秋田縣凶作震災史
、感恩講圖卷
、同・慣例
同・慣例義解
、同
、同・誌略
石川理紀之助翁の未改良の件

青森縣

、十和田國立公園鳥瞰圖
圖表（貯蓄、罹災、縣費）
、苹果現品
、青森市選擧關係ポスター
、弘前市寫眞
、八戸市寫眞

山形縣

、山形縣鳥瞰圖
、山形縣行政沿革圖
、縣費歲出總額圖
、牧畜高圖
、米收穫並作付反別圖
縣勢いろは統計
、初代知事三島通庸寫眞
、縣政功勞者高橋警兵衛
、菅縣令寫眞
、現縣廳舍寫眞
寫眞（山寺）外七點

大阪市

、商都大阪市大觀
、パノラマ

大阪府

、織維關係
、金屬關係
、鑛製品
、アンチモニー製品
、機械器具關係
、化學製品關係
其の他

京都府

、桂川改修模型
、京都府豫算膨脹統計圖表

I-0380
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

京都市

- 宗門入別帳
- 戸籍簿
- 年寄五人組より挙行所へ孝子上申書の寫
- 年寄五人組発書
- 親町要用金帳錄、
- 上下京町々古書明細書
- 市中制法
- 町役心得條目
- 郡中制法
- 村庄屋心得條目
- 東照宮御朱印
- 豊太閤御朱印
- 嵯川組申合書付
- 京都町中可合融知條々
- 宇町代勝狀
- 大年寄御用中日記
- 博突逃例帳
- 歎金受取證
- 町地蔵草出現由來記
- 條目
- 私用帳
- 町議定法規
- 饅頭屋町誌
- 町入承郎一札
- 御紋章附御土器
- 町議定
- 町年貢控
- 町議式目
- 市區學區町公同組合規約
- 京都市鳥瞰圖
- 京都七十年史概項
- 京都市域變遷と人口增減
- 公同組合の結構
- 扇子、唐織九帯外數點

神戸市

- 繪葉書（縁新の神）
- 同（開港當時の神）
- 同（市制實施當時の神）
- 同（大正時代の神）
- 同（昭和の神）
- 地圖（縁新前）
- 同（開港當時）
- 同（市制實施當時）
- 同（大正時代）
- 同（昭和時代）
- 年表並圖表
- 統計及說明書
- 同
- 同（仙際島）
- 同（舞島）
- 同（千光寺）
- 同（三谷峡）
- 統計圖表
- 外產物 數十點

廣島縣

- 觀光寫眞（史蹟厳山陽居宅）

名古屋市

- 汎太平洋博模型

滋賀縣

- 箱 新
- ピロード
- 紋 帳
- 紬
- ベッチン
- 大津繪人形
- 信樂陶器
- 麻 布
- 觀光寫眞
- 同上ポスター
- 產業と觀光の滋賀縣地圖

奈良縣

- 赤膚燒
- 杉割箸
- 銘酒
- 素麺
- 奈良人形
- 茶筅
- 奈良漆器
- 墨（紅花、平和、男虎大、金鶴明）數種
- 毛筆
- 西瓜（木彫）數種
- 絶紋帳
- 貝 細
- 金剛砂

三四

- 寶 樂
- 村 木
- 金 魚
- 觀光パンフレット
- 統計圖表
- 特產品分布圖
- 大和白絣
- 奈良漬豆腐

和歌山縣

- 津田出在英中寫眞
- 同 畔表
- 同 育像寫眞
- 同 書
- 同・德川茂承公よりの畔合及目錄
- 陸奥宗光育像寫眞
- 同 書
- 同 書簡
- 同・鶴國演說新聞
- 津田正臣育像寫眞
- 同 書
- 濱口梧陵育像小寫眞
- 同 書簡
- 同・稲濱海莊育像小寫眞
- 同 書
- 岡本柳之助育像小寫眞
- 同 書簡
- 由良守應育像小寫眞
- 同 書簡
- カールカペン育像寫眞
- 第一回縣會議員寫眞
- 渡邊崋山寫眞
- 木國同友會規則
- 同 會員名簿
- 濱口梧陵の演說
- 最近の和歌山縣（參考書）
- 和歌山縣物產案內（同）
- 統計圖集
- 和歌山市勢要覽
- 和歌山市勤業統計要覽
- 和歌山市統計書
- 和歌山史要
- 外に產物數十點

岐阜縣

- 統計表
- 新聞合寫眞
- 實業合寫眞
- 觀光寫眞
- 鮎標本
- 鐵物標本
- 鮫物標本
- 金紗花紬
- 青紬腰筋花紬
- 稻目ポンパン入
- 雷孜ポンパン入
- 日清意匠灰拂
- 梅竹紋ペリーセット
- チロコレート立筋ミントンコーヒー碗

二一三一四二一一一

愛媛縣

明治、大正、昭和に亞る産業表
道路港灣の圖解
農工水産業の生産額圖表
金融發展の圖表
伊予木炭
廣巾綿織物
オルソ
和紙
砥部燒
花瓶
伊予蜜柑
夏蜜柑
アルミニユーム
新舊縣廳合寫眞
新舊縣會議事堂寫眞
初代知事、縣會議長寫眞
現在縣會議員寫眞

島根縣

圖表
自治發展に伴ふ産業開進を示す特産品（工産品）
瓦（工産品）
木炭（林産品）
紙（工産品、副業品）
桐油（副業品）
酒樽（模型）（工産品）
嵯峨（海産加工品）
銅素材
和布（海産加工品）
寫眞

長崎縣

初代長崎知事澤宣嘉代の寫眞
初代長崎縣會議長松田正久代の寫眞
雲仙溫泉水の寫眞
眼鏡橋之寫眞
崇福寺之寫眞
港内より見たる出島廳舍寫眞
出島市街貿易之圖
出島廳舍内の植物園
廳船入港の檢疫出役の圖
統計之部
1、長崎縣現在人口統計
2、長崎縣産出總業統計
3、長崎縣生産總價額統計
特産品鼈甲細工品外數十點

福岡縣

畑山知事寫眞
添田縣會議長寫眞
渡邊初代知事寫眞
中村初代議長寫眞
現在縣廳寫眞
舊縣廳合寫眞
舊縣會議事堂寫眞
主基寄田に關する寫眞
教育に關する圖表
戸口及總算に關する圖表
産業に關する圖表
明治二十年頃の縣廳附近圖
日本一の圖表
福岡縣年代表
土木に關する圖表
警察に關する圖表
都市發展に關する表
日鐵八幡製鐵所寫眞
炭坑關係寫眞
都市發展に關する寫眞
久留米絣
博多織
博多人形
筥崎遠景
明治十年福岡縣治一覽表
博多福岡古圖繪卷
明治四、五年頃の物産調
明治九年秋月騷擾記事
主基田の經過概要
演說會
明治六年小倉縣福岡縣下動搖一件
小倉縣下佐賀動搖一件

熊本縣

鳥瞰圖
熊本縣治革圖
縣市町村豫算比較表
現知事寫眞
初代知事〃
西南役前熊本城寫眞
初代縣會議長の寫眞
現代〃
井上毅育像銅
元田永孚育像銅
藩知事細書
西南役當時ノ古城寫眞
西郷隆盛勤降書
熊本名産派沿革

佐賀縣

佐賀縣紋章
寫眞
佐賀縣政圖繪
統計圖表
佐賀縣鳥瞰圖
生産物

鹿兒島縣

鹿兒島縣鳥瞰圖
可愛山陵寫眞
高屋山陵寫眞
吾平山陵寫眞
初代知事寫眞
初代縣會議長寫眞
第二十三代現知事寫眞
第十八代現縣會議長寫眞
鹿兒島縣誌出圖
百萬圓以上の生産品圖
鹿兒島港の沿洲貿易圖
本場大島紬（大柄）同（小柄）
鹿兒島繭（大柄）同（小柄）
薩摩燒瑞鶴彫刻秋草模樣帶止
其の他特産物

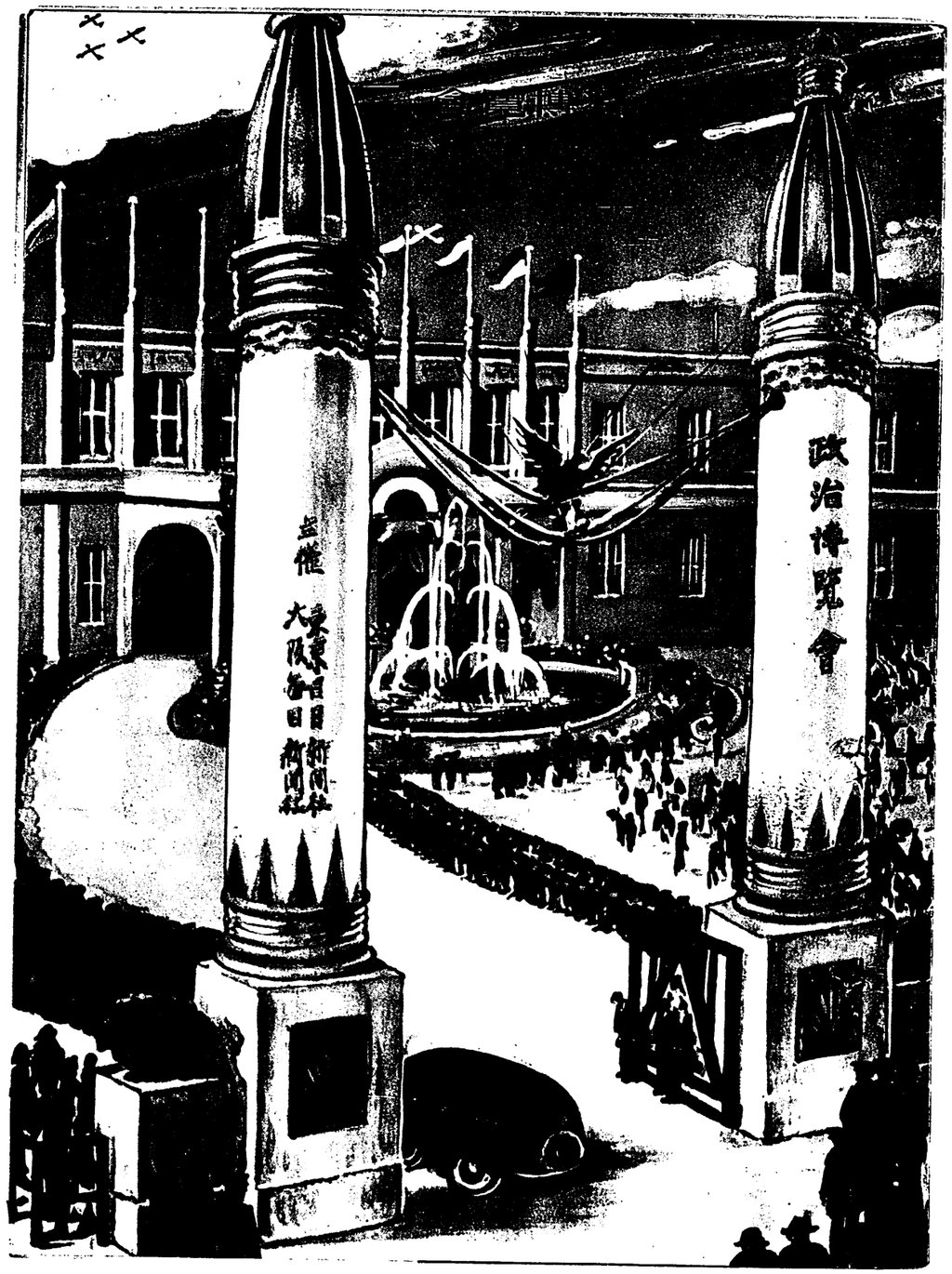
沖縄縣

統計圖表
土木と交通
地方制度の沿革
縣教育者及狀況
縣の産業
縣砂糖生産狀況
擬興事業
擬興十五計年畫
黑糖移出狀況
國藍移出狀況
耕地現狀
縣財政の變遷
縣海外渡航者
寫眞
特産物
宮古上布外

本目錄は開館後更に改訂增補するものである

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

驚くべき自動式自轉車の出現

輪界の革命

特許 新自動自轉車（ニューモーターサイクル）の特長

(A) オートバイの働きをする自轉車であること

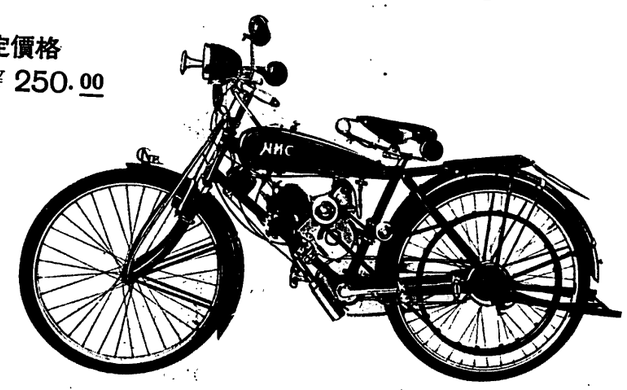
(B) 自轉車の働きをするオートバイであること

(C) ガソリン一ガロンで實に百五〇哩以上を保走すること。

(D) 車重輕く日本人の體格に最も適すること。

(E) 機關保有車として價格の低廉なること世界第一。

(F) 何人にも容易に乘れること。



暫定價格
¥250.00

總裁 閑院宮守正王殿下

會場正門の天平式大圓柱

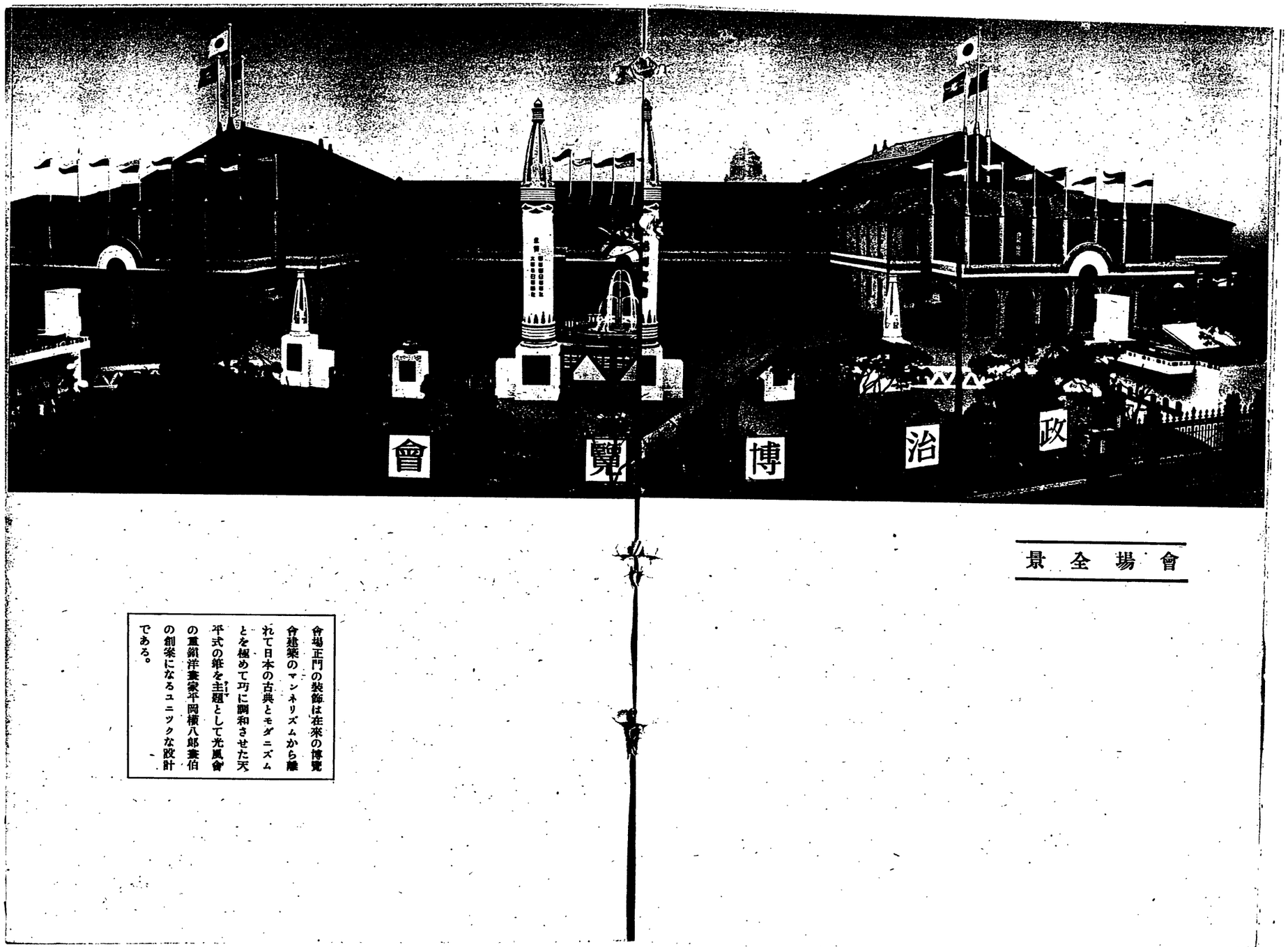
元造製車轉自動自新

社會資合やたでめ 區橋本日市京東 二ノ三町馬傳小

電話 花 (76) 三一〇五番・三一〇六番・三二三五番

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



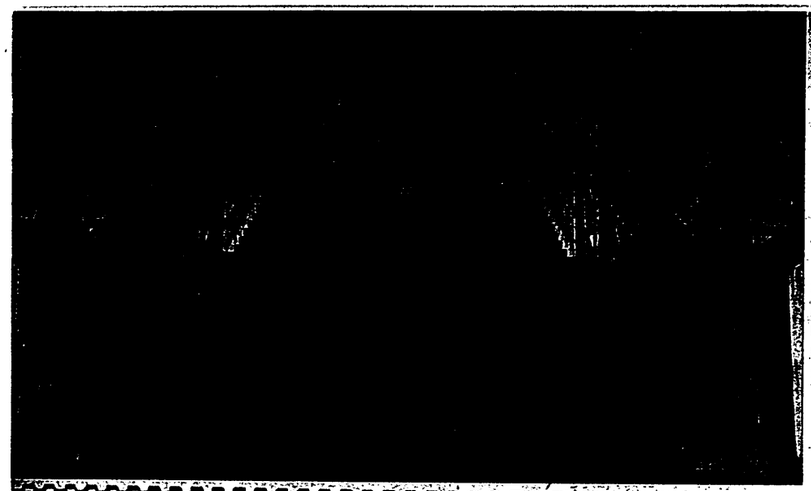
會場全景

會場正門の裝飾は在來の博覽會建築のマンネリズムから離れて日本の古典とモダニズムとを極めて巧に調和させた天平式の雅を主題として光風會の重鎮洋畫家平岡權八郎畫伯の創案になるユニックな設計である。

I-0380

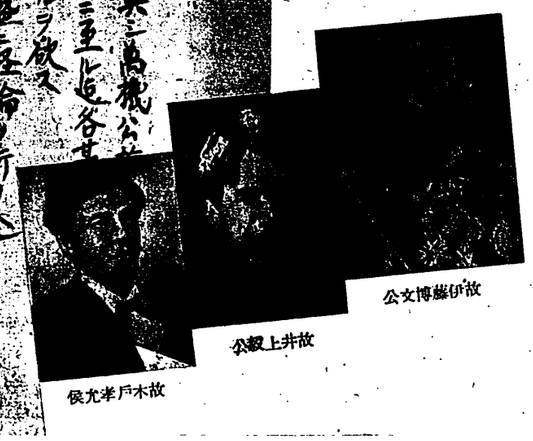
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

憲法館



舊議院正面御便殿

木戸孝允筆
五ヶ條御誓文草案



故伊藤博文公

故井上毅公

故木戸孝允侯

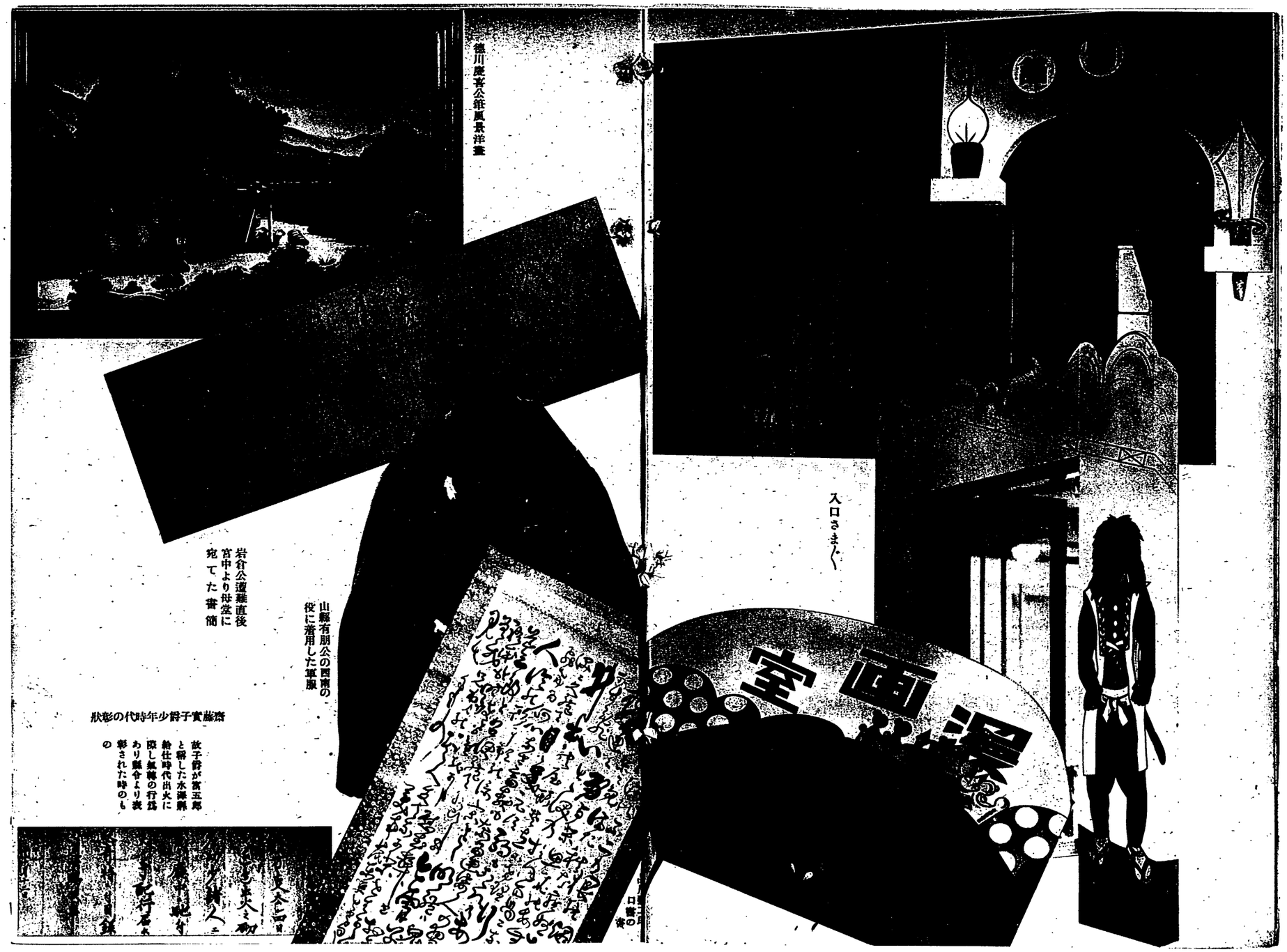
憲法草案
（井上毅筆）

伊藤博文公書翰

憲法發布式パノラマ
（ろ依に錦絵の利國壽梅）

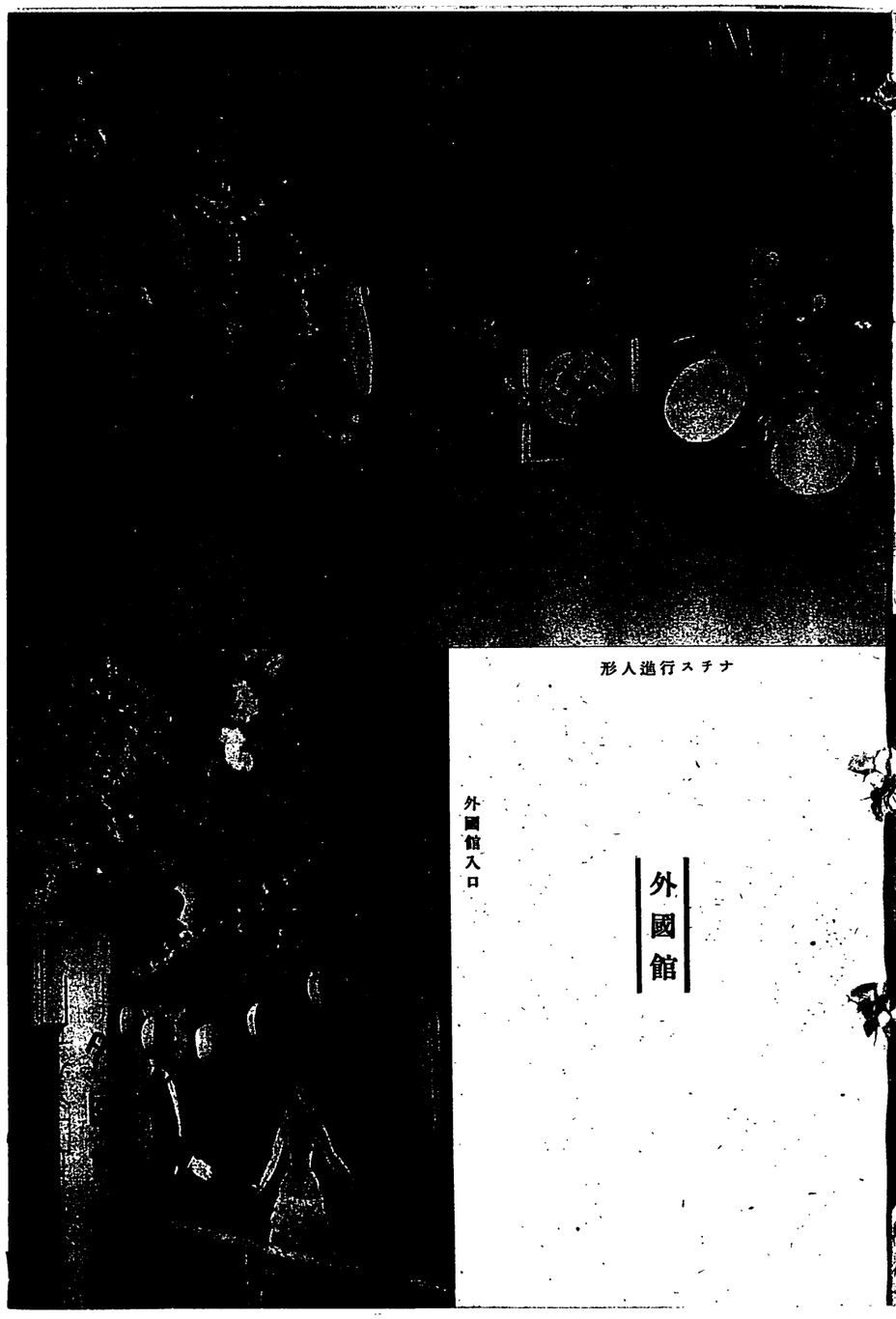
I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



I-0380

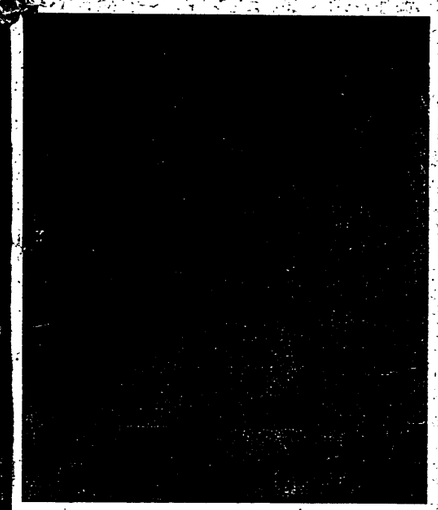
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



外國館入口

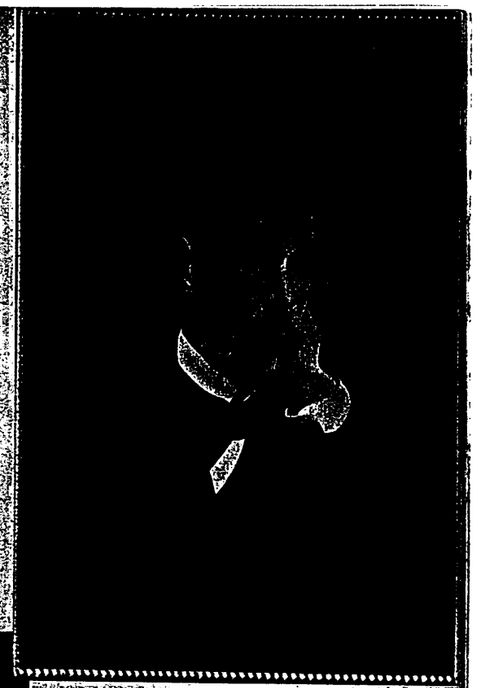
ナチス行進人形

外國館



リーより下田奉行に宛てた書翰

鹿鳴館時代
（鍋島直大公夫人）



相外的表代
陸奥宗光の肖像

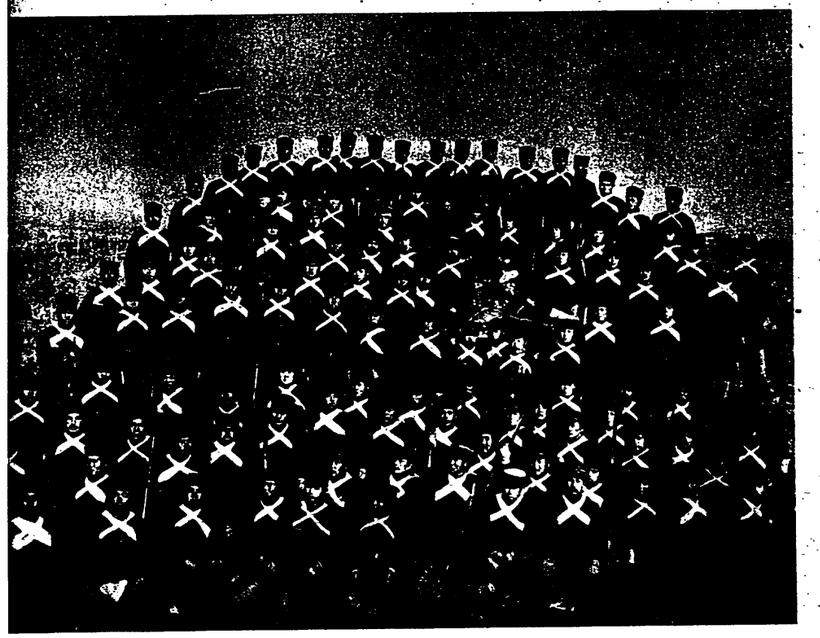
外交館

ウキツテ伯愛用萬年筆

印圖的條スマター（ポ）
（のもしせ用使に時の

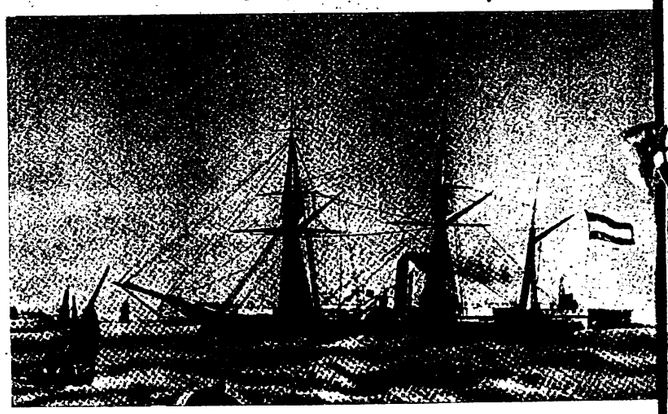
I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



たせか義を名勇に役の露日
隊樽白隊聯江鯖

陸軍館



日本最初の軍艦觀光丸
——四〇〇噸——
（幕末、オランダより幕府に贈り王政復古後朝廷に獻ず）

海軍館

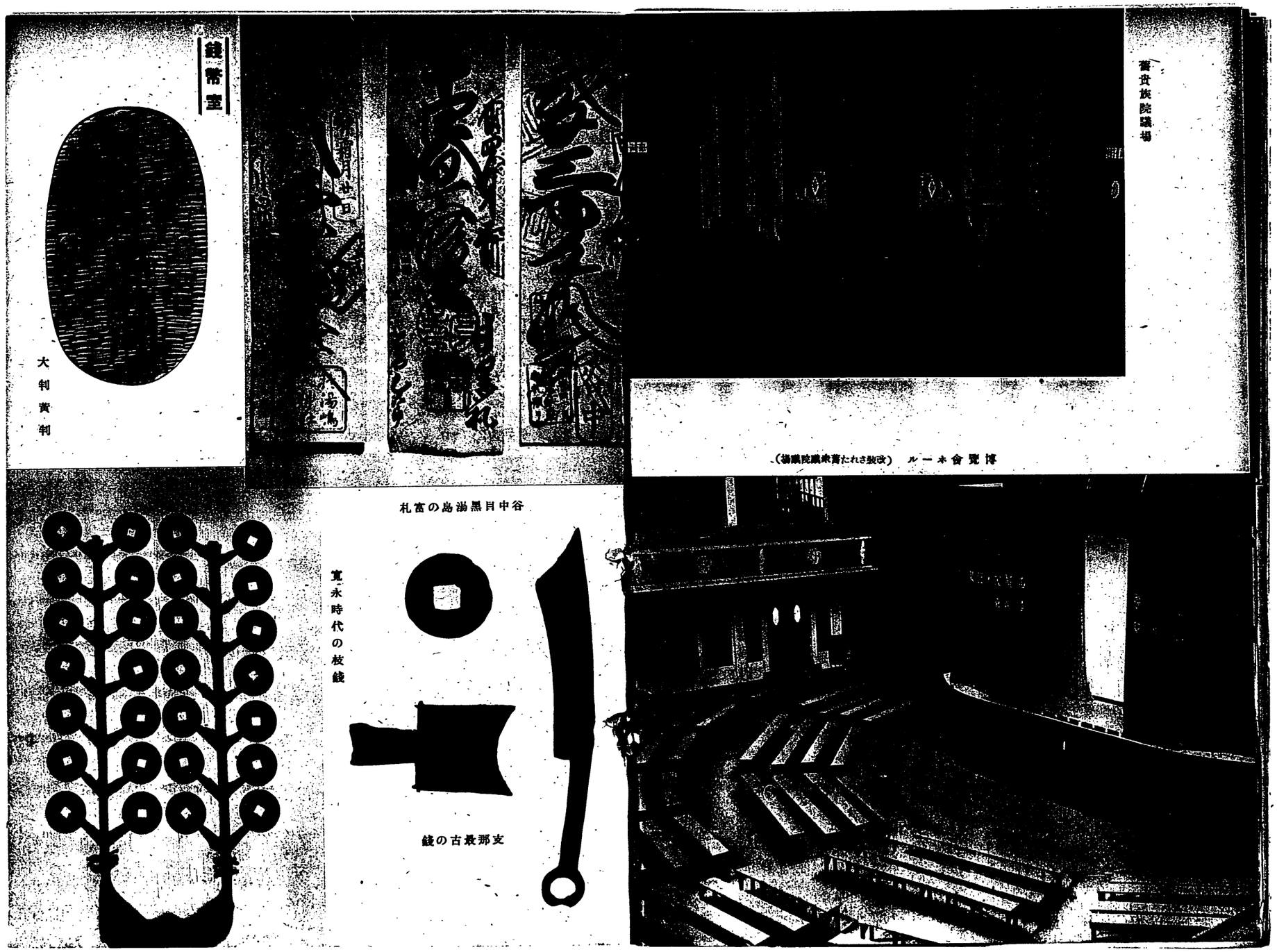
ナショナル・トロフイー
國際飛行協會
（航空宮）

流線型列車模型
（交通宮）

遞信館

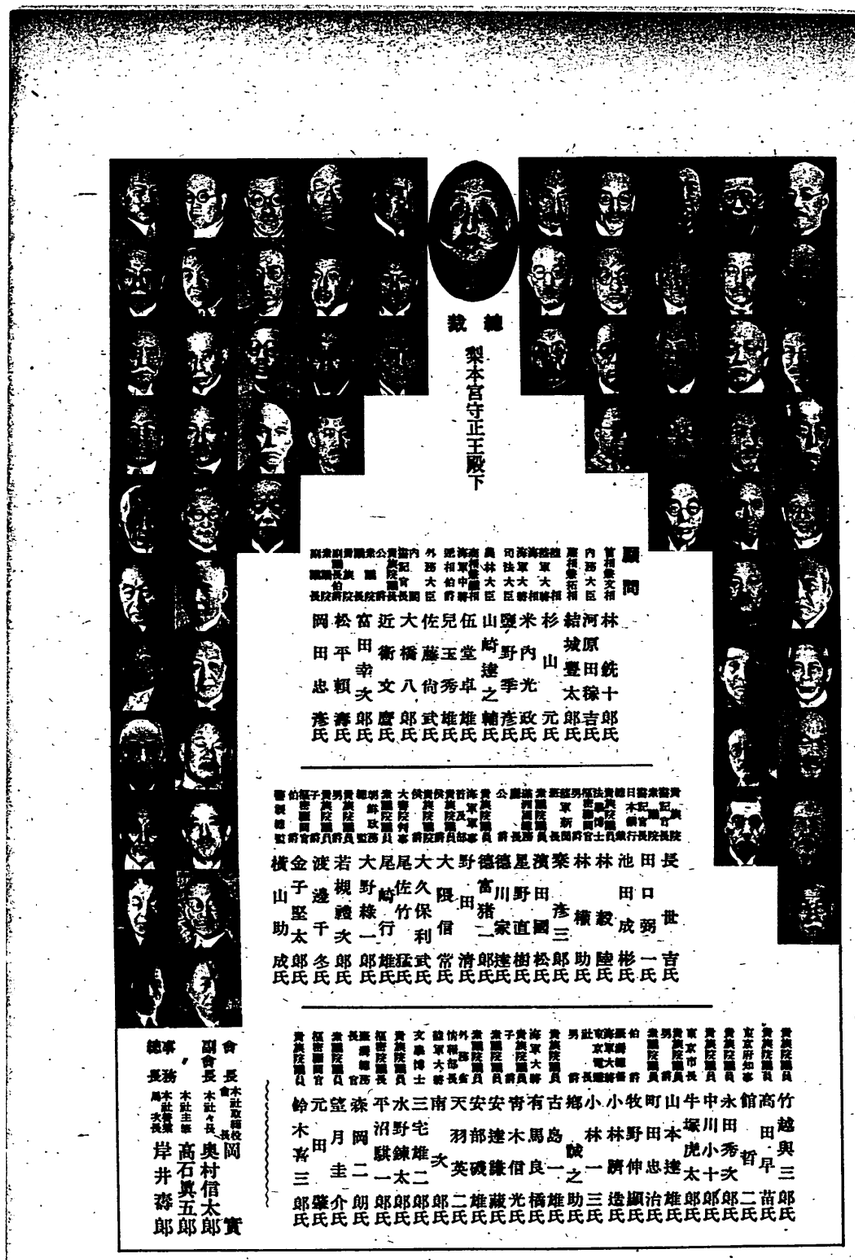
I-0380

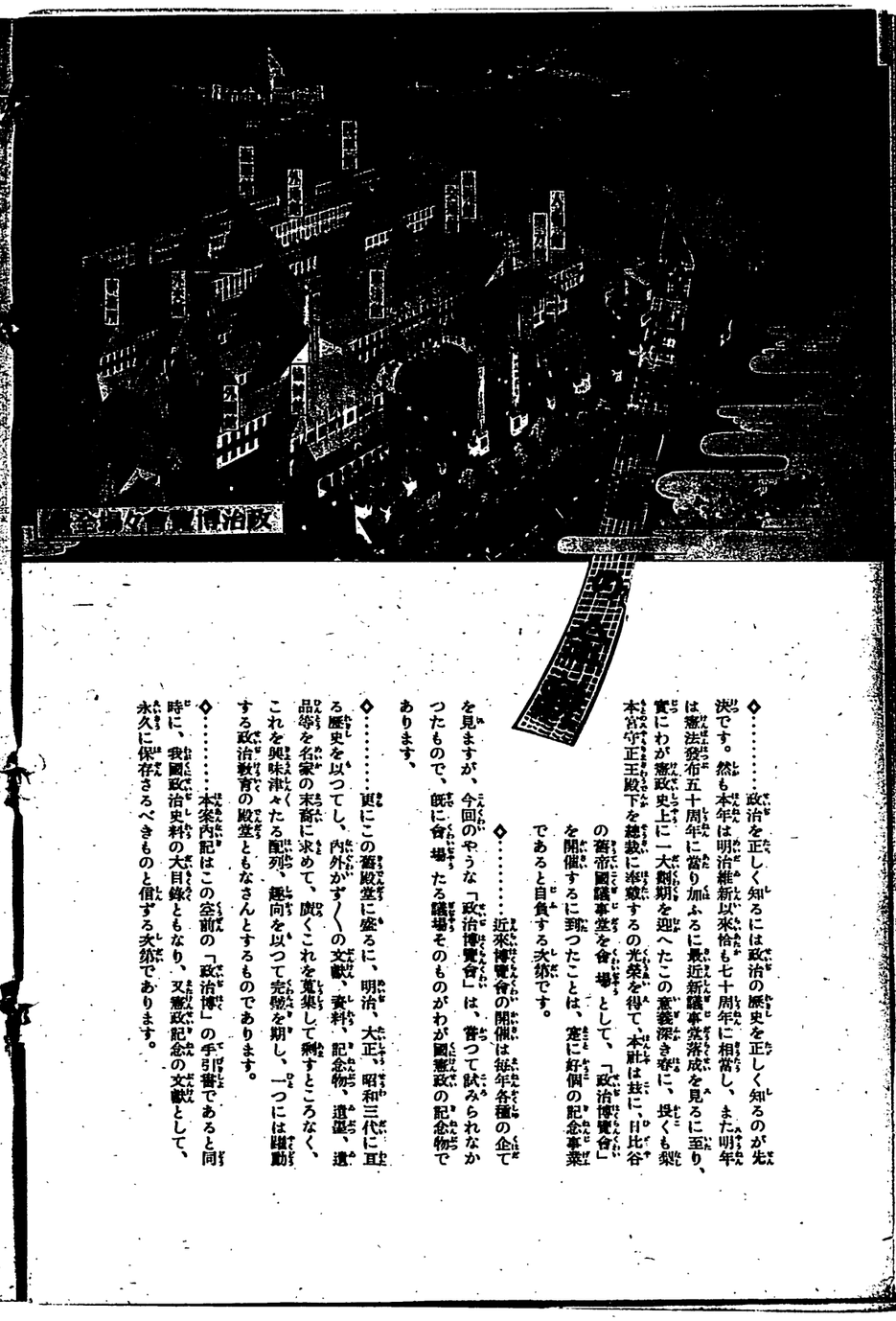
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/


顧問
林銑十郎氏
河原田稠吉氏
内務大臣
結城豐太郎氏
杉山元氏
米内光政氏
海軍大臣
海軍大將
司法大臣
鹽野季彥氏
山崎達之輔氏
伍堂卓雄氏
兒玉秀雄氏
佐藤尚武氏
外務大臣
内閣書記官長
橋本欣五郎氏
近衛文麿氏
富田幸次郎氏
松平頼壽氏
岡田忠彥氏
顧問
梨本宮守正王殿下
議長
貴族院議員
高田早苗氏
館哲二郎氏
永田秀次郎氏
牛塚虎太郎氏
中川小十郎氏
山本達雄氏
町田忠治氏
小牧近江氏
小林躋造氏
小川平吉氏
古島一雄氏
有馬良橘氏
青木信光氏
安達謙藏氏
安部磯雄氏
天羽英二氏
南次郎氏
三宅雄二郎氏
水野錬太郎氏
平沼騏一郎氏
元田肇氏
岡田忠彥氏
月岡朗氏
堂本貞一氏
赤羽一之助氏
竹越與三郎氏
貴族院議員
高木惣吉氏
貴族院議員
貴族院議員
貴族院議員



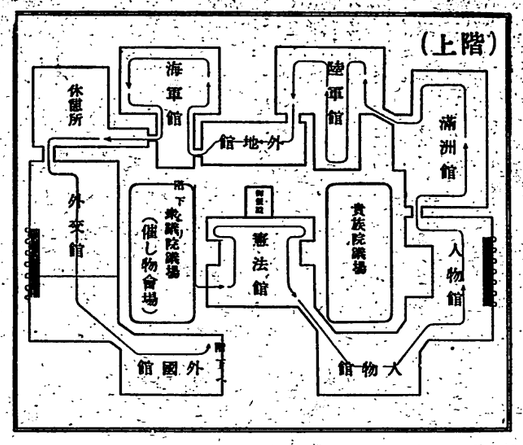
◇……政治を正しく知るには政治の歴史を正しく知るのが先決です。然も本年は明治維新以來恰も七十周年に相當し、また明年は憲法發布五十周年に當り加ふるに最近新議事堂落成を見るに至り、實にわが憲政史上に一大劃期を迎へたこの意義深き春に、畏くも梨本宮守正王殿下を總裁に奉戴するの光榮を得て、本社は茲に、日比谷の舊帝國議事堂を會場として、「政治博覽會」を開催するに到つたことは、寔に好個の記念事業であると自負する次第です。

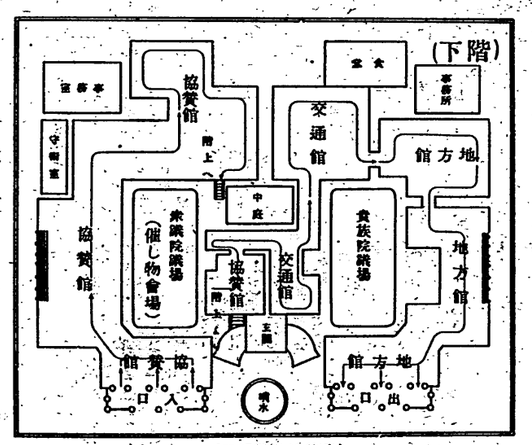
◇……近來博覽會の開催は毎年各種の企てを見ますが、今回のやうな「政治博覽會」は、嘗つて試みられなかつたもので、既に會場たる議場そのものがわが國憲政の記念物であります、

◇……更にこの舊殿堂に盛るに、明治、大正、昭和三代に亘る歴史を以つてし、内外がず〳〵の文獻、資料、記念物、遺墨、遺品等を名家の末裔に求めて、廣くこれを蒐集して剩すところなく、これを興味津々たる配列、趣向を以つて完璧を期し、一つには躍動する政治教育の殿堂ともなさんとするものであります。

◇……本案内記はこの空前の「政治博」の手引書であると同時に、我國政治史料の大目錄ともなり、又憲政記念の文獻として、永久に保存さるべきものと信ずる次第であります。

會場案内圖





(赤線は參觀順路)

舊國會議事堂

憲法館
人物館
陸軍館
海軍館
滿洲館
外地館
外交館
外國館
地方館
交通館
地方館
協賛館

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

會場巡覽の栞

先づこの頁を御熟讀下さい

天平式 の筆を圖案化した古典と、近代とを巧に混和させた、清楚で壯麗な、光風會の重鎖平岡權八郎畫伯のデザインになる、會場表門を潜ると、正面に三つの入口があります、中央車寄の前に大噴水のあるところは、議事堂であつた頃は、長くも至尊を始め奉り、高貴の方方が議會にお成りになつた、聖跡でありますので本會でも平生は閉ざしてあります。

會場へ御入場の方は、正面向づて左、奮衆議院への正面入口から御覽になることになつて居ります。そこには大政治家の等身大の寫眞がずらりと先づ入場者に御目見えします。正面を左折して奮衆議院階下を抱くやうに一巡するところは、始まる御代の惠を享けて、明治より七十年餘國の夢から醒めて一躍世界の市場に躍進をした、活發な我國產業の華華しい現狀を物語る、協賛館の全國各地の重要な會社、工場、商店が夫夫趣向をこらした出品がずらりと並び先づ、第一歩にして博覽會氣分を滿喫することが出來ます。この中に煙草專賣局があり、（特に博覽會記念煙草を卽賣します）恰度奮衆議院議場を半周したところで階上へ登ると

憲法館 です。いよいよこれから「政治博」の心臟ともいふべき我國憲政五十年が一目に見られるのです。夫々宛てられた室は元の政府委員室であつたところ、議會開催中は常に政府要路の人々が議會の答辯準備に詰めてゐたところです。この各室を巡つて一旦廊下に出ると、左側に皇族室があり、その先の總理大臣室とを兩翼にして、中央には畏くも明治大帝を始め奉り

三聖代 に亘つて、大正天皇、今上陛下が開院式、閉院式の度毎に行幸あらせられた聖跡である便殿が、そのまゝに壯嚴に保存されてあります。入場者は紋の絨毯の燃ゆる大階段を登つた正面に、この神々しき御座の跡の御模樣を具さに拜する光榮に浴することが出來ます。この聖跡は、金子堅太郎伯等などの主唱によつて奮議事堂取毀しの後は、何等かの方法で、永久に保存されるといふことであります。これより大臣室書記官長室などであつたいづれもその一つ一つの部屋に憲政五十年のいぶきのまだ殘る感のある各室に陳列された、政治に關する尊い文獻、資料を見て、各室を縫つて、奮貴族院の廊下の中ほどに出るのです。この廊下を右に折れると、

人物館 のアーチが待つてゐます。こゝの廊下はいづれもドアを開放して人物館へ行く途中、二階傍聽席から、遙かに奮貴族院の玉座を拜し、議場そのまゝが一目に見られ、貴族院の夫々議員の議席も往時のまに見ることが出來ます。人物館は三聖代に亘る明治維新以來の功臣、在野政治家など、百傑を選んで見る目にも面白く、憲法館の廣汎な文獻、遺墨に親んだ目に、今度はそれを背景として活動した人物（個々の面影をしのんで、宛ら生ける人に接するの感を得さしめるのです。これに宛てられた室は、元の貴族院議員控室、委員室で、一世に勳功の高かつた重臣、甲冑の人々が國勢を臨ずるまでの暫しの間、頭を休めたところです。人物館の終つたところの一室に愛國婦人會の部屋があり、これに續いて更にこゝを出ると貴族院の廊下の一つに出ますが、こゝからも貴族院の二階傍聽席から、議場を自由に見ながら少憩して赤十字社の施設をみて、元の委員室を貰く

滿洲館 に入るのです。新興滿洲國の燃ゆる建設的施設が、一堂に納められてあります。それより貴族院裏の中庭に面した廊下に出て、奮議場時代の談話室、その隣りに喫茶室の設備がありますのが南洋館――南國の情緒豐かに委任統治の我が新領土の異なる風土に接して次へ移ると、こゝは議院各室でも議場に次いで最も廣大な豫算委員室であつた、年毎の國の豫算に朝野の人が侃々の論を專らにした奮闘の跡であるところが

陸軍館 であります。帝國陸軍でも皇軍が創始されて七十年に相當しますので、陸軍では本會のために、特に力を入れ新聞班の作間少佐が專らその任に當つて、三ケ月の苦心になるプランに國民の牢記すべき各大戰の大パノラマを始め、國軍の變遷、新兵器各將の遺品などに依つて、輝く皇軍の威容が多大の興味のうちに見られるのです。これを出て、更に中庭に面した廊下に出て、續くのが臺灣、朝鮮の二館それぞれに、特殊の風俗、風景を配して外地同胞の活躍を知るのであります。更に廊下に出て、樺太館に入つて近代の重要需品の寶兒となり、服飾文化、印刷文化の產源地である樺太の產業、風光を見るのです、それより陸軍に相對して、兩翼の如く、同樣の廣さを持つ奮委員大會議室を貰いたのが

海軍館 であります。無條約第一年を迎へた我が海軍の意氣を高揚し國防の外に、國家經濟の背景としての海軍、さうした重大な立場から、現代海軍の全威容を顯示して餘すところがなく、ことに呼物となるのは、大會議室全部に設けられた、大パノラマで、これには海軍當局が特に作製した二百三十餘隻の艦艇の模型を配し居ら居らにして大觀艦式に列する感があります。黑船來の時に外人が久里濱で驚いた角力の大男の腕に、アメリカの水兵がぶら下つてゐる。大きな作りものが先づ目を驚かせます。それに續いて

外國館 各控室を通じて世界各國の大使館が力を添へて、各本國から遙る遙る海を越えての出品が目をうばひ、殊に獨伊兩國の力强い趣向のある出品が目立つてゐます。この外交、外國の二館を通じて日本の世界的關係がいよいよ明白に認識されます。これで、階上各館の觀覽を終つたことになります。こゝで廊下に出て自由に、途中から奮衆議院議場を改裝した各種の備物に、つかれを慰めることも出來ます。こゝより階下へ降りると、兩院正面の入口の大廊下に出ます。こゝには更に協賛館第二室が並び、控室三室、兩院協議室、委員室新聞記者室であつたところを貫いて交通館の一つ遞信館となつてヂオラマの等の外、實物の出品が多く、正面玄關右の大廊下控室等を一丸とした大廣間が航空室で、こゝには本物の飛行機なども出品されて、ダイナミックな氣分が溢れてゐます。これより奥に廊下を傳つて行くと、奮速記室等を合した廣い場所が交通館の本館で鐵道省の實物とパノラマとの交錯する、交通日本の全觀が表現されてゐます。それから貴族院の外廊下をめぐつて、表の方へ

地方館 が最後のコースに一層の光彩を添へてゐます。地方館は日本の充實した內政を表現するもので、一道三府四十三縣六大都市が一縣

證頁のカット・スタンプは、いづれも、今回の逓信省が再製した歷史的記念スタンプの珍らしいものばかりである。

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

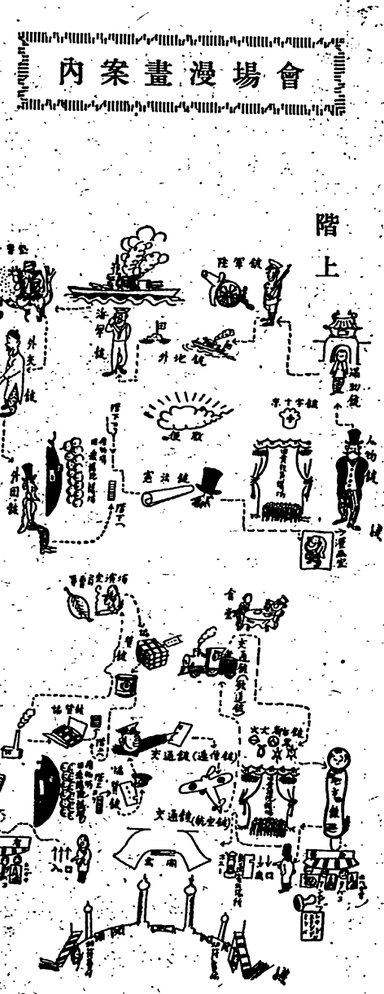
も缺かさず、各府縣別に統一したケースを並べて、夫々のお國自慢や重要產業を高唱しつゝ、地方行政の有樣が手にとる如く知られるやうになつてゐます、こゝで先づ本館全部の巡覽を終るわけですがこれを二時間を要し、舊議事堂の內部も、今更らに廣いものだとの感を懷かせます。

尙大食堂は舊議員食堂をそのまゝ和洋食堂としてあります。會場御巡覽の便のためには會場入口には順路を示す矢印を各所に表示し、なほ階下、階上の各要所約七十ケ所には、會場通路の案內略圖を貼付、非常口、便所等も赤札に場所を標示してあります。

その他重要なる館內施設には左の通りです。

館外の　正面大廣場には、本會場の夜景を添へるため高さ五十尺の照明燈塔を設けて、夜は紅白の二百ボルトの二閃光を放つて超えず三色の紅色と紅白のペナントに裝はれた全館の建物を照らしてゐます。

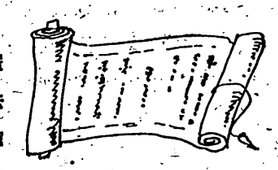
會場漫畫案內



◇煙草專賣局製造實況及喫煙室（階下衆議院側與元議員食堂）
◇愛國婦人會（二階貴族院裏側）
◇赤十字社救護班（同衆議院同）
◇鐵道案內所（出口左）
◇臨時郵便局（紀念スタンプ捺印公衆電話）
◇照明燈臺（館外廣場正門左）
◇紀念煙草繪葉書、案內記賣場（出入口に二ケ所宛あり）
◇場外賣店
◇場內賣店
◇休憩所

國寶的文獻を興味と共に見せる

政治博の心臟憲法館



憲法館は丁度以前の

貴族院と衆議院の中程にある二階正面のいゝ場所を占めて居ります。

昔て議會當時この邊が中心だつたやうに、本博覽會でもその根幹をなすやうにといふ意味でこゝを選んだもので、廣さもまた約三百五十坪に上りこゝだけでも、立派な一つの展覽會を開くことが出來るといはれてゐる位であります。

殊にこの館の中程には

長くも三代に亘つて、御臨幸を仰いだ便殿の跡が以前のまゝに殘されて居りますし、その隣りには左に皇族室、右には內閣總理大臣室があり、これもまたこの前の議會まで使つてゐたまゝの室として、何等の手を附けることなく、一般の觀覽に供することになつてゐますので本館として、いろ〳〵珍らしい資料が澤山集つてゐるといふ以外に、かういふ記念となり、且つこの舊議事堂が取毀しにでもなれば永久に見ることの出來ない由緒ある場所にそのまゝ觀られるといふのであるから、觀覽者に取つてはまたと得られない好機であります。先づその入口の所には、綺麗なアーチの上に

「憲法館」といふ扁額が

かゝつてゐるのが目につきます。これは今日の憲法の草案を作つた人達、即ち伊藤博文公、伊東巳代治伯、金子堅太郎伯、井上毅子など四人の方々の中で、唯一人生存して居られる金子さんが、葉山の別莊で御忙しい中を割いて特に本館のために書いて下さつたものであります。

この額を潛つて中に入りますと、丁度館の玄關の所に當つて、伊藤博文公が嘗て憲法會議が、樞密院で開かれてゐた頃、御使用になつてゐた机にもたれて、事務を執つてゐる場面があります。この机は衆議院事務局の所藏なのでありますが、特にお借りしたもので、伊藤公の像は樞密院議長當時のものに似せて作り、室の中も當時の室のまゝを象つたもの、今日神宮外苑に殘されてゐる憲法記念館の、伊藤公の室だつた所を實地に調べて作つたものですから眞に近いものであります。

それから中に進みますと

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

憲法館

澤山の錦繪があります

これを見れば明治、大正、昭和における大體の、いろんな事件が繪で以て解るやうになつて居ります。殊に寫眞のない時代のものについてはこの繪によつて、當時の風俗とか模樣を知る外はないのです。中でも珍らしいのは、錦繪といふと大抵は明治時代のものが多いのですが初代頃から三韓征伐といつたやうな古いものがありましたので、元來本博覽會は明治維新七十年を記念するといふ意味ではありましたが、かういつたものも特に陳列した譯であります。またこの室には錦繪の外に横濱の金澤文庫から借出したペルリ渡來當時の古い繪卷物とかそれ〴〵の時代に應じた參考品が並べてあります。

この第一室を見て、第二室に移らうとする右手に當つて、

五ケ條の御誓文宣布

の場があります、この御誓文は、慶應四年三月十四日（慶應四年の九月八日に明治と改元になつてゐる）卽ち丁度今から七十年前に御發布になつたもので、議會などでも本年の三月十四日は、日曜日に當つてゐたにも拘らず、特に本會議を開いて、この御誓文の趣旨に副ひ奉るやうに大いに勉强しやうといふ決議をした程でありますからこの場面は極めて意義深いものであります。

第二室に入るとこの五ケ條の御誓文や、御辰翰の草案があります。五ケ條の御誓文は初め由利公正子が草案を作り、更に福岡孝悌子や木戸孝允侯が筆を入れて出來たものですが、こゝに陳列してあるのはその一番元のもので、極めて貴重なものであります。御辰翰は一般には餘り知られて居りませんが、御誓文と同樣非常に大切なものでありまして、これは大隈侯爵家から特に出陳されたものであります。またこゝには同じく慶應四年閏四月二十一日に公布になつた政體書の草案が福岡子爵家の御好意によつて出されて居りますがこれも大變珍らしいものであることは申す迄もありません。

第三室に入ります と大パノラマがあります。これは明治二十年、當時內閣總理大臣であつた伊藤博文伯を中心にして、宮內省圖書頭の井上毅、內閣書記官兼祕書官の伊東巳代治、金子堅太郎氏などが、伊藤伯の別莊であつた神奈川縣の夏島に立籠り暑さの中をも顧みず大いに案を練つて居られる所の場面であつて今から丁度五十一年前のまゝを寫したものであります。第四室、第六室には

憲法關係のものを中心

としてその前後における、各種の文獻を陳列してありまして右憲法起草に關係のあるものは固より、發布の時の官報號外のやうなものから、或は遡つて西南戰役當時における、貴重な資料、例へば山縣有朋公から直接西鄕隆盛に宛てた蹶起の手紙、或は明治十四年金子堅太郎伯

が、まだ元老院の權少書記官時代に出した政治論略とか、後の日清戰爭、日露戰役頃の政界方面における空氣、議會開設當時の文獻など、出陳列してありまして、憲法關係のものだけでも伊藤公が參考にした書類等まで入れると五、六千點にもなり、この邊は史實研究家に取つても得難い貴重なものが集つて居ります。

こゝを出ると前に述べた皇族室の前に自然と出るやうな道順となつてをります。皇族室を過ぎると、もとの便殿がありまして、この便殿や皇族室は恐らく未完として誰もが心ゆくまで拜觀したいことは同じですが餘くまで靜肅に、不敬のないやう御注意が促されてあります。便殿の次は元の內閣總理大臣室であります。これも以前のまゝとして少しも手をつけないことにしました。

日本で一番最初に出來た

明治五年頃の愛國公黨關係のものや、政治運動で血みどろの奮鬪をした血波山事件とか、或はまた保安條令に引つかゝつて退去を命ぜられた片岡健吉翁等に關するもの、其他自由黨創設當時の珍らしい文獻等を陳列してあります。

この室を過ぎると第七室はまたパノラマになつてゐる、パノラマは三面の廻り舞臺式になつて居りまして、第一は帝國議會が始めて開かれた當時の議場內の模樣を、錦繪によつて現はしたもので、今日から考へると大分の相違がありますが、昔はこんなものだつたかといふ感を解つて頂けば結構です。第二は政黨の揺籃時代、自由黨の壯士などが官權の壓迫を受けながらも本當に國事を憂ひ、生命を擲つての奔走振りを示したものでありまして、如何に當時の政客が眞劍であり、眞面目であつたかといふことが示されて居ります。第三は

普通選擧を獲得しやう

として大正十年頃民衆を引具して示威運動をやつてゐる所でありまして今日廣く普通選擧が行はれ、帝國臣民にして、二十五歲以上の男子がそれ〴〵選擧權を有ち、その代表を送つて、いよ〳〵政治を行はしめることが出來るやうになつたのも、かういふ先輩の努力の賜といふの外はありません。なほこゝにはトランスを設けて電氣仕掛になり明治以來十二の大事件が次々と見られる仕組みになつて居ります。

第八室は元の內閣書記官長室で、こゝは明治の初以來我が國の財政と、貨幣、紙幣の變遷史ともいふべきものを陳列し、昔の兩替屋が使つてゐた吹屋なんといふ變つたものも出てゐますし、お金として隨分珍らしいものが室の周圍にずつと並んで居ります。第九及十室は比較的

近い時代の政治關係の

もの、例へば護憲三派內閣頃のものや、若槻、田中、床次三黨首が申合せを作つた時の卷物とか、ポスター、或は民政、政友兩黨の變遷史右翼、左翼等の團體や系統等參考になるものを細々と陳列してあります。

第十一室は今日の非常時に因んだパノラマで、富士山があつて、君ケ代の音樂と共に、日の丸の旗がスラ〳〵と上り、これと共に太鼓が輝き、國旗は風に吹かれてピュー〳〵君を立てる、その時「ほえろ風……」の歌が始まると、軍人も政治家も官吏も果ては商人も、女中さんも、一緒になつてこの非常時を乘切ろぞといふ氣を見せて、それ〴〵の人間が力强く手を振つて行列を作つて歩く。この間に「擧國一致時難克服」の電光がパッ〳〵と點滅することになつて居ります。

最後には貴衆兩院議長の油繪を飾つてこの館を終り、人物館へといふ順序であります。

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

てい開を庫秘の家名を士名臣功の野朝ぶ偲く如がるけ生

◇…館物人…◇

人物館入口「百人像」北村西望氏作

人物館は明治維新以來、書畫のために貴獻のあつた功臣、顯官、在野政界の名士、政論家などの中から、百人物を選んで、いづれも慶岡の鬼となつた故人の功績、德行を顯彰し、故人の面影を一堂のうちに偲ばせようとするものであります。然し乍ら無數に輩出した、この歴史中の人物のなかから、百人を選ぶと云ふことは仲々困難なことで、この撰定には、本會の顧問の方方のうち、殊に維新史に精通される、尾佐竹猛博士藤井甚太郎博士伊藤仁太郎氏等の指示に待つて萬全を期したのですが、こゝに百人を隅ると云ふことは尚多少の困難を殘して居りますが、此點は觀覽者の御諒承を得たいと思ひます。

◇…人物館に宛てられた室は、

事堂二階北側の、元貴族院議員控室と委員室とを打ち貫いて、一館としたものです。永年議會開會毎に、お上品な貴族院の人々が詰めてゐた記念の場所で、本館に偲ぶ百人物の人々も、生前には大半、こゝに休んだ縁淺からぬところ。

◇…憲法館を出て

貴族院の廊下南側の途中にかゝると、左側には二階傍聽席から貴族院の議席を見物し乍ら、いよ〳〵「人物館」正しく明るく…の政治標語に因んで、燈明と、破邪の劍を表はした文武を示す圖案化され、友人へ、先輩へ等の、敬愛、友情に富んだものたアーチが廊下の上にかゝつてゐます。十數歩のみが選ばれてあり、個々のケースの前に立つにして、再び同じアーチがあり、その左側には時は、宛ら生ける故人に接するの感を懷かしめ茶色のパックのセットがあつて、そこには、人ないではゐないのであります。然かも是等の出物金體を表現する、大塑像、彫刻界の一人者北品は、いづれも名家の厳逸品で、眞に門外不村西望氏作の「巨人」が恰も百傑にふさはしい出のものばかりで、特に今回の博覽會のみに、表情を以つて、先づ吾様に迫るのであります。欣然出品を快諾されたものです。

◇…第一室に足を

入れると、銀鼠色のビロードの一色に包まれた上品なケースが、この外、この室の各壁面には、百傑人圖地圖クリーム色の内部の色彩との調和を見せて、十六の窓をズラリと揃へてゐます。夫々の見上げる藍面には、宰相たりし人々の寫眞が掲げられ

総理大臣年齢表など、政界に志を得た人々のオンパレードです。

次の室、左側には、最新式鏡面屈折を應用したNA式點滅マヂック・ケースに、各三場面宛、名士少年時代の逸話が映出される。

◇…人物館に宛てられた室は、

事堂二階北側の、元貴族院議員控室と委員室とを打ち貫いて、一館としたものです。永年議會開會毎に、お上品な貴族院の人々が詰めてゐた記念の場所で、本館に偲ぶ百人物の人々も、生前には大半、こゝに休んだ縁淺からぬところ。

◇…憲法館を出て

貴族院の廊下南側の途中にかゝると、左側には二階傍聽席から貴族院の議席を見物し乍ら、いよ〳〵「人物館」正しく明るく…の政治標語に因んで、燈明と、破邪の劍を表はした文武を示す圖案化され、友人へ、先輩へ等の、敬愛、友情に富んだものたアーチが廊下の上にかゝつてゐます。十數歩のみが選ばれてあり、個々のケースの前に立つにして、再び同じアーチがあり、その左側には時は、宛ら生ける故人に接するの感を懷かしめ茶色のパックのセットがあつて、そこには、人ないではゐないのであります。然かも是等の出物金體を表現する、大塑像、彫刻界の一人者北品は、いづれも名家の厳逸品で、眞に門外不村西望氏作の「巨人」が恰も百傑にふさはしい出のものばかりで、特に今回の博覽會のみに、表情を以つて、先づ吾様に迫るのであります。欣然出品を快諾されたものです。

◇…第一室に足を

入れると、銀鼠色のビロードの一色に包まれた上品なケースが、この外、この室の各壁面には、百傑人圖地圖クリーム色の内部の色彩との調和を見せて、十六の窓をズラリと揃へてゐます。夫々の見上げる藍面には、宰相たりし人々の寫眞が掲げられ

第一景　星亨少年時代。

父の死後、母は松子と共に相州浦賀に流寓した。少年千吉（星亨の幼名）が身を寄せた篠者星泰順に從ひ、その人の作る音樂の行商に、浦賀の港に、うろ〳〵舟を漕いでその日の稼ぎをし、外國船などにもこれを賣つた、十二才の頃の純眞が、後ち横濱に出て英語を學び、外人商館の書記から、陸奥宗光の通譯となり、大政治家となる前途を開く動機となつた。

◇第二景　澁澤榮一の少年時代

榮一十五才の時、一人の姉が發狂した。迷信の盛んな農村では、姉のため新廟で、家の祟りを祓ふことになつた。その席で、怪しい氣な修驗者を滿座の中で、理詰めにして參らせ、遂に一家中の狂信を打破した。勤王の士より吏道に入り、一世の大實業界として、日本財界の第一人者となつた少年の觀智が、この少年時代に萌芽を見せた。

◇第三景　高橋是清の少年時代

慶應四年八月、十四才の弱冠で仙臺藩を脱して洋行した少年は桑港に着いた。同行の伊東四郎（後の伊東祐亨海軍大將）と、トンチンカンな洋裝で、街を歩いて米人を驚かせた。その大膽さ、彼が後ちに奴隷に賣られたと云ふ有名な話はこの後ちである。功成り名遂げても何處か飄々んなところのあつた呑氣さがこの頃からあつた。

◇第四景　齋藤實の少年時代

故後藤新平伯と共に水澤藩と云つた頃の岩手縣縣廳の給仕時代、富五郎（幼名）少年は、偶ま縣廳の出火に、氣轉を利かして、周章ふためく大人どもを目にまめ〳〵しく立働いた。その時に貰つた褒狀と賞金一封の青貫錢は今も家寶として國家に殘つてゐる。

◇第五景　奥村五百子　少女時代

勤王の士の間に交つて立ち働いた女性も尠くはないが、豐前唐津の彼女は、十九才で、男裝して密使の大役を勤め、長州の高杉晉作の許へ、大膽にも大任を果たした。男裝の麗人の元祖である。後ちに今日の愛國婦人會の基を作つた女傑である。

◇第六景　下田歌子の少女時代

政治家ではないが、明治の祭式部と云はれた下田歌子は、十九で、宮中に召されて、宮內省十五等出仕を拜命、昭憲皇太后樣に仕へ

手枕は花のふゝきにうつもれて
うたゝねさむし春の夜の月

と詠じて御感を蒙ふした才女であつた。

◇——マチックケース

の前には、半圓形の清楚なステージがあります。コロンビヤ蓄音機會社のサービスに依る、レコードガールが居て、今は故人となつた大政治家で、生前にレコードに政見を吹込んだ演說を蓄音機にかけ、生けるが如き肉聲を聞き、その度に各故人の、寫眞人形を配して、その面影を偲ぶのです。吹込の名士とその演題は左の通りです。

井上準之助　危い我國民經濟（上下）　犬養　毅　新內閣の實務（上下）
田中義一　國民に告ぐ（A B）　齋藤　實　非常時の覺悟（上下）
東郷平八郎　聯合艦隊解散式講示（上下）
大隈重信　憲政に於ける輿論の勢力　濱口雄幸　國民に訴ふ（上下）
後藤新平　澁澤榮一　平田東助

◇…豪華な油繪

の大壁畫がかゝつてゐます。長さ二十尺、高さ十尺の畫面一パイに、明治、大正、昭和の三聖代に亘る、風俗人物の變遷を混然と描いた群像です。これは、我が洋畫壇に古くより知られた、光風會の重鎮、平岡權八郎畫伯を中心に、同會の錚々たるメンバーの左の諸氏が總がゝりで、佛蘭西のディフュ張りで、日本の錦繪の味に新味を特つた面白いタッチで描いた、洋畫壇にでも問題作とされるほどの大作の出品があります。

人物を知るに、先づその時代の背景を知るには好箇の壁畫とである。

執筆者　光風會會友鄕井周右衛門氏、同伊藤仲三氏、同大河內清敬氏、會員鈴木榮二郎氏、同南政雄氏、石川伊十氏

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第二室に入る廊下突當りには可動式トーランスで大業小説で御馴染みの近藤勇、清水次郎長などの珍らしい寫眞を見せ、室に入ると明治維新前後に活躍した人物を偲ぶ陳列で埋められてゐます。室全體が、ナマコ壁りに白壁造りと云ふ古代風なセットと裝飾で氣分を出し、夫々の壁面中央圓筒の動く大圓柱にも、左の勤王志士、明治初年の政界の名士の面影を錦繪や肖像に配置の寫眞によつて雲の如く集め、遺品、遺墨が巧みに配列され、觀る者をして自ら、維新の風雲の中に呼吸するかの感を懷かしめます。その中でも、特に

◇…維新二大元勲

としての岩倉、三條の兩輝、木戸、大久保、西郷の三傑に關するものは夫々一間間口のケースに納め、春台展幹事伊藤博文三書伯の彩管になる説明書を附して實感をそゝつてゐます。

また同室の大ケースには、西郷侯爵、大山元帥、田中大將、齋藤海軍大將など名將の愛用された、輝やかしい我國の最高勳章の各種や珍らしい外國勳章を燦然と配列し、數々の勳功を偲びます。

第二室を出ると、暫らく息を抜くために、いさゝか餘興の意味で政治に線の深い議會漫畫の室が廊下續きに設けられてあります。

入口のボンチ繪式セットの笑ひの門を潜ると、これが樣笑室、左の壁面には二圓餘の人氣者似顔漫畫群像が、和田邦坊門下新左馬の筆で描かれ、笑當りには、入場者自らが先づ

◇…漫畫化される

こゝでは本社の漫畫家、池部鈞、和田邦坊の兩畫伯が考案の、簡單な漫畫の描き方を、黑板に、電氣仕掛けで、和田畫伯は「泣いた顔」「怒つた顔」「笑つた顔」の三人戸の描き方を教へ、池部畫伯は、同じく黑板に凹凸鏡に吾笑し、次いで漫畫學校に入り、一筆描きの「名士の似顔」を、凹凸テレヴィジョンと稱して同じ仕掛けで教へ一方天井近いところからは、漫畫映畫で御馴染のミッキーマウス君の顔が絶えず、面白い無邪氣な歌を唄ひ、ユーモア天國に誘ひ込みます。こゝを出ると廊下の左側には、政界名士の顔が、風船玉に描かれて、無數の顔、顔、顔が、宙空に舞ひ上つてゐます。

續く一室は議會漫畫室。

故平櫛百樹畫伯の飄逸恬淡な、議會漫畫家たりし頃の名品を始め

池田永一鳥、宍戸左行、下川四天、近藤日出造、柳瀬正季、岡本一平、牛島一刀、清水醫岳坊、北澤樂天、宰内緒一、服部亮英、小川智夫、谷澤剛、和田邦坊、池部鈞

の諸家が畫作、新作、はては、各々新聞に書つて擯斥した興味ある漫畫草稿などを所狭しと出品して、日本中の議會漫畫の大展覽會場となつてゐます。

◇…笑ひの清えぬ

まゝに次へ移ると、貴族院北側、薫風を誘ふベランダに、ネツと一息して、室に入ると、大パノラマ二景が、展開します。一つは鹿兒島鍛冶屋町の風景。大西郷を始め、弟の從道、東郷大將など幾多の、英傑を輩出した薩南の兵兒を生んだ自然を背景に、これ等の諸名士の少年時代の姿を動く電氣人形で見せ、左側の一景には、松陰塾を出て維新後は、明治新政府の要路の人となつた所謂長人の群れが、松下村塾を出て列を作つて、新政府の方へ向ふ寫眞をパノラマ景に見せ、その眞中の三間半の大ケースには、右には薩摩出身の名士の遺品を、左には長州出身名士のものを陳列する、人物館中最も豪華な室です。最後の室には

◇…呼びもの

操り人形芝居があり、これは兒童學藝聯盟が、最近流行の街の紙芝居の着想から乘り出した、超特作紙芝居とも云ふべきもので、連日下谷區會議員小林米吉氏が自ら考案して出品し、自ら說明役と人形師の役目を買つて出られたものです。

その他の壁畫、ケース等には、在野政治家、政論家などの遺品、遺墨が賑やかに陳列され、國民醫會及會々長高橋雅雄醫學博士の、百餘點のため製作された、胸像六點もこの室に納められてあります。

以上人物館のなかでも、最も珍らしいものとして、興味の中心となる主なものを左に略記すると

伊藤博文公の絶筆

ハルビン驛頭に安重根のために、一發のセストルによつて、驛頭に斃れた、その數時間前、汽車中で公が書いた一詩、これが公の絶筆とならうとは…(井上三郎氏藏)

山縣有朋公の檜笠

元治元年、高杉晉作が、馬關稻荷新地の役所を

とば…(大隈家藏)

田中大將の拜盃

日露の風雲急な時、駐在武官として露國にあり露國に勝し、親交ある露軍校と、大將の軍刀と洋盃とを交換し、互に戰場での再會を約したのが、果して後にその戰陣に相見えたといふ一つの逸話つきのもの…(田中家藏)

齋藤實と賞狀

水澤縣給仕時代、出火に際して拔群の功あり表

秘藏品中の逸品

彰軍占據した時、公は福田良助と共に諸隊の協同を說いた、晉作はこれを容れず、遂に三條、四條の兩橋を奪して長府を發し、公は獨り後から萩へ發つた。別袂し、笠を冠つて輿に乘つて行つた。その時の檜笠である。公の奇兵隊時代。

吳竹の世の浮節の杖と笠

と自詠した笠に認めた。(山縣家藏)

大隈重信侯の烏帽子の座衣

フロック著た侯の姿は、世人には見慣染だが、こんな裝束を着て、侯が參內をしたこともある

美に貫つた彰狀、

勝海舟の築城圖

近代海軍の興、勝海舟は築城術にも通じてゐた。自身で引いたその圖面があつた…(內ヶ崎作三郎氏藏)

江藤新平擧兵の檄文

一片の活字のビラだが、舊版のビラに、當時のものとしては珍らしい上に、新平自身の朱書があるところに、大變な興味がある…(佐賀、江藤家藏)

西郷南洲手製の下駄

大島へ流謫中、つれ〴〵に大西郷が自分で下駄を作つた…(西郷公爵家藏)四月廿日後出陣

同月照と合作の書

相抱いて海中に投じた二人の、合作の書、これは西郷公爵家でも、秘藏中の秘藏品である。(同前)

(西郷公爵家藏)

木戸松菊と幾松夫人への手簡

月下の五條橋に惡ぶ非人姿、橋上から投たから投げる握飯。これは芝居でも御馴染の場面その被こそ後の幾松夫人である。そのひとへの手紙の眞蹟である…(木戸侯爵家藏)

片岡健吉と退去命令書

自由黨の受難は大きかつた。その一つを偲ぶ、退去命令書。淋漓たる筆跡に、往年の壯士達の意氣を、これで偲ばう。

尙右の外、數十點を數える逸品にまつはる說明は、卷末の各館出品目錄に詳細を殘して置きます。

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

滿洲を再認識せよ……滿洲館

五彩　鮮やかな新國旗の下、建國五周年を迎へ、治安の維持に、交通の

躍進、産業の開発、貿易の発展、人口の増殖、国防の強化、国民の結束、国家の発展、国運の隆盛、国威の宣揚、国交の親善、国民の自覚、国民の自治、国民の自力、国民の自信、国民の自尊、国民の自重、国民の自愛、国民の自敬、国民の自恃、国民の自立

明治七十年と同時に、我が無敵陸軍も、新らしい軍制が確立して、七十年を迎へました。この七十年間の歴史、編制、兵器の變遷、被服、糧秣、衛生等、軍事に伴ふ各施設の沿革を一堂に集めて、皇軍の全貌を見せようと云ふのです。更に目を轉して、東亜列下の諸情勢をも、一目瞭然たらしめようとすることによつて、我が陸軍の現在の、國家の推進力を認識せしめ、やゝ一面には、遠く歴史を回顧しつゝ、現代の非常時局を明瞭に知らしめようと云ふ意圖のもとに、陸軍省新聞班陸軍歩兵少佐佐久間喬宣氏が一切の計劃指揮に當られたもので、

◇…維新陸軍

建設時代から、臺灣征伐、西南戰役、日清戰後、北清事變、日露戰役、西利亞出兵、日獨戰役、滿洲事變等を經て、現在の非常時を背負つて立つ陸軍の狀態を夫々、パノラマ等で、興味深く示して、その間に各時代に重要な役割を果した人々の記念品、遺物、寫眞等を配してある。

部屋は五つに區劃され、階上、舊貴族院議事堂裏の豫算委員會場その他が宛てられ、舊議院内では一番廣い場所を宛て、第一室、第二室には、右の新陸軍初期建設時代から、日露戰爭に到るまでのものが配列されてゐる。その主なものを列擧すると、

維新建設時代

一、兵制建白書原本
一、明治六年一月陸軍省記錄大日記送達徴兵令
一、山縣有朋公より西郷南洲翁に送れる自刄勸告文の草稿
一、乃木中佐着用の夏衣袴
一、谷干城宛乃木中佐の書狀、電報

日清戰役

一、山縣、大山、野津、黒木各將軍の軍服及陣中使用品
一、我軍使用の敵地々圖
一、戰利の軍旗、軍服、兵器類
一、陸海軍將校全員寫眞（四十四枚）
一、其他戰爭の寫眞錦繪、油繪、等百數十葉

日露戰役

一、參謀總長山縣元帥より乃木第三軍司令官宛の書簡
一、皇軍被服
一、露軍被服
一、橘大隊の大隊旗
一、血染の第三大隊旗
一、對露作戰に關する大山元帥宛山縣參謀總長の書簡
一、山岡中佐が兩眼を喜ひたる後乃木將軍に宛てた自書の訣別の書簡

◇……近代兵器模型の總出動
生きた陸軍七十年史
◇……奉天大會戰の大パノラマ

一、露軍使用の兵器（大砲、機關銃、小銃、軍刀等）
共他各元帥寫眞、使用品、戰爭繪畫類
第四室は思ひ切つて、一室をぶつ通して、八十餘坪の大ホールを、北清事變から、日露の大戰、青島戰、更に最近の滿洲事變に至るまでの史實を餘すに餘なく

西伯利出兵

一、ウラヂ附近田中大隊全滅の光景（洋畫）

滿洲事變

一、廣巷鎭戰跡の圖
共他記念品

日獨戰役

一、青島攻撃使用の飛行機（寫眞）
一、神尾軍司令官の戰役日記
一、青島攻撃五面寫眞圖畫

大景觀で高調しようと云ふのです。その中でも

◇…奉天戰の大パノラマ

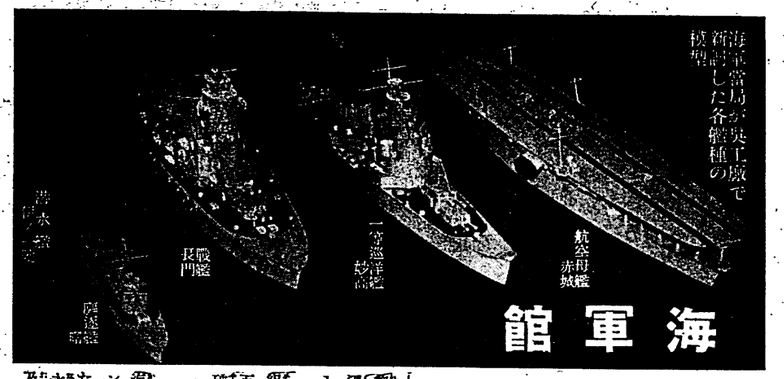
は頗る壯觀で、日本人にとつては半記すべき血戰、それがみなぎる砲煙のなかに、我の戰陣が喊々と滿洲の野に展開されて、露軍の陣は算を亂して、廣野に潰滅する。見てゐて眞に血湧き肉躍るの場面、しばし低徊去るに忍びざるものがある。この大パノラマ館を出ると、面目を一新した新時代の兵器、航空機に對する色んな兵器、その防衛器、戰車など數々のものが、一つの戰場にオンパレードをやるのです。それ等は、いづれも縮少された精巧な模型を使つて、實感をそゝるのであります。

又同室の一方には、島嶼圖的立體地圖があつて、それには蘇滿各國境より、外蒙、北支の各方面に亘る所謂大陸國防線を、一時のうちに眺めて、居ながらにして滿蒙の野を、恰も飛行機に乘つて見物すると同じ快を貪ることが出來るのです。

奉天大會戰パノラマ

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



海軍館

怒濤、逆巻く太洋上の艨艢

精巧な模型二百數十隻

海軍館

一層切實、重要なものとなつた我が「海の護り」帝國海軍の全貌を現すと共に、德川末期の黎明時代から幾變遷を經て、今日に至る迄の經過を示して、國民に今日の狀態を認識せしめると云ふ、所に重點を置いて立案されました。

先づ第一室に入れば、其處には紫明期の海軍組織的海軍の嚆矢、生時代が物語られます。德川三百年の泰平の夢は黑船の砲聲によつて一擧に打破られ、

海防の

重大なる事を知つた幕府は觀光丸の購入、和蘭海軍將校ヘルスライケン の招聘等に、銳意海軍の創造に力を注ぎましたが、之等の事實は觀光丸の模型、船手奉行永井玄蕃頭、傳習所生徒取締役勝鐵太郎の寫眞及び遺品、更に安政六年米艦ポーハツタン號に

は現下の無條約時代に際して、將來に備へて百尾よく、桑港に達して海國日本の面目を發揮した成臨丸の寫眞、太平洋橫斷の海國等によつてしのばれ、又、幕府掉尾の海戰として壯烈を極めた宮古、函館海戰の國、開港場橫濱に於ける在留外人の風俗等々紫明期の我が海軍を十分にうかゞひ知る事の出來る品々が陳列されてゐます。

明治二十年、海軍整備の勅語が發布せられ、同二十五年議會に於ける擴張再議の結果、軍艦四隻の建造が可決せられたと云ふ事は今日から考へると夢の樣な感がありますが、その記念すべき軍艦、富士、八島、明石、宮古の雄姿も寫眞となつて陳列されてゐます。

明治二十七年遂に日清戰爭は開始されました、當時我が

艦艇は

總計約六萬噸と云ふ頗る貧弱なものに過ぎま

せんでしたが、我將士の勇戰奮鬪は克く陸と相まつて連戰連勝、各所に勇しい物語を殘してゐますが、その中、高陞號の撃沈、黃海の大海戰の圖、並びに、日清兩國の海軍力の比較表等によつて我々は其の戰が如何に壯烈無比なものであつたかをしみ〴〵知る事が出來ます。

之等の勇壯は前人の足跡に驚嘆しながら、第三室に入れば、其處には清國に比して幾層倍かの强國露西亞との對戰の跡が、明瞭に示されてゐます。日清の戰勝に際つてゐた國民は露、獨、佛の所謂三國干涉によつて一大痛棒を加へられ、それが「臥薪嘗膽」を制する力はないが、海上に於ては日本の死命を制するに足りると云ふ結論から生れた事を知ると、一層海防の重要な事を認め、その充實に文字通り臥薪嘗膽の邁進をつゞけましたが、日露の開戰は日清のそれにも增して大なるものがあつたのであります。之等の狀態は此處に掲げられた日露兩國艦隊比較表に依て明かであり、更に日進、春日、初瀨、八島等の寫眞、日本海々戰の油繪等を見るに及んで此の戰に際して發揮されたものが如何に大なるものかが知られます。日清、日露の兩戰役に於ける赫々たる武勳によつて我國は一躍六大强國の一として世界にその存在を明かにするに至りましたが、一方東洋平和唯一の守護者としての任務は我が双肩にかかつて、

大和魂

に就いては、米國が我國に對して五對三の比率を維持しようとしてゐる事實、その實的要素、シンガポール、英國の東洋に於ける艦隊の充實、軍港の竣工、蘇聯邦の新興海軍力、等々、我國にとつて寸時も等閑に付し難い數々の問題は、列國補助艦要目比較表、イ號潛水艦、特型驅逐艦、第一次、第二次補充計畫の全貌、英、米、獨、伊、蘇の想定敵關係と海軍兵力量、極東根據地間題、海軍動向等夫々の項目によつて各々寫眞、圖表、ヂオラマ等が設けられ、更にドリーム・ランド、「動きつゝある我が海軍」は我が國四方の海防を十分に了解し得る樣に興味深く設計せられ、東は太平洋、西は揚子江沿岸、南は南洋委任統治領の諸島、北は松花江による蘇滿國境への防備等を詳細に現じてゐます。

之等の詳細な圖表、寫眞等を見、海軍の深めた我々が、愈々第五室の大飛行船のゴンドラにつくられた中に入れば、誠に驚嘆す可き一大パノラマがゴンドラの窓から展開し一望際てなき曉の大海洋、其處には我が艦艇二百卅餘隻が觸艦相含んでその偉容を示すと見るまに、刻々海面には朝の光が增して眞晝の狀景となり、更に夕闇が海面を領するかと思ふと、やがて眞夜の景に轉ずれば、二百餘隻の軍艦は一齊に灯をきらめかせ、各々探照燈をひらめかしつゝ航海を續け、之に風の音、波の響が和し更に海軍省軍事普及部松島中佐が此のパワラマの爲に新しく編曲した新軍艦マーチが高らかに鳴り響いて見る人は居ながらにはるか天空から心强き我が海の護りをながめる心地して思はず心臟の高鳴りを覺える事でありませう。殊に此の軍艦は海軍が今回、新しく與で作成せしめた模型であつて本館に特に出品された精巧を誇るものであります。

以上の海軍館の立案並に指導は海軍省軍事普及部海軍中佐大石堅志郎氏の專門的見地に依るもので、我々の父祖の爲し遂げた「海の偉業」を興味深く顧みつゝ今日の狀態が如何に重大なものであるかを明確に知る事の出來る一大スペクタルであります。

× × ×

知識を

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

外交館の大パノラマ

躍進日本の外交

ペルリ來朝よりの文献資料

外交館は新日本の生誕を告げる「黒船來」以後、今日までの約八十年間、靠來、明治、大正、昭和……と艱難關を切り拔けつゝ、飛躍に飛躍をつゞけてきた、わが日本の對外交渉の足跡をしのびつゝ、一目で躍進日本の外交全貌がキャッチできるばかりでなく、更に將來の飛躍に備ふる外交智識の源泉となる、眞に意義ある外交殿堂化してゐるところに意義がある。

館の跨りの一つは、外務省が門外不出の、數々の資料を出品するばかりでなく、專門的立場から極々尊旋を惜しまれなかつたことと、各方面の權威者が貴重の資料の提出を快諾されたことである。

鍋島直映、大山柏、徳川圀順各公爵家、大隈信常、大久保利武、黒田長成、東郷彪、寺島宗則、小村捷治の各侯爵家、牧野伸顕、林雅之助、加藤厚太郎各伯爵家、西竹一男爵家はじめ宮内大臣松平恒雄、貴族院議員芳澤謙吉、兼議院議員松本忠雄、内ヶ崎作三郎、及び三宅雪嶺、尾佐竹猛、藤井甚之助三博士、渡邊爺次郎、山座賤香、川島信太郎、西伊之丈、中田敬義、長濱重慶、西原龜三、田中龍夫、西山茂幹、老川茂信、花園愛定、村松春水、白碧丸衛の諸氏、帝室博物館、外務省、文部省維新史編纂會、後藤新平伯傳記編纂會、帝國、日比谷、慶應義塾の三圖書館、國際聯盟事務局東京支部、東洋文化協會、善福寺、或は横濱、長崎、門司の三市、靜岡縣下田町役場、同町了仙寺、同玉泉寺等のペルリ提督來朝に縁りの地等から資料出品の快諾をうけ（三月十日現在）その數は既に三百點を越え、開會後までなほ續々申込みを見た盛況の有樣であつた。

外交館に

足をふみ入れると、世界地圖を背景として、絶え間なく電波のとぶ二本のアンテナに先づ目を奪はれる。この光明こそ新日本外交のシンボルである。

わが外交は開港以來全く門戸を開け放つたまま、日進月歩の伸展をして今日の發展をなした、世界獨自の記錄をもつてゐるので、こゝでこの特徴がはつきり浮び出され、しかもこの氣分が館の隅々まで流れるやう仕組まれてゐる。

薄く明るいこの雰圍氣に充分ひたつて第一室に入ると、こゝにはペルリ提督が旗艦ミシシッピー號以下、四隻の蒸汽船を引具して、浦賀在久里濱に入港した當時の模樣を、ありのまゝに取り入れた大パノラマを背景に、錦岩關の巨軀に見とれる外國人水兵が食物そつくりの丞でデヴューした場景が展開されてゐる。

この大パノラマの周圍には當時を彷彿させる風俗繪、窓貫、地圖、さては情緒豊かな唐人お吉に關する數々の逸品などが所せまいまでに配されて、その頃の情景をありのまゝに偲ばせてゐる。

今から想へば僅々七八十年前に汽船を眺めて「黒船來」と叫んだことそれ自體全く隔世の感があり滑稽でもあるが、攘夷、開港の論爭で血潮を沸かした揚句、開港となつた當時の空氣に接することは大きな意義のあることで、外交館としては點にこゝに力瘤がいれられてゐる。

此雰圍氣

にひたつた後、更らに第二第三室に進むと、そこにはまた衣冠束帯で始めて外國に使した特使の一行の面影をしのぶ寫眞、記錄、或は不均等條約の改正に乘り出した先人先輩の意氣込み、苦心を物語る資料、さては日清、日露、歐洲大戰前後、乃至はヴェルサイユ、ワシントン、ロンドン會議を經て國際聯盟脱退から滿洲事變、ついで今日の無條約時代にいたるまでの外交祕史、條約上の歴史的祕密文書、逸品などが陳列場を埋めつくして展覽され、その間に外交史上に躍る人々の面影が、それ〴〵の時代を追つて浮出されて、居ながらにして躍進外交の跡をはかり知ることが出來る。

こゝでは又、諸外國との條約はどんな經路をとつて締結されるか、又何故に海外旅行に旅券（パスポート）が必要なのか、その變遷などがいづれも專門家によつて考案されたものが、一つ一つ實物をもつて示され實物教育の實を擧げてゐる外、現在の國際關係などの圖表が掲げられて懇切、いたれり盡せりの風に展示されてゐる。

各室の

主なる出品内容を略記すると亞米利加超渡來の加比丹旗書、嘉永六年大合衆國よりの書翰和譯、安政五ヶ國條約、江戸近海沿岸警衛圖、横濱村における外人應接の圖繪卷物、開國に對する勤王家の書簡、ペルリ提督の遺筆、結婚指環、ペルリ入港當時の肚會風刺畫、露國使節プーチャチン長崎渡來の圖、巡州下田港の圖、下田名主等作製の地圖、ハリスの旅行記念金集、同ハリスの信任狀、ハリス愛用の外國菩提、提灯、或は唐人お吉の使用した三味線、煙草盆、お吉の仕度金請求書、お國病氣快癒願、麻布善福寺、ハリスの居間見取圖、同日記、初代廣重の錦絵吉利西、龍顔大港の繪畫、遣米使節歓迎音樂會プログラム、外國事務誌、日獨條約正本、日露條約、同宣見書、風刺畫ポルトガルの領事裁判權を破棄した巻記錄、琉球事件原案、日清講和會議の記錄、大津事件に關しては當時陸軍大臣であつた大山元帥に報告した負傷程度の見取圖及びこれが關係書類、日清戰爭前後、日露戰爭前後の種々なる文獻は數々あるが日露開戦當時山縣元帥と密偵間の報酬契約書、戦後モスクワで發行された漫畫、さてはポーツマス講和會議に關するもの。

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

外國館は外交館と好一對をなすものであつて、こゝでは諸外國における現狀、諸々相を一目瞭然たらしめようとしてゐる。

世界はいま、赤と黑の對立を示しつゝ走馬燈の如くめまぐるしく變轉してゐる。この眞相は全く把握し難い。昨年度歐洲の一角スペインに起つた動亂を中心として捲き起されたドイツ、イタリー、ポルトガル乃至はソヴイエト聯邦(ロシア)、フランスなど黑と赤の旋風、或は昨年末東亞の大國支那の僻境、西安に突發した蔣介石監禁事件等はともに世界の註として今日に殘されてゐる。

各國の出品に宛ら世界大コンクール

就中大乘氣の伊太利國と中國

大資本國

アメリカ、地球上、日の浚することなき大英帝國と謳ゐイギリスの地位は今日果してどうか。この課題をとくべく世界各國の國情と政治動向を適切に示し、複雜な世界の姿を極めて通俗的にわかりやすく示さんとするところにこの館の特徴がある。

この館の最も誇りとしてゐるところは一度本社が『政治博覽會』計畫と同時に『外國館』の機構を發表するや、東京にある

イギリス、アメリカ、イタリー、ドイツ、ソヴイエト聯邦、中華民國、ブラジル、ベルギー、ポーランド、オランダ、デンマーク、メキシコ、智利、ペルー、ノールウエー、スエーデン、ルーマニヤ、デンマーク、フインランド、オーストリー、アルゼンチン、アフガニスタン、イラン(ペルシヤ)、トルコ、ギリシヤ、シヤム

等等の各國大公使館が、總領事館がこぞつて出品を快諾、これ等公館と各本國政府との間、屢次電信交渉が行はれた結果、そく〳〵珍品、逸品が送りとどけられてきてゐる外、これ等諸國に在住し、交渉をもつた日本人から續々貴重な資料が出品されてゐることで、各國自慢の色とりどりに彩を盡よ陳列はあたかも國際コンクールの形で居ながらにして、世界に遊ぶやうな氣持にひきつけられる。

入口には明るく美しく咲き誇つた日本のシンボル、櫻樹のもとに外國人交驩の場面が展開し、外國館入口にあてられたアーチには燦々と輝やく電光を浴びて各國の國旗が浮び出され、まづこの欄干に眼を奪はれる。

アーチをくぐつて、第一室に入ると、室の中央には天井を壓する大地球儀がしつらえられ、四六時中絕えず廻轉してゐる。

表面にはつきり浮び出た各國の首都が電氣裝置によつて地球儀の廻轉と共に明滅する豆電燈によりそれこそ簡單明瞭、手にとる如くわかる仕組みになつてゐる。

同室の正面、三間餘の壁面には、平面圖に描かれた世界地圖がかゝげられ、鐵道、航路、水路、さては時差等が明示され、動く地球儀と相まつて、たちどころにわが日本を中心として各國の位置、距離などが展示される。

さらに、この室には外務省乃至はジャパン・ツーリスト・ビューロー(日本旅行協會)お手のもの〻調べによる邦人の海外發展狀況や東京から世界の首府に至る距離及びこれに要する日數等が圖表によつて示されてゐるので、この一室で、しみじみ日本の世界における地位、關係が味へる。

左に參考に『東京と各首府との距離、所要日數』を示して見よう。

第一室であらゆる角度から各國々の位置、關係などを味つた智識をもつて第二室に入ると、そこにはソヴイエト聯邦はじめ各國が各個々

獨特の姿

をもつて迫つて來る。

ソヴイエト聯邦の部では、世界獨自の政治機構、これを操る爲政者の面貌などが寫眞や圖表、ポスターによつてこれでもかと言はぬばかりに飾られ、その間に數十の民族人形がデヴユーしてゐる。ソヴイエト研究は民族よりといはれる程、ソヴイエトにおける民族問題は大きな意義をもつてゐるが、この研究には好個の資料であるソヴイエト民族人形が、それぞれ特有の姿で、ずらり並んだ旅は是非見落してならぬ。

中華民國

の部には近代支那の指導精神をなした孫文氏に關する資料を筆頭に蔣介石氏を中心とした現代支那の實情を物語る數々の參考品がづらり並んでゐる。大使館出品と銘打つてゐるものはいづれも本國政府から特に精選されて送られたものばかりであるが、この外にも支那各地で發行する新聞、雜誌といひ、いづれも貴重の資料、逸品が所狹いまでに陳列されてゐる。

ドイツの部には時の人ヒットラー氏を中心にナチスに關する文獻、各種の資料が山積してゐるが、特にナチスが國外持出しを禁止してゐる

突擊隊の

正服、正帽、さては記念章、目あたらしいところでは昨年のニュールンベルク大會、御大ヒットラーが堂々反ボルシエヴイズムに關し、獅々吼した例の大會における門外不出の寫眞、記念參加章、或はナチス獨得の少年團の陣營、組織などが一目瞭然と展覽されてゐる。

それから順次、イギリス、アメリカ、ポーランド、フランス等々の部を過ぎると、所謂世界旅行は出來ても特に志をたてねば、足を踏み込むことの出來ぬアフガニスタン、イラン國などがまた異つたカラーをただよはせて妻を並べてゐるのに目を奪はれる。

最後の室に

陣取つて

ゐるのはイタリー館、ファッショの發祥地イタリーは、さすがムツソリーニ政權によつて完全に統制されてゐることとて、さもうらやましい程である。といふのは在東京のイタリー大使館から最初の電報を本國政府に打電した際、本社の『政治博』の陳列面積が四千餘坪といふのを、どう解釋してか、イタリー館のために四千餘坪が當てがはれたものと考へ、大乘氣の揚句、宣傳省で係員に命じ四千餘坪を埋める陳列法を考究中、萬事OKと返電を送つて來た。この返電にさすがイタリーと感じたものの全部の會場がイタリーにとられては大へんと係員も大あはて、人々と相談に相談した果て

大使館の

目あたらしいところでは昨年のニュールンベルク大會、御大ヒットラーが堂々反ボルシエヴイズムに關し、獅々吼した例の大會における門外不出の寫眞、記念參加章、或はナチス獨得の少年團の陣營、組織などが一目瞭然と展覽されてゐる。

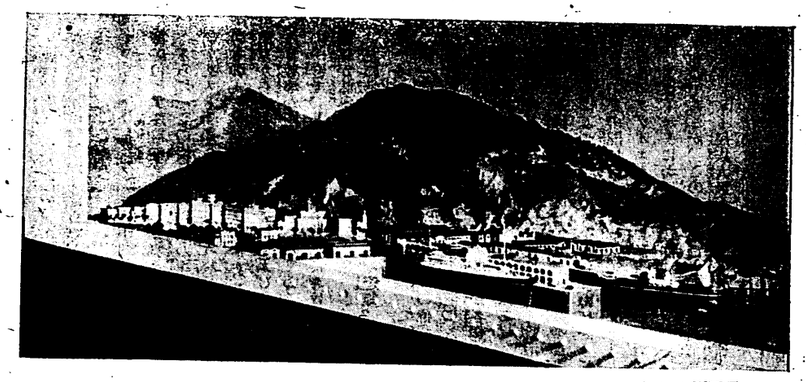
それから順次、イギリス、アメリカ、ポーランド、フランス等々の部を過ぎると、所謂世界旅行は出來ても特に志をたてねば、足を踏み込むことの出來ぬアフガニスタン、イラン國などがまた異つたカラーをただよはせて妻を並べてゐるのに目を奪はれる。

最後の室に

これ等の資料がすべて本國で飾付けられ、日本に著けばそのまゝ配列すればよいように仕組まれて三月六日ナポリ發のビクトリヤ丸で政府派遣の專門員が一人つきそつて船出した要意周到さであるのだから只驚くの外はない。

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



港灣大パノラマ

近代科學の「王座をゆく」

遞信室の偉觀

實物に配する大パノラマ等

◇……交通館の第一室……◇

朗らかな郵便

集配手さんが二人――『さア、いらつしやいッ』と愛嬌滿面でお迎えしてゐる遞信門を入ると、すぐ左り手に明治初年風景を背景として、日本最初の書狀集函二個が陳列されてゐます。各室は遞信博物館を主體に、遞信省關係の各局が、腕に捲りをかけて、名プランを持ちよつて出來上つた『遞信室』です。

飛躍の時代から、無線科學の現代まで、遞信事業發達七十年を、入場の皆さんにお見せいたします。

遞信室は全部がAからD室まで七部屋に分れてゐて、各室を通じて部屋の裝飾はパラペットの張りで、澄み渡つた五月の空のやうな彩色で、上部に赤く遞信マークを現し、金の鈴をあしらつた船室の體裁で、デッキの欄干によつて、出品を眺めるといふ意匠です。

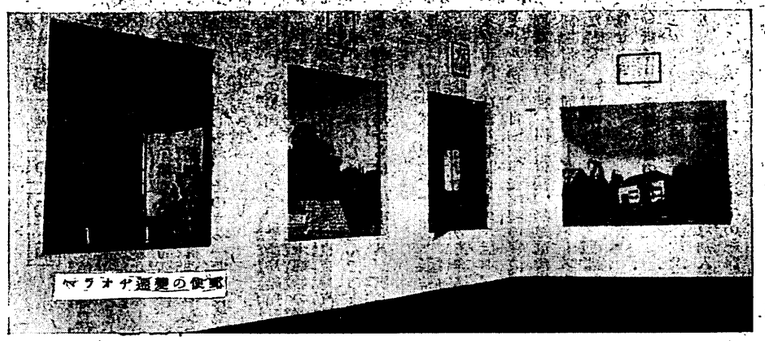
まづ、第一、二室は、遞信事業の發達を語るディオラマ十六景で、その場面は

第一場面　德川時代の問屋場及び本陣の模樣が手にとるやうに見られます。

第二場面　安政元年ペルリが來朝して、幕府に寄贈のエムボッシング、モールス電信機を横濱で實演してゐるところです。

第三場面　大阪淀花に設置の川口電信機局です。

第四場面　明治二年八月、横濱燈明臺役所と横濱港救判所間に電信線を架設して指揮機を裝置して、專ら官用遞信をやつてゐます。



第五場面　同年十二月、横濱、東京間に公衆通信の取扱ひが開始されました。

第六場面　明治四年三月、東京、大阪間に新式郵便を實施して、兩地に『郵便役所』を置き、書狀賃錢切手（郵便切手）四十八文、百文、二百文、五百文の四種を發行しました。

第七場面　横濱にはじめて『横濱郵便局』が開設されました。

第八場面　明治十年二月、萬國聯合郵便條約に加盟して、六月から實施されました。これで、日本もやつと肩身が廣くなつたといふものです。

第九場面　明治十六年頃の郵便現業の實況です。

第十場面　明治廿三年十二月、東京、横濱間に『ああモシ〳〵』の電話が開通されました。

第十一場面　明治廿七年六月、日清戰役によつて、軍事郵便の取扱ひが開始されました。

第十二場面　明治卅八年七月、朝鮮通信事業を帝國政府に引繼ぎ內地と共通の過信制度が布かれました。

第十三場面　明治四十五年四月、三重縣島羽で無線電話による公衆通信の取扱ひを開始しました。

第十四場面　昭和五年、航空郵便場開高くが開始されました。

第十五場面　昭和九年八月、日滿間に始めて國際電話が開通しました。

第十六場面　昭和十一年八月、秩父丸によつて、船舶無電話が開通されました。

これだけ見終つて、O室に入ると、ここは遞信省電氣試驗場が中心となつて、電氣科學の精粹を集めて、

電氣文化を

高揚したもので、水銀避雷器の實驗場面は、電氣仕掛で、稲妻がピカ〳〵と光つて落雷……水銀避雷器の活躍をディオラマで見せてゐます。

「無騷音扇風器」は、音のしない扇風器で家庭の實用品としても「これはいい……」と感心させられます。

「電氣淨油機」汚れた油類を電氣裝置で淨化するもので、機械工場等の關係者は見逃せません。

このほか、淨水裝置の實演であるとか、新聲事堂に取付けてある「周波數遞減裝置」のベルであるとか、宮眞術擊電壓發生裝置、放送離取用受信機十一臺、小型眞空管、バザルト製品、錯酸鐵維素電線など、いづれも、見ごたへのあるものばかりです。

D室は大場面のパノラマで、燈臺、管制關係を入場者に容易に理解させるために、島を配しました。

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

海洋の場面

で、左手に埠頭とビル街を配し、第四等二連閃光燈臺の實物を置き、遠景の燈臺模型とともに、晝夜二段點滅によつて燈臺の變化を示したもので、埠頭の各船舶模型は夜の場面では、航燈、檣燈、船尾燈、船室などに、眞珠のやうな電燈がパッと點じられ、そのうち一隻は電氣仕掛で場面の海洋を航海します。

面白いこの場面をめぐつて、管船局船舶試驗場出品の船舶具をはじめ、日本郵船の靖國丸、その他、東洋汽船の宇洋丸、東京灣汽船の橋丸外二隻の美くしい模型が並んでゐます。また、横濱燈臺局からは、燈臺器具が出品されてゐます。

E室は電信、電話關係の陳列で、遞信省工務局と中央電信局の出品です。その內容は、東京市內及び市外電話ケーブル標本、電信ケーブル標本、自動交換機模型の實演、和文印刷電信機孔機、同送信機、無線電信機孔機、同送信機、同レコーダー、同タイプライターなどで、實演によつて、電信、電話を興味深く見せます。

G室は日本放送協會の陳列で

豆電球應用の全國放送網、海外放送系統圖、世界ラヂオ普及狀況、我國線吸加入者數累年增加曲線、放送から受信までの經路を示す系統圖、

などのほか、ラヂオ、ニュース寫眞や實物で、は、送話器、高壓器の種類、實驗ものとしては『再生障害』の實驗や放送から受信までの系統を示す實驗など、凡そラヂオ文化は、ここで滿喫出來ます。

G室は貯金局、關係のもので、貯金局原案によるヂオラマ十場面に電氣點滅圖表を壁面四面に製作展示した豪華なものです。

このほか、D室の入口にスクリーンを設けて自動廻轉幻燈器により世界大都市の郵便局を寫寫として、十八場面を映寫してゐます。また、自動切手販賣機と、D型自動押印機を据付けて、實演もやつてゐます。

寫眞と圖表は世界各國に亙つて、各種各樣のものが蒐集陳列され、有益な參考となります。さらにまた、全國好事家の間に人氣を呼んでゐるものに、遞信省發行の歷史的記念スタンプの模造複製があります。

歷史的スタンプ 再現される

遞信省の試み

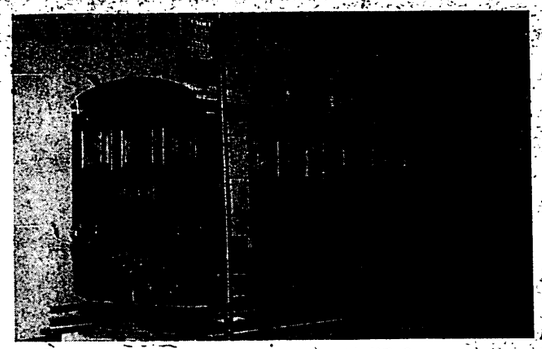
スタンプの初まりは、明治三十五年六月の萬國郵便聯合加盟廿五年祝典記念スタンプですが、爾來、今日までに發行されたスタンプは三百餘種に上つてゐます。このうちには、畫期的スタンプも多數ありますが、發行當時押捺蒐集の機を逸した蒐集家のために、歷史的意義ある左記廿三種類を選定して、集印帳其の他に希望に應じ、無料で押捺し好評を博してゐます。

萬國郵便聯合加盟廿五年祝典記念、明治卅八年飢旋觀艦式記念滿洲軍總司令部飢旋記念、明治卅七、八年戰役陸軍飢旋觀兵式明治卅七八年戰役海軍記念日同陸軍記念日、國際無線電話開始記念、大正天皇即位大禮記念、大正大禮觀兵式記念、憲法發布卅年記念、奠都五十年記念、平和記念、第一回國勢調査記念、鐵道五十年祝典記念、第六回極東選手權競技大會記念、日本赤十字社創立五十年祝典記念、今上陛下即位大禮記念、航空郵便開始記念、第九回極東選手權競技大會記念、勅諚拜受五十年記念時局博覽會記念、日滿航空夜間遞送開始記念、航空郵便夜間遞送開始記念、遞信記念日制定記念

現代の極致から 空想の世界に遊ぶ

乘物の現實化

交通館の鐵道室



『あッ！』お母さん、トンネルがあるよ』坊やが喜んで、お母さんのお手々をひつぱつた。素敵に美くしいトンネルの門です。このトンネルを拔けたら、どんな陳列があるでせう？ お母さんも、坊やも、好奇の眼を輝かせて、いそいそとトンネルを駈け拔けました。

おお素敵 素敵！ まづ第一番に眼につくのが、アプト式電氣機關車の模型です。模型といつても、實物と寸分違はない一萬圓もするもので、釦を押すと自動式に機關が動くのです。

（坊やはすつかり喜んでしまひます。それから、清水隧道附近電氣機關車の運轉模型も、動的なものとして、喜ばれます。

關釜連絡の優秀船金剛丸 眼のさめるやうな奇麗な模型や、關門海底隧道工法の模型など、右を見ても、左を眺めても、見あきることのない出品ばかり。この部屋は、國鐵の現況と世界の大勢を現はしたもので、米國流線形列車のヂオラマを見ては、ちよつと、アメリカ大陸を旅行するやうな氣分も味はれるといふものです。

家賣車、活魚車、EF 5 2號電氣機關車の模型なども出てゐます。

寫眞と圖表も、

鐵道博物館 の人達が嚴選した逸品揃ひで內容は、山岳篇でエ、ホイ、ホイの箱根越えや、川どめちやくの大井川の繫塞渡しの錦繪さては、ロコモーション號、ロケット號、スチブンソンなどの寫眞、ペルリが持つて來た蒸氣車の模型寫眞——昔の蒸氣汽關車は、こんなものだつたかと、そぞろ、躍進文化の後が偲ばれます。

日本鐵道創始の功勞者である大隈、伊藤、井

I-0380

アジア歷史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

上三元號の寫眞、英人モレルの寫眞などいづれも、わが鐵道恩人の偉に接し、思はず知らず感謝の念が湧いてきます。

鐵道創業時代の資料として、

鐵道開通式圖、開通式外人スケッチ、時刻貨銀表、一號機關車、開通式外人スケッチ、時刻表號、新橋驛前鐵道馬車、圖產景況の機關車

三號蒸氣車

など、時代を語る寫眞があるかと思へば、昭和日本の鐵道文化を象徴するかのやうに食堂車、冷藏車、青函連絡貨車航送寫眞、アプト式圖表、ハンプヤード圖表、丹那トンネル、海底トンネル、省營バス、清水トンネル圖表、特急「富士」「櫻」の寫眞、今と昔の鐵道博物館の寫眞、デフセルとローターリーの除雪車の機構、

——といつた風に、所狭いまでに陳列されてゐます。

駅長、大正、昭和——三代の駅車座席の變遷の實物

を並べ、これを、入場者の休憩所に利用してゐます。

この部屋を出ると、次ぎは部屋一つぱいに造られた大場面、正面に山をあしらひて、前は海、ヂオラマ全體は、都市と田園の風景、そこに走る交通機關のさまく。

次ぎは『交通の躍進、年代繪卷』で、

交通發達の

勝を、順序を追つて、極めて、平易通俗的に陳列してあります。この部屋を見ますと、日本の交通發達史はたちどころに判ります。

まづ、最初は舊幕時代の東海道々中案を振り出しに、嘉永七年、ペルリが幕府に蒸汽車雛形を献上して、幕府の役人をアツと驚かせた次第から、明治二年に乘用馬車が江戸に現はれ、明治三年民部大蔵省に鐵道掛が置かれ、今日の

國鐵の種が

時かれました。それから以降、年代を追つて、鐵道掛時代、鐵道寮時代、鐵道局時代、鐵道廳時代、鐵道廳時代を經て、大正九年五月十五日鐵道省官制が公布され爾來今日までの幾度、變遷をヂオラマ、コメオラマ、モデル漫畫、文字の五つ通りに分けて百十餘場面で現はしてあります。

さて、第一室で國鐵の現況と世界の大勢を見、第二室で現代交通機關の諸相を眺め、第三室で日本の交通發達史を知られたわけですが、これだけでは、まだ、何かしら物たりなさを感じるものがあります。

未來の交通

機關についてわれ〳〵が、想像の世界に思ひを走らせて、いろ〳〵の乘り物を考へたのが第四室の「交通未來館」です。

奇想天外なこの『交通未來館』は、大人も子供も「う、うーん」と一驚するに違ひありません。

廿四時間で地球を一周する『地球目力超絲列車』——超高速飛行機の世界早廻り競爭どころの話ではありません。この列車は、地球の引力を絶縁して、一晝夜で地球を一周して、また、出發點に歸るといふのです。

「氣送管列車」——東京中央電信局あたりでは、東京市内の各局と電報報信紙を氣送管で送受してゐますが、これからヒントを得たのが、

氣送管列車

で、氣送管によつて、東京——大阪間を三十分位で飛ばせるといふのです。現在の旅客機も、超特急『つばめ』もなんのそのです。

「ベルト・ライン」——道路から、自動車や電車とそれ〴〵違つた速力のベルトが張かれて、人は、この上に乘りさへすれば、目的地へ達するといふ、便利調法な仕組です。

海產隧道

東京からハワイ、サンフランシスコへの海底隧道の完全、太平洋の海底には立派な海底都市が生れました。

太陽熱利用列車

太陽熱を利用して汽車を動かさうといふのです。

かうした場面が、ヂオラマによつて造られ、見るものをして、魂、天外に飛ぶ思ひをさせやうといふのです。

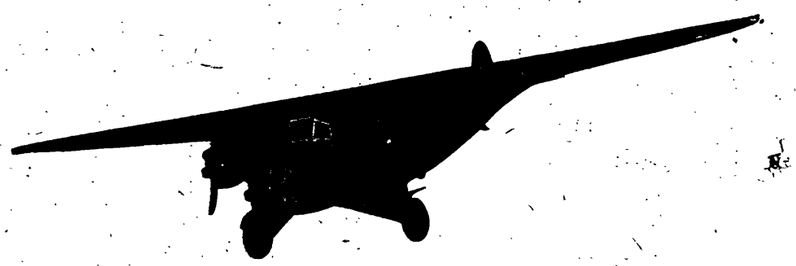
空想の世界から、足を第五室、六室に進めると、ここは、旅客、貨物、觀光の施設が、ヂオラマや圖表等で示され、觀光、日本を紹介してゐます。

旅客機の空を行く

——てつなと

地心

航空室の快



遞信室を出ると、氣分は一轉して、近代の空の觀兒『航空室』です。入口はグラス機の乘降口——『さア、みんなでたのしい旅客機のお客になります。左手には、各種飛行機の模型がずらりと並んでゐます。そこから鍵の手に廻轉式の航空歴史圖繪で、交通の今昔が一目でわかる。世界の空の翔けめぐる最新式飛行機の切り抜き模型が入り亂れて飛んでゐるのも壯快です。その間に、陸海軍貨下げの優秀寫眞をはじめ、航空寫眞の逸品が並んでゐます。

曲折鏡利用による飛行機用釜十場面をレコード利用で見せてゐますが、これが、大變人氣を呼んでゐます。ヂオラマによる高等飛行の各種場面、ポスター參考品、グライダーの實物、ブウ『雲雀』號の實物、日本航空輸送會社の出品になる『たのしい空の旅』の大壁面、ダグラス機の斷面圖、飛行機搭乘時代から最近までの發動機とプロペラの進歩の跡を實物で示してゐる。

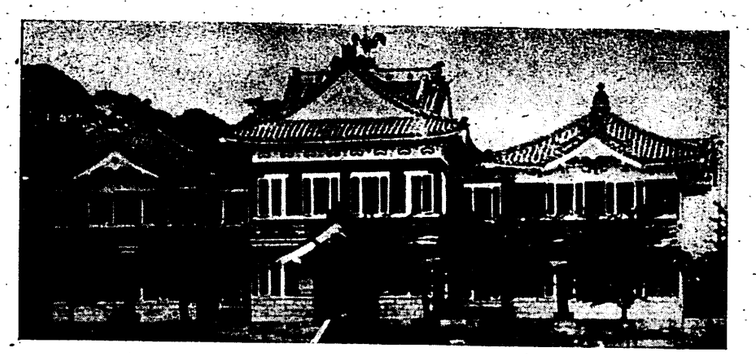
日本民間航空界における最初の機牲者武石浩波氏の遺品、航空機製造民間會社の優秀品、航空福食など——航空最新知識の寶庫です。

航空室を締る陸軍關係の出品物を一管すると、立川航空支廠から、空冷式發動機一臺、水冷式發動機一臺、プロペラ四本があり、陸軍航空本廠からは、愛國第一號、同二號、八八式偵察機、九一式戰鬪機、九二式戰鬪機、九三式輕爆機、同双發輕爆機、双發重爆機の優秀模型●飛行機針盤旋回指示器、高度計、滑油壓計、回轉計の出品がある。また航空本部からは、傾斜計・時計・滑油温度計を出品し、所澤飛行學校からは、明治四十二、三年頃に盛んに飛んだアルマン機の現物、發動機、坐席のほか、軍用機の發達を語る寫眞が八十四枚陳列される。

海軍側は國ク浦航空隊が優秀な寫眞二十葉を出品し、藤倉工業は氣球模型、落下傘模型、實物、飛行服を陳列するし、住友からは飛行機用金屬類を出品する。航空研究の門外不出の參考資料も研究的入場者には見て價値の高いものである。殊に同所出品の風洞模型機は精巧を極めてゐる。

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



◇……朝鮮は昨年始政廿五年の輝く祝典を終へて今や多幸に滿ちた來るべき第二の四半世紀を力強く踏出しつゝあるのです。總督府はこの躍進の意氣溢るる朝鮮の姿をそのまゝ「政治博」の一角に縮刷して內地の人々に一層の認識を深めさせようと多大の苦心を拂つたもので、この縮刷を一見すれば朝鮮が併合以來、いかに急速度の進展をなしまた現になつゝあるかを見ることが出來ます。

始政廿五年を經て
力強く踏み出した
—朝鮮の姿—

◇……まづこの館の呼物は鐵道局が最も力を注いだ朝鮮の乘物の變遷で、悠々街を練つたり超時代の婦人轎子、王の行幸、武官及び大官の騎旅等から現在の時速八十餘キロの快スピードを誇る自慢の超急行、廻に出る種々の乘物をヂオラマによつて示してゐる外、內鮮、滿を結ぶ急行列車時間の短縮されて來た狀況をネオンによつて面白くわかり易く見せてゐる。

◇……また一方には朝鮮特有の「火田民」が導かれて廣漠たる高原、燒野原を開墾してゐる北鮮開拓の狀況の展示をはじめ貧困に喘いでゐた朝鮮人農民が總督府の農村の振興運動によつて更生しつゝある有樣などを

◇……ヂオラマで如實に再現させ、また冬は零下四十度の酷寒に雄々しくも困難と戰ひつゝ國境を守る國境警察官の苦心、朝鮮名物としてあまりにもポピュラーな人蔘の生育狀況などの寫眞を陳列してゐる。

天産豐かに
惠まれた臺灣
臺灣館

入口は古風な臺灣建築式の門を設け、館全體を臺灣の家とし、庭下は特に停仔脚と呼ばるゝ臺灣家屋の外廊にしつらひ、場內には海を渡つて臺灣から特に送られた委託の各出品を意匠こらして陳列、

臺灣の大觀　を展示するものは、まづ大觀面に金島の大島嶼圖を掲げてその金鶏な一目にわからせる、總督府の舊廳舍と現廳舍、醫學教育所と臺北帝大、舊臺北市街と現市街、新式製糖工場その他が特に興味をひいてゐる。觀光局からの出品は、衛生と現狀に分け、前者には蛇の害毒とこれが豫防法並にマラリヤ防遏狀況を、後者には領臺前後の蕃人の生活狀況を、パノラマを以て對比し、寫眞、數字をもつて蕃人の進歩狀況を示してある。

文教局の出品　は領臺前の所謂寺小屋式の書房と、現在の學校々舍をパノラマ式に表示するもの。專賣局からは煙草、食鹽、樟腦、酒の各種專賣品を種類別に出陳し、交通局としては觀光、地寫眞、回轉した臺灣鐵道の躍進の跡を示したもの。

一、本島觀光地紹介の電氣明滅式大地圖及び觀光地寫眞。
一、動的設備により領臺當初、鐵道全通式、及び現在の三場面を巧みに

南と北が我の領土

三、基隆港の模型その他寫眞により港灣設備の進歩の狀態。
四、その他寫眞、資料及び圖表等による臺灣交通の發展の跡を示す、等の出品をなしてゐる。その他臺灣茶に關してサーロン、包種、紅茶等の各種現品を陳列してある。この外臺灣に民間會社として活動してゐる糖業聯合會、日石、青果、黃砂香料、臺灣興業、合同鳳梨等の各會社もそれ〴〵特色を並べて出場してゐる。

北の第一線
樺太の施政
歷史、觀光、產業の一般

◇……昨年八月、施政三十年を祝つた樺太、わが北進の第一線に樺々しき發展をとげつゝある樺太、その樺太を紹介する樺太館は小じんまりとしたものであるが政治博覽會の性質上最も內容の整つた出品といへるであらう。

館は歷史、觀光、產業の三部門に大別すると、

(一)歷史の部ではパノラマ、地圖、寫眞、文獻等によつて探檢時代から日露戰爭、國境畫定と豐原の今昔（露治時代のウラヂミロフカと今日の豐原）——と時代順に展示されてゐる。

(二)觀光の部では、日本最北端の土人の生活と、最新時代產業たる人絹パルプ工場とが同じ空の下に展開される敷香地方の風景と、海豹島の壯觀群の二場面を大パノラマで描き出し、

(三)產業部門では、現代樺太の代表的產業たる石炭低溫乾溜、毛皮業、人絹パルプ（製造工程）、森林、水產等を實物、又はヂオラマ等で紹介してゐる。

外にツンドラの大きな斷層を場內に打立てゝ北地情緒を十分に溢らせ、さらにツンドラ加工品及樺太一般商工品を順序よく陳列してゐる。

I-0380

アジア歷史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

博覽會のレコード

地方館の出品

◇…六大都市と交通省の三府四十三縣が出てゐる。ニュを出すには

◇…大阪市は港と市の今と昔を対照させようといふわけ、ニュから六大都市館に入るのだがまづ

◇…港と市の今と昔を対照させようといふわけ、ニュから六大都市館に入るのだがまづ

◇…白はニュを出すとこの館の人は

◇…島は刷れば

◇…八幡は

◇…岡山は

◇…甘藷

◇…島は

◇…

◇…

◇…

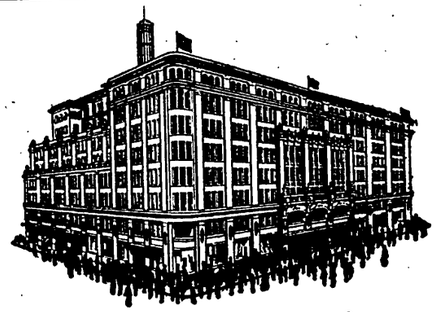
興隆日本の産業を
一堂に蒐めた協賛館

協賛館は會場に入ると先づ入口玄關の大廊下、貴衆議院の議場前から、ぐるりと同議場を取り卷いて一わたり、各出品者が思ひ〳〵の趣向を凝らしたケースが並んで、更に各館をめぐつて外國館を經つて階下へ來ると再び協賛館の第二部がずらりと並んでゐます。今その出品者別を左に列記すると——。

○堀井勝寶堂本店○鉛筆製作所○帝國インキ製造所○バイン裁縫機械製作所○武藏野鐵道株式會社○物心療法普及の會○オリエンタル寶眞工業株式會社○大日本製乳協會○西武鐵道株式會社○多摩湖鐵道株式會社○鹽野義商店東京支店○櫻印レンズ工業株式會社○日獨光線治療研究所○南武鐵道株式會社○住友金屬工業株式會社伸銅所○王子電氣軌道株式會社○久保電機製作所○湯旅の會○豐島屋本店○今村化學研究所○田中商店○井上商店○久保田工業所○淺沼商會○中山太陽堂東京支店○山田金庫店○壽商店○岡本理化學研究所○アキバ徽章商會○鈴木光學レンズ製作所○阿部宛名印刷機○京濱電氣鐵道株式會社○日本ステンレス株式會社○東京旅商工業組合○西川求林堂○國產興業社○めでた屋合資會社○京王電氣軌道株式會社○乾卵食料品東京支店（ラクトーゲン）○青梅電氣鐵道株式會社○小田原急行鐵道株式會社○東横電鐵株式會社○帝國ミシン株式會社○ポロン蓄音器株式會社○日本精機光學研究所○バイエル藥品合名會社○カード商會○西備鋼網株式會社○宮坂商店○駿豆鐵道株式會社東京營業所○巴商會○新田帶革製造所東京出張店○日本特許水壓機製作所○日本石油株式會社○小林ライオン齒磨本舗○わかもと本舗育兒の會○內外徽章製作所○東京中形振興會○富士寫眞フイルム株式會社○富國徵兵保險相互會社○北里研究所○玉村工務所○東京瓦斯乘合自動車株式會社○地下鐵○川崎電氣工業所○エンプレスベッド商會○日本醸造工業株式會社○松風工業株式會社○東洋徽章製作所○德田ラヂオ店○竹馬商店○東洋化學工業所○國際通運株式會社○篠田鉛木商○帝國電蓄株式會社○中央理化工業株式會社○濱崎多喜治○日東紡績株式會社○瀨山鉛木商○吉川鉛木商○東京ミシン製造株式會社○經濟雜誌ダイヤモンド社○鮫島商會○ブラジルコーヒー宣傳本部○花王石鹼株式會社長瀨商會○日本ビクター蓄音器會社○文天堂萬年筆店○小林腦行○王輪社○青木マーク製作所○朝鮮總督府獸疫血清製造所○相本染工所○和漢藥同業會○日本遊覽協會○カガシ化粧品本舗○東京綱材株式會社○降矢商店○關東織物同業組合（伊勢崎、足利、桐生、八王子、秩父、佐野、青梅、飯能、村山、北都留、南都留、館林、所澤、津久井）○小西六商店○原口電機製作所○總武鐵道株式會社○大日本ビール株式會社○合資會社後藤商店○東京電氣株式會社○東京灣汽船株式會社○足立藤兵衛○帝國製絲株式會社○シイベルヘグナー○澤田合名會社出張所○堺左衆廣本店○河又醬油株式會社○木村製藥所○日本鋼管株式會社

◇賣店

○東京織物小賣商同業組合○濱崎多喜治○青木千代太○日本郵便趣味協會○森武晴○川口仙太郎○江戸川工業所山北工場○木下敬之助○官報販賣所○松方商會○小川直司○足立藤兵衛○後藤豐次商店○東京土產品協會○エトアールレストラン



よろづ
御買物は
皆様の高島屋へ

高

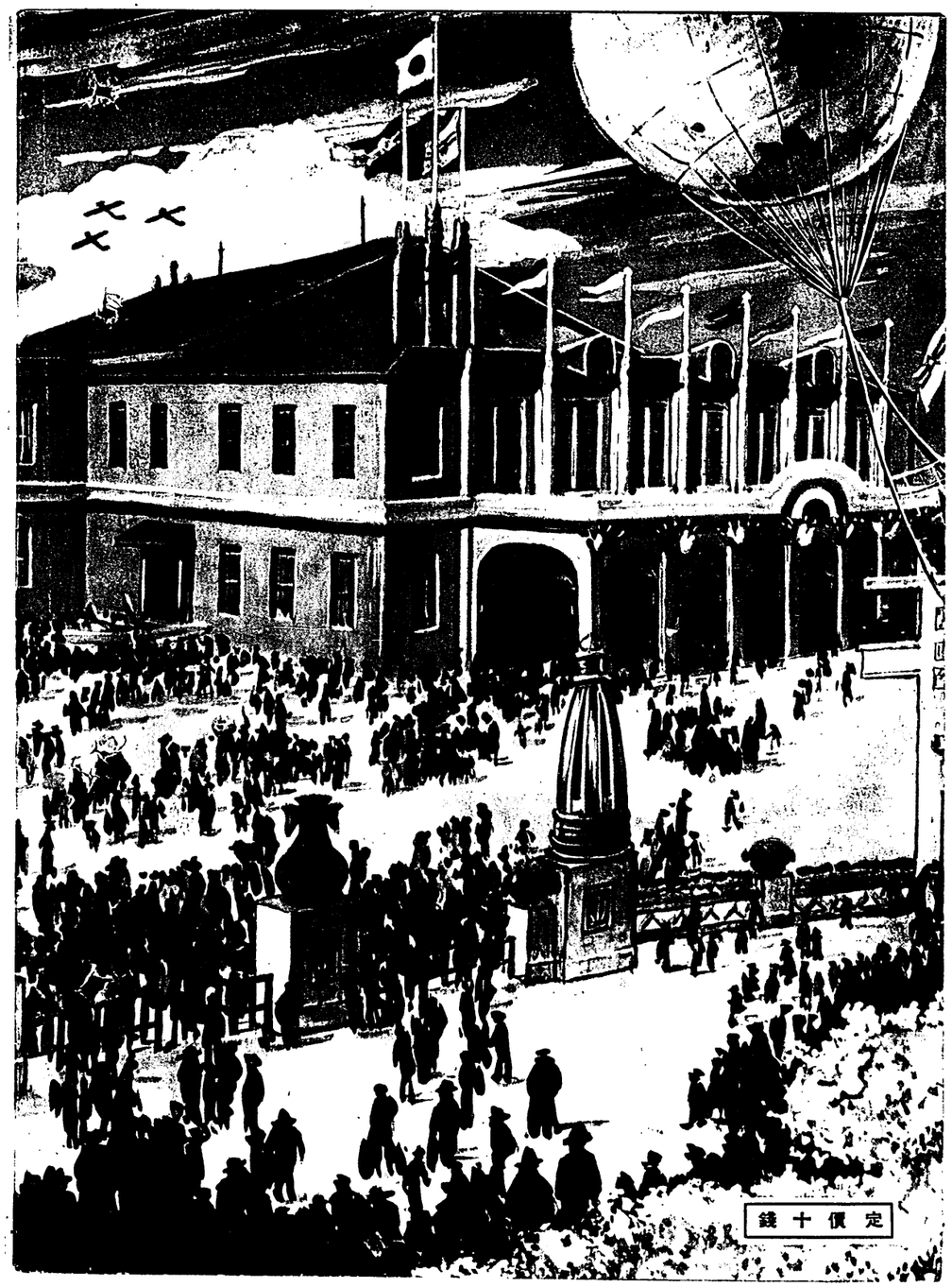
東京・日本橋
高島屋

御來店には…
省線…東京驛八重洲口
市電…日本橋又は通三丁目
バス…日本橋高島屋前
地下鐵…日本橋高島屋口

編輯兼發行人 社會文化研究所 八百町藏 大阪川口小市京京 所印刷所 社團朝日日京京 內の丸區町 能市京京 所印刷 所行發 藤馬利 人行發印刷所發 行發日一月四年二十和昭 本納印刷日八十二月三年二十和昭

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

感謝狀

梨本宮殿下ヲ總裁ニ仰キ奉リ今般東京日日新聞社大阪毎日新聞社主催ノ下ニ明治維新七十年新議事堂竣成ヲ記念シテ「政治博覽會」ヲ開催シタルニ貴家所藏ノ逸品出陳ヲ得タルハ本會ノ光榮トスル所ニシテ茲ニ會ヲ閉ツルニ當リ感謝措ク能ハサルモノアリ謹ミテ厚ク謝意ヲ表ス

昭和十二年五月二十日

政治博覽會々長
法學博士 岡 實

外務省殿

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

次官

情報部長

第一課長

第三課

欧亜局長

日々新聞政治博覧会ニ「シムプソン」夫人ノ蠟人形陳列ニ関スル件

十六日午后在京英国大使館「テウイスン」参事官ニ対シ謝辞ヲ述ベ

本日ハ小田題ニテ御願ニ来タルガ実ハ昨日ノ日々新聞ニ会社ノ政治博ニ「シムプソン」夫人ノ蠟細工人形ガ陳列セラルベキ旨ノ

外務省

記事アリ。御承知ノ通リ「シムプソン」夫人ハ世界ノ話題トナリ今更ニヲ隠ス迄モナキ次第ナルガ今夫人ノ等身像ガ博覧会ニ陳列セラルヽ事ハ英国前皇帝御退位ノ経緯モアリ英国大使ニトリ其方面ニシテ「ハンド、テースト」ナリト考ヘラルヽニ付外務省ノ斡旋ニ依リ「シム夫人像ノ陳列ヲ思止マラシムル事ヲ得バ幸ナリト考フル次第ナリ。

外務省

I-0380

今一社ノ博覧会ニハテハ次官ヨリ大使ヘ援助方依頼セラレタルヲ以テ大使館トシテモ出来得ル事ハナシ援助シタキ考ナルガ、人ニ社ノ者ト直接話シタルニ「シルクプソン」夫人ノ像ハ英国ノ帝ニ陳列セカルニ付可ナラスヤト云フ話ニテ断念ノ模様ナカリシガ何トカ御尽力願ヘマセカヤト云ヒ右ニ対シ將来御相談ヲ御話ハ良ク了解シタルガ本件ハ情報部トモ協議ノ要アリ自

外務省

今トシテハ大使ノ御気持ハ早速上局ニ傳達シ出来ルダケノ事ハ致スベシト御答スル以外ニハ今直ニ日々側ニ対シ如何ナル措置ヲ執リ得ベシトモ申上ゲラレカルガ、此ノ人形カ既ニ倫敦ニ於テ陳列セラレ居ルニ不拘外国ニテハ不可ナリトセラルン点ハ新聞社側ニ対シ了解シ得ストノ口実ヲ与フル損レナナヤト質ネタルニ「デハ「倫敦ニテハ「マダ、ツーソー」博物館ニ陳列

外務省

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

セラレタルガ英国ニテハ最新ノ事実ニテ外
国ニ於テ斯ル像ノ陳列セラルヽハ稀ナリト
遺憾ニ感ズル所ナリト答ヘ又本件協議
次官ノ通牒ニモ入レラレタシト依頼シタリ。

（合衆人ノ事ハニテモ得サルモ）

外務省

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

情報部
第一課長
オ二課長

二十九日英国大使館ノテウイスレ警部官他
用ニテ欧二ヶ月滞在ヲ来訪セル際ヶ月滞在ヲ
リ之般情況ノアリタル日ヶ新聞政治博ニ
ツシンプソン夫人人形陳列ノ件ハ情報部ヲ
リ日々倒ニ注意シ再考ヲ求メ置キタルカ
日々倒ニテハ断念シ得ス直

外務省

遥か海を越えて

世界話題人登場

現代世界の三大人物――大英帝国首相ボールドウイン氏、ナチスの獅子者ヒットラー氏、ファッショのイタリーの首相ムッソリーニ氏と獅子吼して大英帝国の王冠を揺がしたシンプソン夫人がわが政治家の「政治博」を見がけて目下太洋の彼方を渡つて日本へむけ航行中である――来朝らしいこの快ニュ

政治博に異彩

ツウソー"博物館が"偉大なる形影"提供

株式会社が「政治博」のため図に巻りをかけ同社美術部主任E・Mホワイト嬢が監督して制作した精巧を極めた等身大のもので、今とも観衆に呼びかけ、手をあげ、口を開くのではないかと思はれるほど眞に迫つてゐる夜會服姿のシンプソン夫人、お馴染の片手を上げて大衆に呼びかけるヒットラー、ムッソリーニ両氏、さらに大政治家の風ぼうせるボールドウイン氏と世界の世界人が四人うち揃つて「政治博」の一室に現れる、だから人気はいやが上にも沸騰するであろう

マダム・ツウソー博物館はロンドン名所の一つで創設者の名をとのまゝとつて名づけたもので、ツウソー夫人は編細工の天才として十八世紀中葉フランス皇室の寵を受け一八〇二年ロンドンに移住し人形館を設け、一八五〇年九十歳で歿した、その後子孫がこれを継ぎ現在に至つたものである

石造り三階建の館内には等身大の二千に近い編細工の古今東西の英雄、偉人が顔揃としてをり、ロンドンに遊ぶ外客は必ず一度はこの門をくぐるといふ名物だ

パリに於て貴族の人物をそのまゝの蠟人形を作つて評判をとつてゐた、今でいへばニュース映画の役をしてゐたわけです、しかし革命におそれをなしてその蠟人形を持つてロンドンに逃れた、逸仙がこの館を訪れ例刊してゐる自分の像に見入つてゐたら隣人といふ逸話があるくらゐだ、日本人では日露戦争の時の陸海軍諸の時の者規代表たちがあるまアそれは素晴らしいもの

正宗つね子夫人談

私が見たのは一九三〇年頃の話で少し古びてはいますが兎に角無くてはかり精巧なものです、うつかりして人形に話しかけ気がつかへつと顔を赤らめる人がよくあるさうです「政治博」へ来たら人気を呼ぶこと疑ひなしですわ、注行しなくて有名なツウソー博物館気分が味へるのですもの

木村緑氏談

それは百年前ツウソー夫人は百七十年程前スイスに生れた人でフランス革命當時

寫眞説明

【上】マダム・ツウソー博物館と故ツウソー夫人【下右から】シンプソン夫人、ボールドウイン首相、ムッソリーニ氏、ヒットラー氏

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

接貴大使館側ニテ了解ヲ求ムベシトノ事
ナリシ趣ナルガ其後何等カ話アリタルヤト質
ネタルニ ツテレハ
一日ヒ側ヨリ話アリタリ、了解ヲ与フル訳
ニハ到底行キ難ヌルモ大使トシテ別ニ他ノフス
ナップレヲ執ラル、考ハナキ模様ナリ、新聞ノ
事ナレバ致方モナキカト考ヘ居レリト語リ
居タリ

外務省

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

J.No.69.P.3.

Tokyo, January 30th 1937.

My dear Minister,

I had the pleasure to receive your letter of the 22nd inst.regarding the Exhibition of materials of political and diplomatic interest, projected by the Tokyo Nichi-Nichi Shimbun, and by which you were good enough to ask me to have the matter attended to.

In reply I beg to say that the Legation is not in possession of much material of this kind, but that I shall be glad to do my best in order to have a documentary exhibition arranged as far as my country is concerned. Of this I had the pleasure to inform the representative of the said newspaper, who called on me yesterday.

I remain, dear Minister,

Yours very sincerely,

Rud Berbuch

His Excellency
Monsieur K.Horinouchi,
Vice Minister of Foreign Affairs,
Tokyo.

THE GAIMUSHO
TOKIO

January 22, 1937.

My dear Minister,

I have been solicited by the Editor of the Tokyo Nichinichi Shimbun to approach your Excellency with a request for your good offices in the following matter. I understand that you have been informed of an exhibition that will be held under the auspices of the said newspaper from April 1 to May 20 at the old Diet building, and that an appeal has been made for a loan of materials of political and diplomatic interest that you have in possession or access to.

The project, as explained to me, appears to be of such value and interest that I wish to help make it a success.

I should be greatly obliged if you would be so good as to have this matter attended to without too much trouble to you.

I remain, my dear Minister,

Yours very sincerely,

(for the Vice-Minister of Foreign Affairs.)

S. Exc. M. le Dr. Ricardo Rivera Schreiber.

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

The Tokyo Nichi-Nichi

TOKYO, JAPAN

THE BRAILLE MAINICHI (WEEKLY) | THE OSAKA MAINICHI JAPANESE DAILY EDITION | THE TOKYO NICHI-NICHI JAPANESE DAILY EDITION | THE TOKYO NICHI-NICHI & OSAKA MAINICHI ENGLISH DAILY EDITION

TOKYO, January 16, 1937

Your Excellency:

As it is announced already through our paper, the Tokyo Nichi-Nichi is sponsoring a "Political Affairs Exhibition" at the historic former Diet building. The exhibition will open on April 1 for 50 days, until May 20. Our project is not only being greeted with gracious approval of Imperial Princes, but winning hearty support of the leaders in official and private circles, including the Premier and Foreign Minister. Needless to say, we are pushing forward, determined to make the exhibition one of our biggest enterprises of the year.

The exhibition will have a department especially for data and displays concerning political affairs in foreign countries. Our earnest desire is to make this department as instructive and truly representative as possible of political development in other countries. Through this letter, we beg for Your Excellency's kind cooperation in making our project a success.

We have assigned several representatives to call on you personally for advise and guidance in lining up valuable exhibits. If Your Excellency will kindly assist us by furnishing interesting material such as photos, posters, and other educational items of political interest relative to your esteemed country, we shall appreciate it very much.

Very truly yours,

The Tokyo Nichi-Nichi

Per

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(分類 I 1.6.3.2.)

之

February 22, 1943

(Minister,)

My dear Ambassador,

~~Permit me~~ I have been solicited by the Editor of the Tokyo Nichinichi Shimbun to approach your Excellency with a request for ~~an assistance~~ your good offices in the following matter. I understand that you have been informed of ~~that~~ an exhibition that will be held under the auspices of the ~~Tokyo Nichinichi Shimbun~~ said newspaper from April 1 to May 20 at the old Diet building, and that ~~a request~~ an appeal has been made for a loan of materials of political & diplomatic interest that you have in possession or access to.

The project, as explained to me, appears to be of such value and interest that I wish to help make it a success.

I should be greatly obliged if you would be so good as to have this matter attended to without ~~putting yourself out of the way.~~ too much trouble to you.

~~Availing myself of this opportunity, I wish to assure your Excellency of my very high esteem.~~

I remain, my dear Ambassador, (~~Minister~~)

Yours very sincerely,

for the Vice-Minister of Foreign Affairs,

次官

情報部長宛

貴方ノ照会ニ付別紙書翻ヲ社京外国大公使ニ送付シ而シテ外務大臣ヲ為大公使宛右依頼方申出ノ公文送付ヲ希望シ来リタル旨ヲ以テ御指示ヲ

大臣ヲ為シ右ノ旨ニ付内諾ス

大臣ヲ為シ右ノ旨ニ付内諾ス

次官自身ハ本件ニ関係セサルヲ以テ左ノ如ク

代理署名ニテ出スコトトシテ一切

I-0380

EMBASSY OF THE
UNITED STATES OF AMERICA
Tokyo, January 25, 1937.

My dear Mr. Horinouchi:

I have received the letter of January 22, 1937, signed for you by Mr. Tashiro, requesting my good offices in obtaining a loan of material of political and diplomatic interest for the exhibition to be held under the auspices of the Tokyo NICHI NICHI commencing April 1, 1937.

I have already been in communication with Mr. Takaishi, Editor-in-Chief of the Tokyo NICHI NICHI, and have informed him that the only material in the Embassy which might prove to be of interest consists of photographs of the President and one or more ex-Presidents and Secretaries of State; that anything of historical interest in the Embassy which would have been available in a mission dating so far back as ours was destroyed in the earthquake and fire of 1923; and that

His Excellency
Mr. K. Horinouchi,
Vice Minister for Foreign Affairs,
Tokyo.

that in the short time between now and the date the exhibition is to open I did not think it possible that the Department of State could obtain anything of value. I also informed Mr. Takaishi that I should be glad to talk over the matter further with him or his representative and to show the photographs available.

I am, my dear Mr. Horinouchi,

Very sincerely yours,

Joseph C. Grew

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

AMBASSADE DE BELGIQUE

Tokio, January 25th, 1937.

Dear Mr. HORINOUCHI,

I thank you for your letter of the 22nd. inst. by which you have kindly informed me that the exhibition to be held by the Tokyo Nichi-Nichi, from April 1st to May 20th deserves due consideration.

Owing to the very short delay available, I have already written to Brussels in order to obtain documents which may suit the purpose of the exhibition.

I earnestly hope that the documents will arrive in time and thus contribute, according to your wish, to the success of the exhibition.

I remain, dear Mr. Horinouchi,

Yours very sincerely

Baron Lambermont

Mr. Kensuke HORINOUCHI,
Vice-Minister of Foreign Affairs.

TOKIO.

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

I-0380

LEGATION DE SUISSE
AU JAPON
IX.B.9. h.

Tokyo, January 25th 1937.

My dear Mr. Tashiro,

I have the honour to acknowledge receipt of your letter of the 22nd of January concerning the "Political Affairs Exhibition" arranged by the Tokyo Nichi-Nichi Shimbun at the former Diet building, from the 1st of April to the 20th of May. I have indeed been approached by Mr. Shingoro Takaishi, the Editor-in-Chief, and promised to take part in the exhibition. As I explained to Mr.Toshio Nagano, Staff Correspondent, who called on me on the same subject, it will be impossible for us to write home and to get the necessary material in time for the exposition, but as the Gaimusho recommends this exhibition to me, I shall endeavour to do whatever I can, based on the documents at my disposal.

I remain

Yours very sincerely,

Minister for Switzerland.

Mr. Shigenori Tashiro,
Chief of the 3rd Section,
Information Bureau,
The Gaimusho,
Tokyo.

POSELSTWO
RZECZYPOSPOLITEJ POLSKIEJ
W TOKJO

LEGATION
OF THE REPUBLIC OF POLAND
TOKYO

Nr.340/J/3.

Tokio, January 25th, 1937.

Dear Mr.Tashiro,

In reply to your kind letter dated the 22nd,inst. I have the pleasure to inform you that this Office will do its best in order to help the Nichi-Nichi in organizing the Polish Section at the Political Affairs Exhibition.

Up to the present moment we have, however, no information what kind of material the organizers of the Exhibition expect us to lend them. As the time of the Exhibition opening is rather short, I would be glad if you could approach them to supply this Office with more particulars.

I am, Dear Mr.Tashiro,

Yours very sincerely

/J.TRAWINSKI/
Chargé d'Affaires a.i.

Mr.Shigenori Tashiro
Ministry of Foreign Affairs
Tokyo.

Drukarnia Państwowa 69113

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

LEGATIUNEA REGALA A ROMANIEI,

January 25, 1937.

Dear Mr. Tashiro:

I wish to acknowledge and thank you for your kind letter of January 22nd in which you call my attention to the proposed exhibition to be held under the auspices of the Nichi-Nichi Shimbun from April 1st to May 20th in the former Diet Building.

Allow me to say that I have read your letter with considerable interest, and if I find that I am in possession of such material as is desired for this exhibition I shall be happy to put it at the disposal of the sponsors.

I have already written to the Managing Editor of the Nichi-Nichi Shimbun asking him for a more detailed account of the nature of the material he wishes so that I shall be able to comply with his wishes.

I am always eager to avail myself of any opportunity which will serve as a means of developing and furthering the friendly relations which so happily exist between our two countries.

Believe me, I am

Yours very sincerely,

Florescu

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

Ambasciata di S. M. il Re d'Italia

N. 54 Tokio, le 26 Janvier 1937

Cher Monsieur,

J'ai reçu avec plaisir votre aimable lettre du 22 courant, de la part de S.E. M.Horinouchi.

La Direction du journal "Nichi-Nichi" m'avait informé, il y a quelques jours, de son intention d'organiser une "Exposition internationale documentaire de questions politiques" dans l'ancien Palais de la Diète, du 1er Avril au 20 Mai de l'année courante. C'est avec plaisir que j'apprends l'intérêt que le Ministère des Affaires Etrangères porte à cette question.

Je partage, en effet, votre opinion sur l'utilité d'une pareille initiative, et j'avais déjà exprimé à la Direction du "Nichi-Nichi" l'intention d'apporter mon concours à la meilleure réussite du projet.

Il m'est partant bien agréable de vous informer que mon Gouvernement vient de me télégraphier son entière sympathie envers l'Exposition dont il s'agit, à laquelle je ferai parvenir, à titre de prêt, le matériel documentaire le plus approprié.

Veuillez agréer, cher Monsieur, les assurances de ma considération bien distinguée et de mes sentiments les meilleurs.

L'Ambassadeur d'Italie

Auriti

Monsieur Shigenori Tashiro
Chef de la 3ème Section
du Bureau d'Information
The Gaimusho

TOKIO

I-0380

Tokyo, January 26th. 1937.

PERSONAL

Dear Mr. Tashiro,

I have received with great pleasure your letter of January 22nd, on behalf of H.E. the Vice-Minister of Foreign Affairs, concerning the exhibition to be held at the old Diet building, under the auspices of the TOKIO NICHI-NICHI, from April 1st until May 20th.

I shall be very glad indeed to contribute all the material at my disposal, of political and diplomatic interest, to the promoters of the said exhibition, thus responding to your request.

Very sincerely yours

P. Shiro Yoshida

記

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

LÉGATION DE SUÈDE

Tokyo, 27th January 1937.

Dear Mr. Tashiro,

With reference to your letter of the 22nd instant addressed to H.E.the Swedish Minister I have the honour to inform you that Dr.Hultman has left his post as Swedish Minister in Tokyo on the 31st December last and is therefore unable to extend his assistance in the way you suggest. His successor will not arrive for some time yet.

I have already informed the Editor of the Tokyo Nichi-Nichi Shimbun of the above and expressed my regret that the Legation under these circumstances will be unable to give him the assistance he has requested.

I am dear Mr.Tashiro,

Yours very sincerely,

Chargé d'Affaires.

Monsieur Shigenori Tashiro,

The Gaimusho,

Tokyo.

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

Deutsche Botschaft.

Tokyo, January 28th, 1937.

Your Excellency,

His Excellency the German Ambassador who actually has been taken ill, has charged me with reference to your letter of the 22nd inst. to thank you for kindly having informed him of your interest in the exhibition arranged by the Nichi Nichi Shimbun. This project has been already thoroughly dealt with by this Embassy and every support has und will be given to the Nichi Nichi Shimbun in order to prove the forthcoming exhibition a success.

This Embassy has already approached the Berlin authorities in order to furnish exhibits for the said project, which I hope will arrive in due course.

I remain Your Excellency's

very sincerely

Dodd

His Excellency

the Viceminister of Foreign Affairs,

Tokyo.

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

LEGACIÓN DEL PERÚ

January 30, 1937.

My Dear Vice-Minister:

Thank you for your very kind letter of the 22nd. instance, in which you were good enough to request my help in making a success of "The Political Affairs Exhibition", to be held from April 1st. to May 20th. next under the auspices of the "Tokyo Nichi-Nichi" at the old Diet building.

I very much appreciate being asked to help indeed, and shall be very glad to comply with your request. Having very little material at my disposal I have written to my Government and we shall do our best to take part, and make a success of the "Exhibition.

Unfortunately, there is one drawback which may prevent our participation at this time. There is only one direct Steamship line between Japan and Peru which has boats calling only every month or so, and they take around 45 days from port to port. Thus Peru's participation in the Exhibition

LEGACIÓN DEL PERÚ

depends solely on having a boat available in time; which I sincerely hope will be possible as it will avail this Legation to contribute to such a valuable and interesting Exhibition which will strongly help to bring about a better knowledge and friendly understanding between our countries.

With best wishes and regards,

I remain, my dear Vice-Minister,

Yours very sincerely,

Ricardo Linares Schreiber

Peruvian Minister

His Excellency Mr. Kensuke Horinouchi,

& & &,

T O K I O.

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

BRITISH EMBASSY,
TOKYO.

30th January 1937.

(4/178/37)

My dear Vice-Minister,

With reference to your letter of the 22nd instant about the exhibition which is to be held by the "Nichi Nichi" during April and May next, I shall be only too glad, as I told you the other day, to do what I can in the matter of lending some suitable material, though I fear we do not have a great variety to choose from.

A representative of the "Nichi Nichi" has already been to the Embassy and has spoken about the matter to a member of my staff. He was informed that we should probably be in a position to lend some photographs and posters of possible interest, and he was asked to come again towards the end of February when further discussions would take place with regard to the articles which would be available.

Yours sincerely,
M. Clive

His Excellency
Mr. Kensuke Horinouchi,
H.I.J.M. Vice-Minister for Foreign Affairs.

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

LEGACIÓN
DE LA
REPÚBLICA ARGENTINA

No. 4 - M.N.E.

Tokio, le 30 janvier 1937.

情報部

Monsieur le Vice-Ministre,

J'ai l'honneur d'accuser réception de la lettre en date du 22 courant par laquelle Votre Excellence a bien voulu me demander mes bons offices concernant au prêt des matériaux d'intérêt politique ou diplomatique sollicités par l'Editeur du Journal Tokio Nichi-Nichi à cette Légation, et destinés à l'exposition qui aura lieu du 1 avril jusqu'à le 20 mai sous les auspices du dit Journal, dans l'ancien édifice de la Diète.

En assurant Votre Excellence que je serai très heureux de faire tous mes efforts à fin de satisfaire l'aimable demande, je La prie d'agréer l'expression réitérée de ma très haute considération.

Son Excellence

Monsieur le Vice-Ministre des Affaires Etrangères.

à Tokio.

I-0380

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

سفارت اعلیحضرت پادشاه افغانستان
در توکیو

Tokio, February 4, 1937.

No. 428

My dear Vice-Minister,

I have received your letter dated January 22, 1937, with which you have made me known that you have been solicited by the Editor of the Tokyo Nichinichi about a loan of materials to help them fpr the exhibition of the political affairs, that will be held under their auspices at the old Diet building.

I am very sorry that I have no such a kind of materials at hand, but if I had them, I would have, willingly, offered them. As a matter of fact, this kind of materials are in the possession of the Government, and it is not possible to be offered for the expositions out of the country.

You will be kind enough to let them know about the fact thus shown above and oblige me for the courtesy.

I remain, my dear Vice-Minister,

Yours Sincerely.

Habibullah Sagi

H. E. K. Horinouchi, Vice-Minister of the Foreign Affairs.

I-0380